

S e i j o U n i v e r s i t y

2023 ACADEMIC GUIDE

Faculty of Social Innovation

履修の手引

社会イノベーション学部

政策イノベーション学科 心理社会学科

※「電子ブックの使い方」はこちらを参照すること。
※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、
記載内容が変更される場合がある。
その場合、記載内容を修正するとともに、
LiveCampusU等で周知するので、必ず確認すること。

成 城 大 学

社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧

■ 学年暦

	日程等	行事
前 期	4月2日(日)	入学式
	4月8日(土)	前期開講
	5月20日(土)	振替授業実施(木曜日の授業を行う)
	6月3日(土)	振替授業実施(水曜日の授業を行う)
	6月23日(金) ※5時限のみ休講	全学総会
	6月24日(土)	振替授業実施(金曜日の授業を行う)
	7月17日(月)【海の日】	授業実施
	7月22日(土)	前期授業終了
	7月24日(月)～7月31日(月)	学期末定期試験期間
	8月1日(火)～9月20日(水)	夏季休業
後 期	9月21日(木)	後期開講
	10月9日(月)【スポーツの日】	授業実施
	10月20日(金)～10月22日(日) ※20日(金)、21日(土)は休講	四大学運動競技大会
	10月28日(土)	振替授業実施(金曜日の授業を行う)
	11月1日(水)	文化祭準備(休講)
	11月2日(木)～11月3日(金)	文化祭(休講)
	11月4日(土)	文化祭後片付け(休講)
	11月11日(土)	振替授業実施(月曜日の授業を行う)
	11月23日(木)【勤労感謝の日】	授業実施
	12月2日(土)	振替授業実施(水曜日の授業を行う)
	12月25日(月)～2024年1月6日(土)	冬季休業
	1月9日(火)	授業開始
	1月20日(土)	後期授業終了
	1月22日(月)～1月31日(水)	学年末定期試験期間
	2月6日(火)～3月18日(月)	春季休業
3月23日(土)	学位記授与式(卒業式)	

■ 卒業研究

行事	日程等
卒業研究題目届提出期間 ※所定の申請フォームによるオンライン提出	10月16日(月)～11月13日(月) 16:30
研究提出期間 ※WebClassを用いたオンライン提出	12月1日(金)～12月15日(金) 16:30

■ 履 修

行 事		日 程 等
抽選登録期間		4月2日(日) 9:00～4月5日(水) 13:00 ※抽選登録期間中は何度でも登録内容を変更可能。
抽選結果発表(自動登録)日時		4月6日(木) 9:00(予定)
履修登録期間 (抽選科目は定員に余裕がある授業科目のみ登録可能)	3・4年次	4月6日(木) 9:00～4月17日(月) 13:00
	1・2年次	4月6日(木) 9:00～4月18日(火) 13:00
全学共通教育科目 受講者数調整	履修エントリー期限	4月14日(金) 13:00締切
	受講者数調整のための履修登録停止期間 (受講者数調整のための抽選処理期間)	4月14日(金) 13:00～4月15日(土) 12:00
後期開講科目の履修削除および追加履修登録期間		9月20日(水) 8:30～9月28日(木) 13:00
他学部聴講申請書提出期間	前 期	4月6日(木) 8:30～4月18日(火) 13:00
	後 期	9月20日(水) 8:30～9月28日(木) 13:00

社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧

■ 基礎科目

授業科目	区分
生命倫理論	基礎科目 選択C

■ 専門科目

授業科目	区分	授業科目	区分
開発政策論	【政策イノベーション学科】 専門科目 選択A	アジア社会文化論	【政策イノベーション学科】 専門科目 選択B
公共政策論		環境社会論Ⅱ	
比較イノベーション論		【心理社会学科】 専門科目 選択A	心理社会学特殊講義
グローバルガバナンス論			
国際機構論			
地域イノベーション論			
ベンチャービジネス論			
トップマネジメント論			
企業評価論			
政策イノベーション特殊講義Ⅱ			

■ 総合教養科目

授業科目	授業科目	授業科目
短期学外演習	社会構造論演習 a・b	科学史 a・b
教養演習	思想・人間論Ⅲ a・Ⅲ b	自然科学Ⅳ a・Ⅳ b
応用英語研究	文学入門 a・b	数理・自然科学演習 a・b
言語コミュニケーション演習	言語学入門 a・b	心身論Ⅴ a・Ⅴ b
総合講座Ⅰ・Ⅳ	音楽入門 a・b	Japan StudiesⅠ A・Ⅰ B・Ⅱ A・Ⅶ B
特別講座Ⅰ・Ⅱ	表現文化論Ⅰ a・Ⅰ b・Ⅴ a・Ⅴ b	数理科学応用 a・b
成城学Ⅴ	歴史文化論Ⅳ a・Ⅳ b・Ⅴ a・Ⅴ b	機械学習応用【2022年度以降入学者】
現代社会論Ⅴ a・Ⅴ b・Ⅷ a・Ⅷ b	文化人類学入門 a・b	データサイエンス特殊講義Ⅰ・Ⅳ 【2022年度以降入学者】
政治学入門 a・b	地域空間論Ⅱ a・Ⅱ b・Ⅲ a・Ⅲ b・Ⅳ a・Ⅳ b	
情報社会論入門 a・b	物理の世界 a・b	
社会構造論Ⅲ a・Ⅲ b・Ⅴ a・Ⅴ b	化学の世界 a・b	

■ 学部共通科目

授業科目
English for Practical Proficiency
Advanced Oral Interaction in English
Research Writing Skills in English [a]・[b]
英文多読 a・b

■ 一般共通科目

授業科目	授業科目
スポーツ・スタディーズⅣ	図書館活用法
身体表現・スタディーズⅠ	時事英語Ⅱ
アクアエクササイズ (A)・(B)	Academic SkillsⅤ A・Ⅴ B
水泳 (B)	European Studies A・B
フィットネス (A)・(B)	North American Studies A
サイクル・スポーツ (C)	Oceanian Studies A・B

オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が週のある曜日・時間を決めて研究室に在室し、学生はその時間帯に自由に教員を訪ね、質問・相談できる制度である。なお、オフィスアワー以外の時間帯でも質問・相談ができるが、その際は、予約を取っておくとよい。また、必要に応じて、オンラインでも面談に対応するので、詳しくはメールやWebClassのメッセージ機能で問い合わせること。連絡先が不明な場合は社会イノベーション学部研究事務室へ問い合わせること。

教員名	曜日・時間	研究室	
		場所	部屋番号
青山 征彦	金曜日 16:20～17:50	3号館7階	3703
石井 康毅	火曜日 13:00～14:30	3号館8階	3814
伊地知 寛博	火曜日 12:15～13:00	3号館8階	3811
磯野 達也	水曜日 13:00～14:30	3号館8階	3816
稲垣 佑典	木曜日 12:00～13:00	9号館3階	9309
内田 真人	火曜日 13:30～14:00 水曜日 12:20～12:50	3号館8階	3809
遠藤 健哉	火曜日 13:30～14:30	3号館7階 3号館4階	3710 学部長室
岡田 羊祐	火曜日 12:15～13:00	3号館7階	3713
加藤 敦宣	水曜日 12:15～13:00	3号館7階	3714
川村 晶彦	水曜日 12:15～13:00	3号館8階	3812
久保田 達也	金曜日 12:30～13:30	3号館7階	3707
國寶 真美	月曜日 15:00～16:00	3号館7階	3702
後藤 康雄	水曜日 12:15～13:00	3号館8階	3810
後藤 悠里	火曜日 12:15～13:00	3号館8階	3815
新垣 紀子	金曜日 13:30～14:30	3号館8階	3808
竹之内 玲子	火曜日 12:15～13:00	3号館8階	3806
都築 幸恵	水曜日 13:30～14:30	3号館8階	3807
積田 淳史	月曜日 13:00～14:00	3号館7階	3706
デニス・リチェズ	月曜日 15:00～16:00 金曜日 10:40～11:40	3号館8階	3813
中村 國則	金曜日 13:00～14:30	3号館7階	3704
平井 康大	木曜日 12:00～13:00	3号館8階	3805
古川 良治	火曜日 12:15～13:00	3号館8階	3804
保坂 稔	火曜日 13:30～14:30	3号館7階	3709
南山 浩二	火曜日 12:15～13:00	3号館7階	3711
村田 光二	火曜日 12:15～13:00	3号館7階	3701
村田 裕志	火曜日 16:30～18:00	3号館8階	3801
谷治 和文	火曜日 12:20～13:00 水曜日 12:20～13:00	3号館8階	3803
山本 敦久	木曜日 16:00～17:00	3号館7階	3708
山本 理奈	水曜日 12:15～13:00	3号館7階	3705

目次

授業に関すること

I 単位制度と履修	8
II 授業	9
III 履修登録	10
IV 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目	11
V 試験・レポート	14
VI 成績	16
VII GPA制度	17
VIII 卒業研究	18
IX 他学部聴講制度	19
X 転学部・転学科	19
XI 秋卒業制度	20
XII 卒業延期制度	21

人材育成の目的と3つの方針

…… 22

教育理念と教育の特徴

…… 28

社会イノベーション学部履修規定

【政策イノベーション学科】

I 総説	32
II 科目区分別履修方法	34
III 政策イノベーション学科授業科目一覧	48
IV 科目番号（科目ナンバリング）	52
V 卒業要件単位に算入されない授業科目	54

【心理社会学科】

I 総説	56
II 科目区分別履修方法	58
III 心理社会学科授業科目一覧	72
IV 科目番号（科目ナンバリング）	76
V 卒業要件単位に算入されない授業科目	78

全学共通教育科目

I 全学共通教育の理念	80
II 全学共通教育科目における 各種プログラム認定・修了要件	84

履修系統図

…… 88

履修モデル

政策コース	94
戦略コース	95
心理コース	96
社会コース	97

社会調査士資格

…… 98

交換留学・認定留学で 修得した単位の認定

…… 99

学則・その他

成城大学学則	102
成城大学学位規則	116
成城学園配置図・大学校舎案内	121

授業に関すること

I	単位制度と履修	8
II	授 業	9
III	履修登録	10
IV	特別な履修登録手続きを必要とする授業科目	11
V	試験・レポート	14
VI	成 績	16
VII	GPA制度	17
VIII	卒業研究	18
IX	他学部聴講制度	19
X	転学部・転学科	19
XI	秋卒業制度	20
XII	卒業延期制度	21

I

単位制度と履修

A

単位制度

1 単位制度

本学における学修は単位制度によって行われる。単位制度とは、所定の授業科目を履修することによって、4年以上の在学期間中に卒業に必要な総単位数を修得する制度である。

2 単位数

- ① 学年の学修期間は定期試験等の日を含めて35週であるが、これを2期に分ける（大学学則第11条・第13条参照）。授業科目は1か年35週または半期をもって完結する。
- ② 授業の単位は、45時間の学修（教室における授業時間と予習・復習等の教室外における学修時間とを含む）を必要とする内容をもって1単位とすることを標準とする。
- ③ 単位数はそれぞれの科目によって異なり、授業科目による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して計算される。

授業科目	授業期間	週回数	単位数	説明
講義科目・演習科目（ゼミナール）	半 期	1回	2	週1回、半期の科目を2単位とする。
		2回	4	週2回、半期の科目を4単位とする。
	通 年	1回	4	週1回、通年の科目を4単位とする。
外国語科目	半 期	1回	1	週1回、半期の科目を1単位とする。
		2回	2	週2回、半期の科目を2単位とする。
	その他	—	2	「資格英語」を2単位とする。
スポーツ・ウェルネス実技科目	半 期	1回	1	週1回、半期の科目を1単位とする。
	集 中	—	1	週1回、半期に相応する授業時間数によって編成される科目を1単位とする。
卒業研究	—	—	4	「卒業研究」を4単位とする。

※1回の授業時間（90分）は2時間に換算され、必要な学修時間から授業時間の合計を除いた時間が、予習・復習等授業時間外の学修時間の目安となる。

- ・半期週1回2単位が付与される授業の場合

45時間 × 2単位 ÷ 15週（半期） = 6時間（週当たり） - 2時間（授業時間） = 毎週授業外に4時間の学修。

3 卒業要件単位数

卒業に必要な単位数（卒業要件単位数）は、【履修規定】I 総説 A 科目区分および卒業要件単位数】を参照のこと。

4 余 剰 単 位

卒業要件単位数を超えて修得した単位は余剰単位とも称される。なお、その単位・成績も付与され、LiveCampusUの成績情報および成績証明書に記載される。

B

履 修

1 年 次 配 当

授業科目には配当年次が指定されている。在学年次よりも上の年次に配当されている授業科目は原則として履修することができない。

2 再 履 修

単位が修得できなかった授業科目を再び履修することを再履修と呼ぶ。必修科目が不合格となった場合は、必ず再履修しなければならない。

3 反 復 履 修 の 禁 止

すでに単位を修得した授業科目を再び履修することを反復履修と呼ぶ。反復履修は、特に認められた場合を除いて禁止されている。

4 重 複 履 修 の 禁 止

同一年度に同一名称の授業科目を複数履修することを重複履修と呼ぶ。重複履修は、特に認められた場合を除いて禁止されている。なお、授業科目の名称にはシラバスおよび授業時間割表に記載されている副題（〈 〉）で囲まれている部分）は含まれない。

※授業科目名称の例

- ・「プロジェクト演習〈企業提案〉」と「プロジェクト演習〈企業との協働〉」は同一名称の授業科目として扱う。
- ・「基礎ゼミナール（政策）」と「基礎ゼミナール（戦略）」は別の名称の授業科目として扱う。

5 成 績 評 価 の 前 提 条 件

当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席した者は、当該授業科目修了の認定を受けることができない（大学学則第23条第1項）。

Ⅱ 授 業

A 学期と授業期間

本学の授業は1年を前期・後期の2学期に分けて行われ、授業期間は下記の3つに分かれる。

通 年	前期及び後期
半 期	前期または後期
集 中	夏季、冬季、春季休業中等の一定期間

B 時限と授業時間

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限※
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30

※6時限は補講時間帯（通常授業は行われない。）

なお、土曜日は通常授業は行われない。（一部、資格科目等を除く。）

C 休 講

大学行事が行われたり、各授業科目担当者にやむを得ない事情が発生した場合に、授業を休講することがある。

D 補 講

休講により、授業の進捗が予定より遅れた際に、臨時的な授業を行うことがある。これを補講という。

補講は、原則として月～金曜日の6時限に行う。

E 講義室変更

都合により、講義室を変更する場合がある。

履修中科目の休講・補講・講義室変更等は、LiveCampusU（ライブキャンパスユー）で確認ができる。なお、電話での問い合わせは受け付けていないため、適宜LiveCampusUにログインして、最新の情報を確認すること。

※ LiveCampusUでは、教員から届出があり次第、随時情報を更新している。

急病等事前に告知ができないときは、授業当日の掲載になる場合がある。

【LiveCampusU】

LiveCampusUは、学生生活に必要な情報等をインターネットから閲覧・登録できるシステムで、大学ホームページよりアクセスできる。「ユーザ名・パスワード」を忘れてしまった場合などは、メディアネットワークセンター・教務部のいずれかの窓口まで申し出ること。

大学ホームページ <https://www.seijo.ac.jp>

LiveCampusU <https://lc.seijo.ac.jp>

III

履修登録

1 履修登録とは

履修登録は、自分が履修しようとする授業科目を登録する手続きである。この手続きがなされていなければ授業科目の履修はできず、また単位も授与されない。

原則として4月に、前期・通年科目とあわせて後期科目についても登録する必要があるが、一部、特定の方法・期間にしか登録できない授業科目もあるため、1年間の履修計画を立てた上で、所定の時期に適切に履修登録を行う必要がある。(p.12 [C](#) その他の手続きを必要とする授業科目)

2 履修登録

LiveCampusUを利用した履修登録の方法の詳細については、履修登録マニュアル(大学ホームページ、または、LiveCampusUよりダウンロード可)を参照すること。

3 登録期間

巻頭の『社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

4 登録時の注意点

- ① 履修の手引、シラバス等をよく読み、履修する授業科目を決定した後に履修登録をすること。
- ② 各年次の必修科目は教務部が予め登録を行っている(再履修を除く)。これらの授業科目は原則として取り消すことができない。
- ③ 登録の締切日時を厳守すること。登録締切後は、授業科目の追加や、登録した授業科目の訂正・削除を行うことはできない。なお、履修方法上の誤り等により教務部から訂正を指示する場合があるが、この場合はその指示に従うこと。
- ④ 病気等、やむを得ない理由により締切日時までに登録を完了できない場合は、事前に教務部に相談し、手続きに関する指示を受けること。

【前期開講1週目の授業について】

- 教務部が予め登録している授業科目、抽選で受講が決定した授業科目については、1週目の授業から出席すること。
- 選択科目は、原則として1週目の授業では、授業概要の説明が行われる。いろいろな授業に出席し、本年度履修する授業科目を計画的に選択すること。この期間中は、授業途中に教室の出入りをしても構わない。

5 履修登録の注意点

- ① 履修登録のできない授業科目
 - 在学年次よりも上の年次に担当された授業科目
 - 教務部が予め登録している授業科目
 - **すでに単位を修得した授業科目**(例外もあるので、詳細は【履修規定】を参照のこと)
 - 履修するための前提条件(所定科目の履修・修得等)を満たしていない科目
- ② 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目
履修登録の前に特別な履修登録手続きを必要とする授業科目がある。詳細については、【授業に関すること】[IV](#) 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ③ 履修科目登録上限単位数
履修登録することのできる単位数には上限が定められているので、上限の単位数を超えないよう十分留意して登録すること。詳細については【履修規定】[I](#) 総説 [B](#) 履修科目登録上限単位数を参照すること。
- ④ 本年度登録する授業科目がない場合
4年次生で本年度履修登録する授業科目がない場合でも、必ずLiveCampusUの履修登録メニューに表示される学籍情報を確認のうえ、「登録して履修登録へ進む」ボタンをクリックすること。

IV

特別な履修登録手続きを必要とする授業科目

A

抽選登録を必要とする授業科目

※LiveCampusUへの移行に伴い、2023年度に予備申請から抽選登録へと名称が変更となった。

1 抽選登録

授業の性質や使用する機材の台数の関係上、受講者数に定員を設ける授業科目がある。これらについては、履修登録の前に抽選登録が必要である。

抽選登録の要領は以下のとおりだが、登録方法の詳細については、履修登録マニュアル（大学ホームページ、または、LiveCampusUよりダウンロード可）を参照すること。

なお、抽選登録期間中は、登録した授業科目を何度でも変更・削除することができる。

2 抽選登録期間・抽選結果の発表

抽選登録期間および発表日時は巻頭の『社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

抽選登録を行った授業科目で、抽選により履修が許可されたものは、自動的に履修登録が行われ、不許可となったものは登録されない。抽選結果については、LiveCampusUの履修登録画面で確認すること。

3 抽選登録を必要とする授業科目

抽選登録を必要とする授業科目は、以下のとおりである。

分野・区分	授 業 科 目	
基礎科目必修 【再履修者のみ】	イノベーション概論 [a]・[b]	データ分析入門
	情報リテラシー	
基礎科目選択B	社会調査法	市場調査法
	心理実験法	心理研究法
専門科目	日本経済論	社会調査専門演習
	日本金融論	コミュニケーション・デザイン実践演習
	産業カウンセリング	
総合教養科目	教養演習	地域空間論演習 a・b
	応用英語研究	生命科学の世界 a・b
	言語コミュニケーション演習	数理・自然科学演習 a・b
	現代社会論演習 a・b	心身論演習 a・b
	社会構造論演習 a・b	データサイエンス概論
	思想・人間論演習 a・b	データサイエンス基礎
	表現文化論演習 a・b	データアナリティクス基礎
	歴史文化論演習 a・b	機械学習基礎
学部共通科目	English for International Communication	独語選択（初級 I a・I b・II a・II b、中級 a・b、上級 a・b）
	English for Academic Settings	仏会話選択 a・b
	English for Practical Proficiency	仏語選択（初級 I a・I b・II a・II b、中級 a・b、上級 a・b）
	Innovation Studies in English [a]・[b]	スペイン語選択（初級 a・b）
	Advanced Oral Interaction in English	中国語選択（初級 I a・I b・II a・II b、中級 a・b、上級 a・b）
	Critical Reading in English [a]・[b]	韓国語会話選択 a・b
	Research Writing Skills in English [a]・[b]	韓国語選択（初級 a・b）
	Thesis Writing Skills in English [a]・[b]	ディプロム・コース（独語 a・b、仏語 a・b、スペイン語 a・b、韓国語 a・b）
	独会話選択 a・b	
一般共通科目	スポーツ・スタディーズ I~IV	図書館活用法
	ウエルネス・スタディーズ I~IV	WRD
	身体表現・スタディーズ I~IV	キャリア形成 I~IV
	スポーツ・ウエルネス実技科目	プロジェクト演習
	コンピュータ・リテラシー A1・A2、B~E	
卒業要件単位に算入されない授業科目	英語リスニング&スピーキング（初級 a・b、中級 a・b、上級 a・b）	英文多読 a・b
	英語リーディング&ライティング（初級 a・b、中級 a・b、上級 a・b）	時事英語 I・II
	英会話選択 a・b	

注）本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧」を参照すること。

- | | |
|---------------------|---|
| 4 登録上の注意 | <p>①「WRD」は科目の性質上、登録者数が受講者定員を上回った場合、受講者の決定については、1年次生を優先する。</p> <p>②「コンピュータ・リテラシーA1」と「コンピュータ・リテラシーA2」はセットで履修することになっている。抽選登録をする際は、A1のみ登録する。抽選の結果、A1の履修が許可された場合、セットとなるA2のクラスも自動的に履修登録される。</p> |
| 5 定員に余裕がある授業科目の履修登録 | <p>抽選の結果、定員に余裕がある授業科目については、履修登録期間において先着順で登録を受け付ける。日程の詳細は巻頭の『社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。</p> |

B 履修登録期間中に受講者数の調整を行う全学共通教育科目

- | | |
|------------------------|---|
| 1 対象科目 | <p>全学共通教育科目 (p.80~p.85)
 (「[A] 抽選登録科目 (p.11)」および「[C] その他の手続きを必要とする授業科目 (p.12~13)」を除く)</p> |
| 2 受講者調整対象科目の決定と調整結果の発表 | <p>履修登録期間中に登録者数が多数にのぼり、教室の収容定員を超えるなどの理由により授業環境が整わないと大学が判断した授業科目は、受講者数の調整を行い、受講者及び定員を決定する。</p> <p>日程の詳細は巻頭の『社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。</p> <p>調整結果については、LiveCampusUの履修登録画面で確認すること。</p> <p>なお、調整の対象となった科目、ならなかった科目、いずれも履修登録期間中は定員の範囲内で自由に削除・登録することが可能である。</p> |

C その他の手続きを必要とする授業科目

- | | |
|-------------------|--|
| 1 選考を行う授業科目 | <p>下記の授業科目は、受講者数に定員を設けているため、開講前または開講1週目の授業で選考を行う（後期開講科目は後期に行う）。詳細については掲示を確認すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ビジネス英語a・b」 <p>なお、履修が許可された者は、教務部が履修登録を行う。登録された授業科目は取り消すことができない。</p> |
| 2 OCA | <p>「OCA」（後期開講）を履修登録すると、前期同一曜日時限に開講される「OCA事前講義」（前期開講）も自動的に登録される。従って、本科目は前期の履修登録期間中に登録をしなければならぬ。</p> <p>最初の講義時に詳細についてガイダンスを行うので、必ず出席すること。</p> |
| 3 資格英語 | <p>① 前年度以降にTOEICまたはTOEFLを受験し、以下の成績を取得した在学中の者に対して、申請があった場合に、面接を行った上でそれまでの学修について認定し、単位を授与する。ただし、単位の授与は2年次から4年次までの在学中1回に限る。</p> <p>TOEIC (TOEIC-IPを含む) 650点以上、TOEFL-iBT68点 (PBT520点、CBT190点) 以上</p> <p>② 申請方法</p> <p>①に示す受験および成績の条件を満たす者は、前年度から申請時まで取得した成績表（原本）を持参して、社会イノベーション学部研究事務室（3号館4階）において申請することができる。詳細については、別途掲示する。「資格英語」への履修登録は不要である。</p> |
| 4 海外短期語学研修・海外短期研修 | <p>4月（夏季）および10~11月（春季）に研修内容および申込方法に関する説明会を行うので、参加希望者は出席すること。説明会の予定は掲示板等で周知する。また、研修参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。</p> <p>やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考慮し、卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。</p> |

4 海外短期語学研修・海外短期研修(つづき)

海外短期語学研修 (英語・夏季)	2単位	【研修先】 アルバータ大学 (カナダ) 【期間】 8月〔約4週間〕 【単位】 本年度後期科目として単位を授与する。
	2単位	【研修先】 オタゴ大学 (ニュージーランド) 【期間】 8月〔約3週間〕 【単位】 本年度後期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修 (英語・春季)	2単位	【研修先】 ニューカッスル大学 (オーストラリア) 【期間】 2月～3月〔約4週間〕 【単位】 翌年度前期科目として単位を授与する。
	2単位	【研修先】 コロラド大学ボルダー校 (アメリカ) 【期間】 2月～3月〔約3週間〕 【単位】 翌年度前期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修 (独語・春季)	2単位	【研修先】 ドレスデン工科大学 (ドイツ) 【期間】 2月～3月〔約4週間〕 【単位】 翌年度前期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修 (仏語・春季)	2単位	【研修先】 西部カトリック大学 (フランス) 【期間】 2月～3月〔約3週間〕 【単位】 翌年度前期科目として単位を授与する。
海外短期語学研修 (中国語・夏季)	2単位	【研修先】 北京大学 (中国) 【期間】 8月～9月〔約4週間〕 【単位】 本年度後期科目として単位を授与する。

2021年度以降入学者のみ履修可

海外短期語学研修 (英語・夏季)	1単位	【研修先】 マレーシア工科大学 (マレーシア) 【期間】 8月〔約2週間〕 【単位】 本年度後期科目として単位を授与する。
---------------------	-----	---

※ 2021年度以降入学者対象の「海外短期語学研修(英語・夏季)」(マレーシア)と2020年度以前入学者対象の「海外短期語学研修(英語・就業体験準備)」の研修内容は同一である。2021年度以降入学者でマレーシアでの就業体験研修を希望する者は、「OCA」の項を確認すること。

2020年度以前入学者のみ履修可

セット履修	海外短期語学研修 (英語・就業体験準備)	1単位	【研修先】 ・海外短期語学研修(英語・就業体験準備): マレーシア工科大学(マレーシア) ・海外短期研修(マレーシア・就業体験研修): 現地企業 【期間】 8月〔2科目合わせて約3週間〕 【単位】 ・海外短期語学研修(英語・就業体験準備): 本年度後期科目として単位を授与する。 ・海外短期研修(マレーシア・就業体験研修): 本年度通年科目として単位を授与する。
	海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修)	2単位	

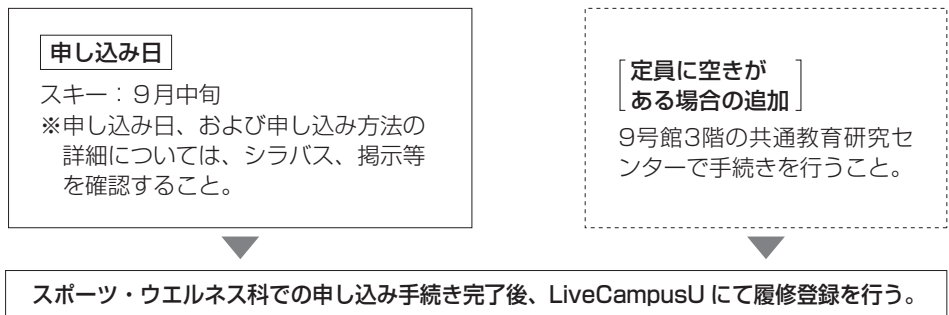
※ 2020年度以前入学者対象の「海外短期語学研修(英語・就業体験準備)」と2021年度以降入学者対象の「海外短期語学研修(英語・夏季)」(マレーシア)の研修内容は同一である。
 ※ 「海外短期研修(マレーシア・就業体験研修)」と成城グローバルインターナショナル・プログラムを併願する際の注意事項は4月のガイダンスで伝達する。

履修上の注意については、下記を併せて参照すること。

- ・【履修規定Ⅱ】科目区別履修方法[E]学部共通科目《履修上の注意》⑥「海外短期語学研修」「海外短期研修」】

5 スポーツ・ウェルネス実技科目[集中コース]

スポーツ・ウェルネス実技科目のうち、集中コースの科目は、**履修登録をする前に必ずスポーツ・ウェルネス科で履修申し込みの手続きを行い、申し込み手続き完了後に履修登録を行わなければならない。**授業内容を参照の上、以下に示すとおり履修手続きを行うこと。
 なお、やむを得ない理由によりコースが中止となる場合があることを考慮し、卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。



V 試験・レポート

A 試験

1 試験と単位授与

履修登録をしている授業科目の成績は、学期末、学年末に実施される定期試験および授業への参加度等も総合した成績により評価され、授業科目担当者により合格と判定された者は、単位が授与される。

2 試験の種類

① 定期試験

- 学期末定期試験…前期授業終了後の定期試験期間内に行われる試験
- 学年末定期試験…後期授業終了後の定期試験期間内に行われる試験

② 定期試験に代わるレポート…定期試験の代わりに、レポートで実施される試験。

提出日・提出先等は授業科目担当者により異なる。

③ 追試験…病気その他のやむを得ない事由により、定期試験を受験できなかった場合に授業科目担当者の判断により実施される試験（要手続）

※「定期試験に代わるレポート」は、追試験の対象にはならない。

3 試験についての連絡

定期試験（試験またはレポート）の詳細は、LiveCampusUにて発表する。

その他、中間テスト、小テスト、小レポート等について授業科目担当者からLiveCampusUやWebClass等にて発表される場合がある。

B 定期試験

1 注意事項

- ① 履修登録がなされていない授業科目の受験は認めない。
- ② 不正行為は学則に基づき処分される。

2 試験期間

巻頭の『社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

3 試験時間

原則60分とする。

4 試験時間割の発表

試験時間割は、原則として定期試験期間の約1週間前にLiveCampusUにて発表する。

5 持ち込みを許可する参照物等

試験の際に持ち込みを許可する参照物等がある場合には、LiveCampusUにて発表する。

6 受験心得

- ① 学生証を必ず持参すること。
※ 学生証を忘れた場合は、事前に学生課で受験許可証の交付を受けること。
- ② 試験場には、定刻までに入室すること。ただし、試験開始後20分までは遅刻者の入室を認める。
- ③ 試験開始後30分以内は退室できない。
- ④ 答案の氏名欄（学籍番号、氏名）と出席カードは、ペン（鉛筆以外）で記入すること。
- ⑤ 答案用紙を試験場から持ち出すことは一切認めない。また、無記名答案は無効となる場合があるので注意すること。

7 試験開始時間の変更および中止

小田急線の新宿から相模大野までの全区間が運行を停止した場合、気象庁から東京23区西部に暴風警報等が発令された場合および大規模地震の警戒宣言が発令された場合、定期試験開始時刻の変更（繰下実施等）あるいは定期試験を中止する場合がある。

C 定期試験に代わるレポート

レポートは原則として本人が提出し、**提出期限を厳守**すること。
また、提出先によって提出要領が異なるので、以下の指示に従って提出すること。

1 教務部に提出する場合

表紙

- ① 教務部で配付する「**指定の表紙**」を使用する。
- ② 表紙には必ず「**整理番号**」(LiveCampusUを参照のこと)を記入する。

提出要領

- ① 提出レポートは、必ずペン(鉛筆以外)書きとする。
 - ② 用紙の種類について
 - 〈**パソコンを使用する場合**〉A4判(横書き)
 - 〈**手書きの場合**〉
 - ・原稿用紙指定の場合
横書きの場合…A4判400字詰め／縦書きの場合…B4判400字詰め
 - ・レポート用紙の場合…A4判(横書き)
- ※ 授業科目担当者から指示がある場合はそれに従うこと。

2 教務部以外に提出する場合

提出要領

用紙等提出要領は、授業科目担当者の指示に従うこと。

D 追試験

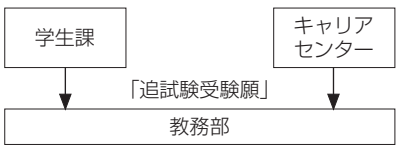
病気その他のやむを得ない理由により、定期試験を受験できなかった場合、「追試験受験願」を提出することができる(定期試験に代わるレポートは除く)。ただし、以下の理由によるもの以外は「追試験受験願」の提出は認められない。また、提出に係る締切日時等の注意事項はLiveCampusUにて発表する。

1 「追試験受験願」の提出資格および受付時間

- ① 病気およびケガ
(医療機関が発行した診断書(原本)、または、これに準ずるものを添付 *当日受験できないことが確認できること。また、医療機関への受診日、病名および加療(療養)期間等が明記されていること。)
- ② 忌引
(会葬礼状(原本)または死亡診断書(写し)添付 *原則として、適用日数は死亡日(または通夜・葬儀)当日を1日目と数え、血族および配偶者の場合、以下の通りとする。
父母・配偶者・子 連続7日間、祖父母・おじ・おば・兄弟姉妹 連続5日間、曾祖父母 連続3日間、甥姪・いとこ 連続2日間。いずれも土日を含めて連続した日数。)
- ③ 交通機関の遅れ
(遅延証明書添付 *試験日当日に提出すること。遠距離通学など当日の来校が難しい場合は、当日中に学生課に電話にて仮申請し、翌日、手続きをすること。)
- ④ 就職試験当日
(就職にかかわる資格試験、教育実習期間および館園実習期間との重複を含む。出席証明書添付。)
- ⑤ その他、教務委員会および厚生補導委員会の審議で正当と認められた事項

「追試験受験願」の受付時間は、授業期間中は平日18時、土曜日13時までとする。また、定期試験期間中の受付時間は、定期試験時間割と併せてLiveCampusUで発表する。

2 提出要領



- ① 学生課またはキャリアセンターから「追試験受験願」の用紙を受け取る。
- ② 必要事項を記入後、学生課またはキャリアセンターに提出し、承認印を受ける。
- ③ 教務部に「追試験受験願」を提出する。

※ 教務部から授業科目担当者に追試験実施有無を問い合わせ、実施の回答のあった授業科目についてのみ試験を実施する。なお、追試験がレポートに代わる場合もある。また、追試験受験願提出の理由が正当なものであっても、授業科目担当者の判断により、追試験を実施しないことがある。

VI 成績

1 成績評価

成績評価は、前期・後期に実施される定期試験等の他、授業への参加度等も総合して行われる。成績評価基準は授業科目によって異なるので詳細はシラバスを参照すること。なお、成績評価は以下のように表示される。

素点	合 格				不合格	
	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0	評価不能
成績評価	秀	優	良	可	不可	/
成績証明書						
英文成績証明書	E	V	G	S	F	/

※/（スラッシュ）は、評価不能な場合、即ち出席不良・定期試験等未受験・レポート未提出等で評価できない場合に表示される。

2 成績評価の開示

成績評価は、前期成績を9月上旬頃、学年（後期）成績を3月中旬頃にLiveCampusUにて開示し、学生の学修状況把握のため、保証人に対しても開示する。開示日や保証人に対する成績開示不同意申し出についての詳細については、後日LiveCampusUにて周知する。

3 成績評価 問い合わせ制度

本制度は、本人の成績評価に疑問がある場合、授業科目担当者に問い合わせの申請をすることができ、その回答および結果を申請者本人に開示する制度である。なお、申請条件・手続き等は以下のとおりである。

- 申請および回答窓口
1号館 1階 教務部
- 申請の条件
 - ① 当該科目の授業に3分の1以上欠席していないこと（大学学則第23条第1項）。
 - ② 当該科目の定期試験、定期試験に代わるレポートを全て受験・提出していること。
 - ③ 成績評価の基準（授業科目担当者がシラバスの「成績評価の方法」に記載している条件）を満たしていること。
- 申請の手続き
申請者本人が「成績評価問い合わせ書」を受け取り、申請理由を詳細に記入し、下記の受付期間内に提出すること。この期間を過ぎたものは一切受け付けないので注意すること。
- 「成績評価問い合わせ書」の受付期間
 - ・ 当該年度前期成績：7月にLiveCampusU等で発表する。
 - ・ 当該年度学年（後期）成績：1月にLiveCampusU等で発表する。
- 回答方法
申請者には受付時に指定した期間内に、成績評価問い合わせに関する回答および成績結果を開示する。

1 制度の概要と目的

成績評価の方法として、GPA (grade point average) 制度を実施している。GPAは、単なる成績評価の平均ではなく、授業科目ごとの単位数の違い (=学修に要した時間の差異) が反映された、単位修得に向けた努力や学修計画の的確さ等を映し出す総合的な成績評価の指標である。この制度を通じて、学生自身が、自分にとって必要とする授業科目が何であるかを考え、履修を自己管理し、学修成果がどのレベルに位置するかを把握し、さらなる勉学意欲を高めるための指標とすることが重要である。なお、今後、GPAは、学修状況に関する総合的な判断等にも活用される見込みである。

2 GPと成績評価との対応およびGPA値の算定方法

GPA値は、以下のとおり、履修した個々の授業科目の成績評価に対応したGP (grade point) に基づいて算定する。

素点	合 格				不合格	
	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0	評価不能
成績評価	秀	優	良	可	不可	/
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0	

$$\text{GPA値} = \frac{4.0 \times \text{「秀」の総修得単位数} + 3.0 \times \text{「優」の総修得単位数} + 2.0 \times \text{「良」の総修得単位数} + 1.0 \times \text{「可」の総修得単位数}}{\text{総履修登録単位数 (「不可」および「/」の単位数を含む)}}$$

※GPA値は、小数第3位を四捨五入し、小数第2位まで表示する。

※GP (grade point) は「成績評定点」を、GPA (grade point average) は「成績評定点平均」をそれぞれ意味する。

3 GPA値算定から除外する授業科目

- ① カリキュラム上卒業要件単位として認められていない授業科目
- ② 成績評価を合否によって行う授業科目。ただし、この授業科目が不合格の場合、その単位数は総履修登録単位数に含まれる。
- ③ 認定によって単位修得が認められた授業科目

4 GPA値の表示

各年度および通算のGPA値をLiveCampusUの成績ダッシュボードに表示し、成績通知書および成績証明書に記載する。

5 留意事項

不合格科目の履修登録単位数はGPA値の算定に含まれる。従って、履修している授業科目を途中で放棄するなど不合格科目が増えるとGPA値は低くなる。よって、履修登録に当たっては、むやみに行うことなく、よく考えた上で履修する授業科目を決めることが肝要である。

VIII

卒業研究

A 中間発表会

卒業研究を提出しようとする学生は、その作成に当たり、中間発表会で研究のテーマ、問題意識、構成等について途中経過を報告しなければならない。中間発表会は6月初旬～7月中旬を予定しているが、詳細については別途掲示する。

B 卒業研究題目届

卒業研究を提出するためには、あらかじめ所定の期間に卒業研究題目届を提出しなければならない。日程の詳細は巻頭の『社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。

C 卒業研究提出要領

1 提出期間

巻頭の『社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。
※ 卒業研究は必ず本人が提出し、提出期限を厳守すること（郵送不可）。

2 最終試験

1月中下旬に面接試験を行う。期日、時間等、詳細については、1月に別途掲示する。

3 提出方法

- ① WebClassを用いたオンライン提出のみとする。
- ② WebClass上に学科毎に「○○学科卒業研究提出用コース」が設置されており、コース内の「テスト/アンケート」のところに「○○学科卒業研究提出」が設置されているので、そちらに提出すること。
- ③ 提出者には提出した旨の自動応答メールが届くので、必ず確認し、応答メールが届かない場合は再提出すること。応答メールが届かない場合は、応答メールが「迷惑メール」分類されていないのかもよく確認すること。
- ④ WebClassの設定上、期間内であれば何度でも提出可能だが、提出のたびに新しい提出ファイルに置き換わる（上書きされる）ので注意すること。

4 書式

- ① ファイル形式
 - 卒業研究の提出形式はPDFのみとする。
 - WebClassで1回に送信できるPDFファイルの容量の上限は40MBなので容量を超えないよう注意すること。
 - 40MBを超える場合は、早めに教務課に相談すること。
- ② ファイル名
「指導教員名」「学籍番号」「学生氏名」を、空白（スペース）を入れずに明記すること
(例：成城太郎先生20N7777成城花子)。
- ③ レイアウト（用紙）
 - 用紙の設定はA4判とし、原則として各ページ1行40字×30行とすること。
 - 目次の末尾に字詰を注記すること（例：横40字×縦30行）。

5 表紙

表紙のページには、以下の必要事項を記載すること。

- 卒業年度（本年度は、2023年度）
- 所属ゼミ名（ゼミナール担当教員名）
- 題目
- 学部・学科
- 学籍番号
- 氏名

6 その他

指導教員より、別途追加の指示がある場合には、その指示に従うこと。

D 卒業研究の開示

提出された卒業研究は、本学部の教員や学生、および社会イノベーション学部長が許可する者であれば、誰でも閲覧可能とする。

IX 他学部聴講制度

- | | |
|-----------|--|
| 1 制度の概要 | 所定の手続きを行うことにより、他学部の授業科目を聴講することができる。ただし、試験等は受けることができない。また、単位は授与しない。聴講科目は、履修科目登録上限単位数には含まれない。 |
| 2 聴講可能科目 | LiveCampusU等にて発表する。 |
| 3 聴講可能科目数 | 年間2科目まで |
| 4 手続き方法 | 「他学部聴講願」に必要事項を記入の上、教務部に提出すること。日程の詳細は巻頭の『社会イノベーション学部 履修登録等に関する日程一覧』を参照すること。 |
| 5 注意事項 | <ul style="list-style-type: none"> ① 聴講可能な科目であっても、受講者数が教室の収容人数を超えている場合は申込みを受け付けないので、教務部で確認すること。 ② 他学部聴講は、教授会での審議によっては、認められない場合がある。 |

X 転学部・転学科

他学部・他学科への転入は、各学部学科にて実施される「転学部・転学科審査」（筆記試験、外国語試験、面接試験等）を受け、転入が許可された場合に限り認められる。ただし、転学部・転学科が認められ、他学部・他学科に編入された場合は、在学期間4年で卒業できない場合がある。

各学部学科において「転学部・転学科審査」が実施される場合は、LiveCampusUにて案内するので、各自確認すること。なお、「転学部・転学科審査」は毎年実施されるとは限らない。

また、転学部・転学科を希望する者は、大学ホームページに掲載されている転入希望先の「履修の手引」等を読み、教育課程を理解しておくことが望ましい。

XI

秋卒業制度

1 制度の概要・対象者

前年度以前に卒業年次に在籍し、3月に行われた卒業判定の結果、大学学則第18条に規定する卒業要件をみたすことができず、再び同年次に原級留置（留年）となった者が前期末に卒業要件を満たした場合は、秋（9月）に卒業となる。*

* 1年間の卒業延期制度の適用を受けた者が、前期末をもって卒業することを希望する場合については、繰上卒業願の提出が必要となる。詳しくは、【[㊦ 卒業延期制度](#)】を参照すること。

2 制度の注意点

① 秋（9月）で自動的に卒業となる。

本制度の対象者（留年者）が前期末に卒業要件を満たした場合、秋（9月20日付）で自動的に卒業となるので十分注意すること。

※履修科目登録上限単位数、卒業確定者発表日等は別途案内する。

② 年度末（3月）まで在学を希望する場合、卒業延期制度適用申請を行う必要がある。

本制度の対象者で前期末に卒業要件を満たす見込みの者が、秋（9月）に卒業せず、**今年度の3月まで在学を希望する場合は、7月末日までに卒業延期制度適用申請を行う必要がある。**申請を行わない場合は自動的に秋卒業となるので注意すること。

③ 「卒業見込証明書」には「9月卒業見込」と記載される。

本制度の対象者で前期末に卒業要件を満たす見込みの者が、「卒業見込証明書」を発行した場合、証明書には「9月卒業見込」と記載される。

④ 秋卒業者を対象とした「学位記授与式」は実施しない。

「学位記」等の交付方法については別途案内する。なお、年度末（3月）に実施される「学位記授与式」に参加することは可能である。

⑤ 校納金納付方法は前期・後期2回「分納」となり、1年間分「全納」はできない。

また、秋（9月）卒業した者は後期の校納金が不要となる。

※本制度における校納金の詳細については学生課まで問い合わせること。

⑥ 秋卒業は就職（活動）に重大な影響を及ぼす可能性がある。

就職内定者および就職活動中の者が本制度の対象者となった場合は、必ずキャリアセンターに相談すること。

その他、不明点については1号館1階教務部まで問い合わせること。

1 制度の概要
(目的)

卒業の要件を満たす学生で、国家試験や資格試験の受験、または、就職活動等の理由により、自らの学修計画に沿って勉学を継続する目的で本学に引き続き在学を希望する場合、卒業を延期し在学することを認める制度である。

卒業を延期することができる期間は、1年(※)ないし半年とする。ただし、卒業延期制度の適用を受けた学生(以下、「卒業延期適用者」)が引き続き当該制度の適用を希望する場合は、1回を限度に、再度卒業の延期を申請することができる。

※ 1年の卒業延期を許可された卒業延期適用者は、所定の手続きを経た上で、当該年度の前期末をもって繰り上げて卒業(以下「繰上卒業」)することができる。

2 対象者
(資格要件)

卒業延期制度を希望する学生は、次の各号に全て該当しなければならない。

- ① 大学学則第27条に規定する卒業の要件を満たすこと。
- ② 引き続き在学することにより、在学期間が大学学則第5条第2項に規定する年数(8年)を超えないこと。
- ③ 当該年度において授業料等の納付金を滞納していないこと。

3 申請手続き

- ① 制度の適用を希望する学生は、本来卒業すべき年度(卒業延期適用者にあつては、延期後の在学期間が終了する年度。以下同じ)の以下の期日(当該日が休日の場合はその前日)までに卒業延期願を提出し、2月下旬ないし9月上旬の教授会で審議の上、許可を受けなければならない。
 - ・ 学年末をもって卒業要件を満たす者 2月15日
 - ・ 前期末をもって卒業要件を満たす者 7月末日
- ② 前項により卒業の延期を許可された学生(以下「卒業延期者」)に対しては、卒業延期許可通知を本人および保証人に交付する。
- ③ 卒業延期者が、事情変更により、本来卒業すべき年度での卒業を希望する場合は、3月10日(当該日が休日の場合はその前日)までに卒業延期許可取消願を提出した場合に限り、教授会で審議の上、認められる。ただし、前期末をもって卒業要件を満たす卒業延期者は、取消しはできない。
- ④ 卒業延期者が、延期期間に係る授業料等の納付金を、以下の期日(当該日が休日又は土曜日に当たるときは、その前日)までに納入しなかった場合は、卒業延期の許可を取り消し、当該年度末または前期末での卒業とする。
 - ・ 学年末をもって卒業要件を満たす者 3月20日
 - ・ 前期末をもって卒業要件を満たす者 9月19日
- ⑤ 繰上卒業を希望する学生は、7月末日までに繰上卒業願を提出し、9月上旬の教授会で審議の上、許可を受けなければならない。許可が得られた場合、後述する納付金の後期分を返還する。

4 申請窓口および提出先

1号館1階 教務部

5 申請期間

申請期間等の詳細は掲示等で案内する。

6 その他

- ・ 卒業延期者は、履修科目登録上限単位数の範囲内で授業科目を履修することができる。
 - ・ 卒業延期期間中は、病気の理由を除き、休学は認められない。なお、休学期間中の学費の減額は認められない。
 - ・ 卒業延期者の延期期間に係る授業料等の納付金については、以下のとおりとする。
 - 学年末をもって卒業要件を満たした者
授業料・施設費・学習図書整備費・教育充実費に限り年額の7割
 - 前期末をもって卒業要件を満たした者
授業料・施設費・学習図書整備費・教育充実費に限り年額の3割5分
- ※ その他の納付金である父母の会費、学友会費、学会費については、減額の対象とはならない。

社会イノベーション学部の人材育成の目的と3つの方針

I 人材育成の目的

社会イノベーション学部は、社会に持続した発展をもたらす人間の創造活動であるイノベーションについて学問横断的に理解し、社会に貢献する意欲をもって、自らそれらに関する問題を発見・設定・解決し、その成果を論理的また実践的な言語能力を活用して伝達することができる、社会に有為な人材を育成することを目的とする。

II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

社会イノベーション学部において学んだ学生は、本学部の人材育成の目的に照らして、卒業に際して以下のとおりに能力を身につけていることとする：

- A. イノベーションに関する基礎知識を活用する能力を身につけている；
- B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力を身につけている；
- C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力を身につけている；
- D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を身につけている。

III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

社会イノベーション学部は、その人材育成の目的を達成するために、以下のように教育課程を編成し実施する。

教授する内容に応じて、「専門科目」(必修科目)、「専門科目」(選択科目)、「基礎科目」、「外国語科目」、「学部共通科目」、「一般共通科目」、及び「総合教養科目」という科目群を配置する。

- A. イノベーションに関する基礎知識を活用する能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (1)「専門科目」(選択科目)
イノベーションに関して現在発展している分野の科目を配置する。イノベーションを政策、戦略、心理、社会という4つの視点から捉えるために、「政策系科目」、「戦略系科目」、「心理系科目」、「社会系科目」を配置する；
 - (2)「基礎科目」
イノベーションに密接に関連する既存学問領域の基礎的な科目を配置する；
- B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (3)「外国語科目」
実践的英語活用能力(“使える英語力”)を涵養する科目を配置する。世界共通言語(リンガフランカ)としての英語について、コミュニケーション手段としてのみならず、生活習慣や文化様式といった言語で表象される社会・文化的背景をも踏まえて理解できるように履修させる；
 - (4)「学部共通科目」
英語力のさらなる向上及び英語以外の外国語の能力を涵養する科目を配置する；
 - (5)「一般共通科目」
情報リテラシー、身体スキル、キャリア形成技能を涵養する科目を配置する；

- C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力の涵養に主として関連する科目群：
- (6)「総合教養科目」
 専門能力を適切に発揮させる基盤として、健全な懐疑の精神と幅広い視野をもった洗練された教養を高める科目を配置する；
- D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力の涵養に主として関連する科目群：
- (7)「専門科目」(必修科目)
 総合的に知識・技能を発揮させて、問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を涵養する科目(ゼミナール)、及び、その能力を活用して、自律的な取り組みにより研究成果を取り纏める能力を涵養する科目(卒業研究)を配置する。

Ⅳ 入学者の受入れに 関する方針 (アドミッション・ポリシー)

社会イノベーション学部は、その人材育成の目的を達成するために、入学者には、以下のような学力、関心等を有することを求める：

- (a) イノベーションに関する知識を修得するために必要な基礎的学力；
- (b) 日本語及び英語の基礎的活用能力；
- (c) 自己を成長させることにより社会に貢献しようとする意欲；
- (d) イノベーションに関する興味と、関連する問題の発見・解決に自律的に取り組む関心。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

社会イノベーション学部 政策イノベーション学科の 人材育成の目的と3つの方針

I 人材育成の目的

政策イノベーション学科は、社会に持続可能な発展をもたらすイノベーションの創出・推進について学問横断的に理解し、社会に貢献する意欲をもって、自らそれらに関連する問題を発見・設定・解決し、その成果を論理的に日本語で表現する能力及び実践的に英語でコミュニケーションする能力を活用して伝達することができる、社会に有為な人材を育成することを目的とする。

II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

政策イノベーション学科において学んだ学生は、本学科の人材育成の目的に照らして、卒業に際して以下のとおりに能力を身につけていることとする：

- A. イノベーションの創出・推進に関する学術的知識を中心とするイノベーションに関する基礎知識を活用する能力を身につけている；
- B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力を身につけている；
- C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力を身につけている；
- D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を身につけている。

III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

政策イノベーション学科は、その人材育成の目的を達成するために、以下のように教育課程を編成し実施する。

教授する内容に応じて、「専門科目」(必修科目)、「専門科目」(選択科目)、「基礎科目」、「外国語科目」、「学部共通科目」、「一般共通科目」、及び「総合教養科目」という科目群を配置する。

- A. イノベーションに関する基礎知識を活用する能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (1) 「専門科目」(選択科目)
イノベーションに関して現在発展している分野の科目を配置する。イノベーションを政策、戦略、心理、社会という4つの視点から捉えるために、「政策系科目」、「戦略系科目」、「心理系科目」、「社会系科目」を配置し、「政策系科目」と「戦略系科目」の科目を重点的に履修させる；
 - (2) 「基礎科目」
イノベーションに密接に関連する既存学問領域の基礎的な科目を配置する；
- B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (3) 「外国語科目」
実践的英語活用能力(“使える英語力”)を涵養する科目を配置する。世界共通言語(リンガフランカ)としての英語について、コミュニケーション手段としてのみならず、生活習慣や文化様式といった言語で表象される社会・文化的背景をも踏まえて理解できるように履修させる；

(4)「学部共通科目」

英語力のさらなる向上及び英語以外の外国語の能力を涵養する科目を配置する；

(5)「一般共通科目」

情報リテラシー、身体スキル、キャリア形成技能を涵養する科目を配置する；

C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力の涵養に主として関連する科目群：

(6)「総合教養科目」

専門能力を適切に発揮させる基盤として、健全な懐疑の精神と幅広い視野をもった洗練された教養を高める科目を配置する；

D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力の涵養に主として関連する科目群：

(7)「専門科目」(必修科目)

総合的に知識・技能を発揮させて、問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を涵養する科目(ゼミナール)、及び、その能力を活用して、自律的な取り組みにより研究成果を取り纏める能力を涵養する科目(卒業研究)を配置する。

Ⅳ 入学者の受入れに 関する方針 (アドミッション・ポリシー)

政策イノベーション学科は、その人材育成の目的を達成するために、入学者には、以下のよう
な学力、関心等を有することを求める：

- (a) イノベーションに関する知識を修得するために必要な基礎的学力；
- (b) 日本語及び英語の基礎的活用能力；
- (c) 自己を成長させることにより社会に貢献しようとする意欲；
- (d) イノベーションに関する興味と、関連する問題発見・解決に自律的に取り組む関心。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

社会イノベーション学部 心理社会学科の 人材育成の目的と3つの方針

I 人材育成の目的

心理社会学科は、社会に持続可能な発展をもたらすイノベーションの生成・普及・受容・社会や文化への影響について学問横断的に理解し、社会に貢献する意欲をもって、自らそれらに関連する問題を発見・設定・解決し、その成果を論理的に日本語で表現する能力及び実践的に英語でコミュニケーションする能力を活用して伝達することができる、社会に有為な人材を育成することを目的とする。

II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

心理社会学科において学んだ学生は、本学科の人材育成の目的に照らして、卒業に際して以下のとおりに能力を身につけていることとする：

- A. イノベーションの生成・普及・受容・社会や文化への影響に関する学術的知識を中心とするイノベーションに関する基礎知識を活用する能力を身につけている；
- B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力を身につけている；
- C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力を身につけている；
- D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を身につけている。

III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

心理社会学科は、その人材育成の目的を達成するために、以下のように教育課程を編成し実施する。

教授する内容に応じて、「専門科目」(必修科目)、「専門科目」(選択科目)、「基礎科目」、「外国語科目」、「学部共通科目」、「一般共通科目」、及び「総合教養科目」という科目群を配置する。

- A. イノベーションに関する基礎知識を活用する能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (1) 「専門科目」(選択科目)
イノベーションに関して現在発展している分野の科目を配置する。イノベーションを政策、戦略、心理、社会という4つの視点から捉えるために、「政策系科目」、「戦略系科目」、「心理系科目」、「社会系科目」を配置し、「心理系科目」と「社会系科目」の科目を重点的に履修させる；
 - (2) 「基礎科目」
イノベーションに密接に関連する既存学問領域の基礎的な科目を配置する；
- B. 日本語を用いて論理的に表現する能力及び英語を用いて実践的にコミュニケーションする能力の涵養に主として関連する科目群：
 - (3) 「外国語科目」
実践的英語活用能力(“使える英語力”)を涵養する科目を配置する。世界共通言語(リンガフランカ)としての英語について、コミュニケーション手段としてのみならず、生活習慣や文化様式といった言語で表象される社会・文化的背景をも踏まえて理解できるように履修させる；

(4)「学部共通科目」

英語力のさらなる向上及び英語以外の外国語の能力を涵養する科目を配置する；

(5)「一般共通科目」

情報リテラシー、身体スキル、キャリア形成技能を涵養する科目を配置する；

C. 社会に貢献できるよう、実際上の問題に取り組む能力の涵養に主として関連する科目群：

(6)「総合教養科目」

専門能力を適切に発揮させる基盤として、健全な懐疑の精神と幅広い視野をもった洗練された教養を高める科目を配置する；

D. 自律的に問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力の涵養に主として関連する科目群：

(7)「専門科目」(必修科目)

総合的に知識・技能を発揮させて、問題を発見・設定・解決し、その成果を伝達する能力を涵養する科目(ゼミナール)、及び、その能力を活用して、自律的な取り組みにより研究成果を取り纏める能力を涵養する科目(卒業研究)を配置する。

IV

入学者の受入れに関する方針

(アドミッション・ポリシー)

心理社会学科は、その人材育成の目的を達成するために、入学者には、以下のような学力、関心等を有することを求める：

- (a) イノベーションに関する知識を修得するために必要な基礎的学力；
- (b) 日本語及び英語の基礎的活用能力；
- (c) 自己を成長させることにより社会に貢献しようとする意欲；
- (d) イノベーションに関する興味と、関連する問題発見・解決に自律的に取り組む関心。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

教育理念と教育の特徴

教育理念と 教育目的

成城学園は、1917（大正6）年、澤柳政太郎博士による成城小学校の創設をもってその起源としている。文部次官、東北帝国大学総長、京都帝国大学総長を歴任し、当時の教育界において指導的役割を果たしていた澤柳政太郎がこの小学校創設で目指したのは、画一的教育を排した「生きた教育」であり、創設にあたっては自ら次の4つの「希望理想」を掲げた。

- (ア) 個性尊重の教育
- (イ) 自然と親しむ教育
- (ウ) 心情の教育
- (エ) 科学的研究を基とする教育

この考え方は、当初、もっぱら児童への教育を念頭において掲げられたものであるが、当時としては革新的な内容であり、しかも現在の教育界においても十分に通用する普遍的内容を有している。この4つの目標を貫くのは、上からの「注入教育、詰め込み教育」、頭だけの知識を偏重する教育を退け、学生生徒の個性と自発性を重んじた自由な教育を実践することにより、柔軟な思考、豊かな人間性、そして高度な学識を兼ね備えた社会人を養成していくという教育理念である。成城大学では学園創設以来の個性と自発性を重んじた自由な教育という教育理念を、「全人教育」、「少数者教育」という具体的な形で終始一貫して実践してきた。

このような教育理念を持つ成城大学が、21世紀の社会のあり方を決定づける最重要な要因であるイノベーションの発生から普及までのメカニズムを分析し、広く高等教育として提供することを目的として設置したのが、社会イノベーション学部である。

成城大学では社会イノベーション学部の設置を国のイノベーション・システムの一翼を担う大学としての大きな責務であると同時に、成城大学がこれまで培ってきた教育理念が如何なく発揮される場とも考える。それはイノベーションという問題を教育研究対象として取り上げるためには、多くの学問分野から多角的に検討し、問題点を発見し、分析し、そして解決策を見出すという問題発見から問題解決までを一連のプロセスとして教育する問題志向型の教育が求められるからである。このような問題志向型の教育というのは、「頭だけの知識を偏重する教育を退け、学生生徒の個性と自発性を重んじた自由な教育を実践することにより、柔軟な思考、豊かな人間性、そして高度な学識を兼ね備えた社会人を養成する」という教育理念なくしては達成できないからである。

成城大学社会イノベーション学部では、イノベーションを科学的発見や技術的発明という次元からだけではなく、イノベーションを社会的行為として社会科学の視点からとらえ、その知識創造、知識活用プロセスに参画する国や企業の側面（政策・戦略の側面）と、イノベーションの遂行や普及を個人や社会の側面（心理・社会の側面）の両面から教育研究することをその教育目的とする。

社会イノベーション学部の教育は、自ら問題を見つけ出し、分析し、解決策を考えるという問題志向型の教育であるために、4年次のゼミナールⅡでの卒業研究指導、またそれによりどのような卒業研究が行われたかということが、最終的な学部教育での成果となる。

そのために、1、2年次では語学力、分析力、そしてイノベーションに密接に関連する既存学問領域の学習を通じて基礎学力の養成を目的としたカリキュラムとする。

語学力という点では、特に「使える英語力」の養成に努める。英語は現在、コミュニケーション手段として世界共通言語になっているが、社会イノベーション学部では英語をコミュニケーション手段としてだけでなく、生活習慣、文化様式といった言葉として表現されているものの社会・文化的背景をも踏まえて理解できる水準に達するまでの教育を行う。分析力の養成については1年次のデータ分析、2年次からの社会調査、市場調査に関する各種講義を通じて調査理論と分析手法の両方について学ぶ。また政策、戦略、心理、社会という4つの視点からイノベーションを考えるという学部の基本コンセプトから、イノベーションに関係する基礎的な既存学問領域として、経済学、政策学、行政学、国際関係学、経営学、心理学、社会学、社会心理学を配置し、履修させる。

2年次から開始される各学科の専門科目においては、現在行われている先端的な分野についての教育が中心となる。国のイノベーション政策、イノベーションの経済的分析、イノベーションを支える金融システム、グローバルガバナンスといったイノベーションに関する国レベルと国際レベルの政策問題を取り扱う「政策系科目」、現代企業の特長、企業のイノベーション戦略、組織変革、企業評価、研究開発戦略といったイノベーションの実行主体である企業の戦略行動に焦点を当てる「戦略系科目」、イノベーションの普及過程、認知心理、パーソナリティ、メディアイノベーションといったイノベーションが人間個人の心理と行動に及ぼす影響を考える「心理系科目」、イノベーションが普及することにより社会や文化が受ける影響を社会システム、社会変動、人間生活、文化、宗教、社会慣習といったそれぞれの観点から考える「社会系科目」とから構成する。

また高度に科学が細分化された21世紀に生きる人間にとって、その専門能力の養成は必要不可欠であるが、その専門能力も洗練された教養人としての健全な懐疑の精神と幅広い視野があってこそ十分正しい方向に発揮される。この認識の下に、1年次からテーマ別に教養教育科目を配置することにより広く興味を持って教養関連科目を履修できるように工夫し、また少人数教育という成城大学の特徴を1年次から活かすためにゼミナール形式の授業である教養演習の充実も図り、情報発信できる日本語能力の向上にも配慮している。

政策イノベーション学科では、国や企業がその行動主体となり、知識創造、知識活用を行い、最終的には産業創造や、市場創造に結びつくイノベーションの持つ「創造」の側面に教育の重点が置かれる。すなわち、イノベーションに関する政策や戦略の問題について教育を行う。

政策に関してはまず科学技術政策、および金融政策、公共政策などの経済政策をはじめとする国の政策や法律等のイノベーション創出のためのインフラにあたる国や国際レベルの問題が取り扱われる。企業レベルの問題ではイノベーションを生み出すための企業の経営戦略の策定とその遂行を中心とした問題が取り扱われる。

心理社会学科では、個人の創造性開発を始め、イノベーションが認知、採用され、最終的に社会全体にどのように普及し、どのような社会的変容をもたらすかという、イノベーションが人間の心理や行動、そして社会や文化へ与える影響、すなわち「支援・普及」の側面に焦点を当てた教育を行う。

人間心理に関しては、イノベーションがどのように個人に認知され、普及するのか、また個人における創造性の開発などの問題が取り扱われる。社会レベルではメディア等を通じて伝播されたイノベーションが社会のあり方をどのように変化させるか、またインターネット等の普及が地域の社会意識、社会構造、ひいては文化にどのような影響を及ぼしているのか、また逆に宗教や文化がイノベーションに与える影響といった問題が取り扱われる。

また、イノベーションに関する効果的な政策や戦略という問題を考えるには、イノベーションの人間心理に与える影響、さらにイノベーションの社会全体や文化に及ぼす影響といった社会・文化に根ざす問題の考察を抜きにしては考えることはできないし、逆にイノベーションの人間心理や社会に与える影響を考察するためには、国や企業といった活動主体の政策や戦略の理解が必要不可欠であることから、両学科とも、いずれの領域の専門科目とも一定単位以上履修することを義務づけている。

履修規定

政策イノベーション学科

I	総説	32			
	A. 科目区分および卒業要件単位数	32			
	1) 科目区分				
	2) 卒業要件単位数				
	B. 履修科目登録上限単位数	32			
	1) 履修科目登録上限単位数制度				
	2) 履修科目登録上限単位数				
	C. コース認定制度	33			
	D. 2年次から3年次への進級基準	33			
			2) 選択A・B		
			3) OCA		
			4) コース制度		
			D. 総合教養科目	38	
			教養演習		
			E. 学部共通科目	43	
			F. 一般共通科目	45	
			1) スポーツ・ウエルネス教育科目		
			2) IT科目		
			3) WRD		
			4) キャリアデザイン科目		
II	科目区分別履修方法	34	III	政策イノベーション学科	
	A. 外国語科目	34		授業科目一覧	48
	1) 必修				
	2) TOEIC IPテスト				
	3) 未修得科目の再履修				
	B. 基礎科目	35	IV	科目番号 (科目ナンバリング)	52
	1) 必修				
	2) 選択				
	C. 専門科目	36	V	卒業要件単位に算入されない	
	1) 必修			授業科目	54

I 総説

A 科目区分および卒業要件単位数

1 科目区分

授業科目は、外国語科目、基礎科目、専門科目、総合教養科目、学部共通科目、一般共通科目の6つの科目区分から構成されている。

2 卒業要件単位数

卒業要件単位数は126単位であり、第1表に示す規定の単位数を修得しなければならない。

第1表 政策イノベーション学科 卒業要件科目および単位数

科目区分		規定単位数	
外国語科目	必修	14	14
基礎科目	必修	8	28
	選択A	12	
	選択B	4	
	選択C	4	
専門科目	必修	16	62
	選択A (注1)	32	
	選択B	14	
総合教養科目		12	12
学部共通科目		6	(注2) 6
一般共通科目		4	4
合計		126	

(注1) 学部共通科目の卒業要件単位6単位は、学部共通科目の中に配置されている授業科目のほか、基礎科目の選択A、選択B及び選択C並びに専門科目の選択A及び選択Bに配置されている授業科目の中から、それぞれ卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

(注2) 一般共通科目の卒業要件単位4単位は、一般共通科目の中に配置されている授業科目のほか、総合教養科目に配置されている授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

(注3) 留学先大学において修得した単位を本学の外国語科目の単位として認定した場合、外国語科目の卒業要件単位数を超過して修得した単位は、学部共通科目の卒業要件単位として充当することができる。

B 履修科目登録上限単位数

1 履修科目登録上限単位数制度

授業時間外の学修時間を十分に確保し、各科目の学修効果を促進することを目的として、履修科目が過多にならないよう1年間に履修できる単位数の上限を定めている。1年次から履修計画を立て、確実に単位を修得していくことが大切である。

2 履修科目登録上限単位数

- ① 各年次毎の履修科目登録上限単位数は**47単位**とする。
※ 2年次は、後期に「English II : Presentation and Discussion」を履修するため、教務部で事前に仮置きで1単位分について履修登録してある。
- ② 「資格英語」の2単位は履修科目登録上限単位数（47単位）に含まれない。
- ③ 1年次後期より、学部に設置する審査委員会において、成績資料を個別に審査（審査基準：前年度修得単位数40単位以上かつGPA値2.8以上（1年次生は前期GPA2.8以上））し、履修科目登録上限単位数を52単位まで認めることがある。希望者は所定の期間（別途、掲示にて告知）に教務部に申請すること。

C コース認定制度

本学部学生は、2年次進級時に、政策、戦略、心理、社会のいずれの領域を自分の今後の専門領域とするかを申告する。この専門領域のことを本学部では「コース」と呼ぶ。

コース認定制度は、科目区分の「専門科目」の「選択A」及び「選択B」の中から、コース認定要件に示される所定の単位数を修得した場合に、卒業時に当該コースの修了を認定する制度である。各コースの認定要件は第2表のとおりである。また、認定要件を満たしていれば、申告によらず複数のコースについて認定する。

このコース認定制度は、学生諸君が自らの学習目標を明確に意識することにより、自己の学習意欲向上を図ることを目的としたものである。また、コース毎に収容定員が設定されるものではない。なお、ゼミナールへの配属は、申告したコースの別に関わらずに、学科別に選考を通じて行われる。

コース申告の手続きなどについては、1年次終了時までにはガイダンスを行う。

第2表 コース認定要件

コース	認定要件
政策コース	専門科目選択科目の政策系科目から20単位以上
戦略コース	専門科目選択科目の戦略系科目から20単位以上
心理コース	専門科目選択科目の心理系科目から20単位以上
社会コース	専門科目選択科目の社会系科目から20単位以上

D 2年次から3年次への進級基準

2年次から3年次へ進級するには、2年次終了までに第3表に示す所定の単位を修得していなければならない。

第3表 進級基準

		授業科目	単位数
1年次必修科目	外国語科目	English I: Skills for Learning [a]	1
		English I: Skills for Learning [b]	1
		English I: Social Interaction [a]	1
		English I: Social Interaction [b]	1
		English I: Academic Interaction [a]	1
		English I: Academic Interaction [b]	1
		English I: Reading and Writing [a]	1
		English I: Reading and Writing [b]	1
	基礎科目	イノベーション概論 [a]	2
		イノベーション概論 [b]	2
		情報リテラシー	2
データ分析入門		2	
2年次必修科目	専門科目	基礎ゼミナール（政策）	いずれか 2
		基礎ゼミナール（戦略）	
上記必修科目以外の1・2年次配当科目（卒業要件外単位を除く）			15
合計			33

II 科目区分別履修方法

A 外国語科目

社会イノベーション学部では、英語が必修科目となっており、聞く、話す、読む、書くの4つのスキルをバランスよく身につけることができるようなカリキュラムが組まれている。卒業要件単位数は第4表のとおりである。

第4表 外国語科目規定単位数

区分	授 業 科 目	配当年次	規定単位数	主な技能
必修	English I: Skills for Learning [a]	1	1	基本技能
	English I: Skills for Learning [b]		1	
	English I: Social Interaction [a]		1	リスニング スピーキング
	English I: Social Interaction [b]		1	
	English I: Academic Interaction [a]		1	
	English I: Academic Interaction [b]		1	
	English I: Reading and Writing [a]		1	リーディング ライティング
	English I: Reading and Writing [b]		1	
	English II: Public Speaking	2	1	リスニング スピーキング
	English II: Presentation and Discussion		1	
	English II: Academic Reading and Writing [a]		1	リーディング ライティング
	English II: Academic Reading and Writing [b]		1	
	English II: Business Reading and Writing [a]		1	
	English II: Business Reading and Writing [b]		1	
計			14	

※ クラス分けについて

2年次必修の英語は、入学時に決められたクラスとは異なる英語専用のクラス [(1) ~ (14)] で受講する。教務部で事前登録を行うので、各自のクラスを、LiveCampusUの履修登録画面で確認すること。

1 必 修

1年次には、「English I: Skills for Learning [a]/[b]」で高校までに学習した知識とスキルの総復習に加え、レファレンススキルなどの大学レベルでの英語学習の基礎となるスキルを身につける。「English I: Reading and Writing [a]/[b]」では、読み書きの基礎を固める。主にネイティブ・スピーカーの講師による「English I: Social Interaction [a]/[b]」と「English I: Academic Interaction [a]/[b]」では、それぞれ日常生活とアカデミックな場面におけるコミュニケーション能力を身につける。

2年次の「English II: Business Reading and Writing [a]/[b]」と「English II: Academic Reading and Writing [a]/[b]」では、それぞれビジネスとアカデミックな場面に特化して読み書きのスキルを磨く。前期の「English II: Public Speaking」では、英語によるディスカッションやプレゼンテーション能力の基礎を学び、後期の「English II: Presentation and Discussion」では、前期に学んだスキルを繰り返しトレーニングし、場面に応じた英語コミュニケーション能力を身につける。

なお、外国語科目のうち1年次必修科目の単位数は、3年次への進級基準にも含まれており、3年次進級のためには同授業科目の単位数を修得している必要がある。

2年次後期の「English II: Presentation and Discussion」は、前期の「English II: Public Speaking」が合格又は認定の場合に限り履修可能である。LiveCampusUの履修登録画面上には、「English II: Presentation and Discussion」が表示されるが、「English II: Public Speaking」の単位数が未修得の場合は、前期の成績確定後に、教務部が「English II: Presentation and Discussion」の登録を削除する。また、「English II: Business Reading and Writing [b]」は、履修年度（単位数を取得しようとする年度）のTOEICスコアが450点に満たない場合は授業内の成果にかかわらず不可とする。

※2021年度をもって「English I: Social Interaction」及び「English I: Academic Interaction」が廃講となり、2022年度に「English I: Social Interaction [a]/[b]」及び「English I: Academic Interaction [a]/[b]」が新設された。旧科目の単位数を修得している場合、新科目の単位数を修得済みであるとみなされる。

2 TOEIC IP
テスト

本学部学生には、1年次から3年次までの各年次において、学内で実施するTOEIC IPテスト、または学外で実施されるTOEIC Listening & Reading Testを年1回受験することを義務づけている。これは学生諸君が自らの英語力を継続的にチェックすることにより、学習意欲の向上を図り、さらに社会に対して自らの英語力を広くアピールすることを目的として行われる。また、外国語科目（英語）必修科目の授業科目である「EnglishⅡ：Business Reading and Writing [b]」については、TOEICテストにおいて一定の水準に到達することを単位修得の条件としており、ひいては、本学部卒業の要件ともなっている。

TOEIC IPテストには、本学部で実施されるものの他に、学内のキャリアセンターなどで実施されるものもある。本学部で実施されるTOEIC IPテスト以外により獲得したスコアを用いる場合には、別途掲示する所定期日までに、それらのテストのスコアカードを3号館4階社会イノベーション学部研究事務室に持参して申告する必要がある。本学部で実施されるTOEIC IPテストの受験手続きに関する情報は、別途掲示して通知する。また、TOEIC IPテスト等の受験手続きに関する問い合わせは、3号館4階社会イノベーション学部研究事務室にて受け付ける。

3 未修得科目の
再履修

① 1年次の必修科目

再履修者対象の授業科目（1年次配当）を履修すること。

② 2年次の必修科目

再履修者対象の授業科目（2年次配当）を履修すること。

B 基礎科目

基礎科目は、必修、選択A、選択B、選択Cの4区分から構成されている。それぞれの科目区分の卒業要件単位数は第5表のとおりである。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧」を参照すること。

第5表 基礎科目規定単位数

科目区分		規定単位数
基礎科目	必修	8
	選択A	12
	選択B	4
	選択C	4
計		28

1 必修

基礎科目必修の授業科目は、第6表のとおりである。これらの授業科目は、イノベーションについてどのように考えるかということを理解すると同時に、必要な情報をどのように獲得し、加工するかという基礎的分析能力を身につけることを目的とする。なお、基礎科目の必修科目の単位は、3年次への進級基準にも含まれており、3年次進級のためには必ず同授業科目の単位を修得している必要がある。

第6表 基礎科目必修科目

授業科目	配当年次	単位
イノベーション概論 [a]	1	2
イノベーション概論 [b]	1	2
情報リテラシー	1	2
データ分析入門	1	2

《履修上の注意》

- ① 基礎科目必修科目が不合格の場合は、翌年度に再履修すること。
- ② 上記科目を再履修する場合は、特別な手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ③ 以下のように授業科目の名称変更がされた。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

変更年度	新授業科目	旧授業科目
2023年度	イノベーション概論 [a]	イノベーション概論
	イノベーション概論 [b]	科学技術と社会

2 選 択

基礎科目における選択科目は、第7表に示されており、選択A、選択B、選択Cの3つに分けられている。選択Aには、4年間のイノベーションに関する学修の基礎となる授業科目が、選択Bには、分析方法に関する授業科目が配置されている。また、選択Cには、イノベーションを推進するに当たり、その社会的な影響面をより広い視野から検討し、イノベーションのもたらす便益とその問題点を深く考察する授業科目が配置されている。

第7表 基礎科目選択科目

区 分	授 業 科 目	配当年次	単 位	備 考
選択A	経済学*	1~2	4	この区分内の授業科目から、12単位以上を選択すること。 なお、*印のついた科目から8単位以上を必ず選択すること。
	国際関係学*	1~2	4	
	政策学*	1~2	2	
	行政学*	1~2	2	
	経営学*	1~2	4	
	統計学*	1~2	4	
	心理学	1~2	4	
	社会学	1~2	4	
選択B	社会心理学	1~2	4	この区分内の授業科目から、4単位以上を選択すること。
	社会調査法	2~4	4	
	心理実験法	2~4	4	
	メッセージ分析法	2~4	4	
	市場調査法	2~4	4	
選択C	心理研究法	2~4	4	この区分内の授業科目から、4単位以上を選択すること。
	エコロジー論	1~4	4	
	生命倫理論	1~4	4	
	比較文化論	1~4	4	
	生命の科学	1~4	4	
	文明と社会	1~4	4	
	家族と社会の変動	1~4	4	
地域と文化	1~4	4		

《履修上の注意》

- ① 「社会調査法」、「心理実験法」、「市場調査法」及び「心理研究法」は、機材の関係上、履修者数について制限が行われる。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 選択A、選択B、選択Cに属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超過して修得した単位は、学部共通科目に充当することができる。

C 専門科目

専門科目は、必修、選択A、選択Bの3区分から構成されている。それぞれの科目区分の卒業要件単位数は第8表のとおりである。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧」を参照すること。

第8表 専門科目規定単位数

科 目 区 分		規定単位数
専 門 科 目	必 修	16
	選 択 A	32
	選 択 B	14
計		62

1 必 修

専門科目の授業科目は、第9表のとおりである。

第9表 専門科目必修科目

授 業 科 目	配当年次	単 位
基礎ゼミナール（政策）	2	2
基礎ゼミナール（戦略）	2	2
ゼミナールⅠ	3	4
ゼミナールⅡ	4	4
卒 業 研 究	4	4

《履修上の注意》

- ① 「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」及び「卒業研究」は、原則として同一担当教員の指導の下で履修しなければならない。
- ② 「ゼミナールⅠ」が不合格の者は、「ゼミナールⅡ」及び「卒業研究」を履修することができない。
- ③ 卒業研究の提出要領については、【授業に関することⅧ卒業研究】を参照すること。

2 選択A・B

専門科目における選択科目は、選択Aと選択Bに分けられる。

選択Aは、科学技術政策や産業政策をはじめとするイノベーション促進のための国の政策や法制度のあり方を考える政策系科目、研究開発戦略、新ビジネスモデルの構築、新製品開発活動など企業戦略のあり方に迫る戦略系科目、及び学科共通科目に分かれる。

選択Bは、新製品やブランドを受け入れる消費者心理、イノベーションを生み出す個人の創造力とコミュニケーションの可能性を探る心理系科目、イノベーションと社会の関わり、宗教・文化・環境とイノベーションの関係など、社会的な問題を扱う社会系科目、及び学科共通科目に分かれる。

選択A及び選択Bの授業科目は、第10表のとおりである。

第10表 専門科目選択科目

区分	授業科目	配当年次	単位	授業科目	配当年次	単位	
選択A	政策系科目	イノベーション政策論	2~4	4	イノベーション経済論	3・4	4
		経済政策	2~4	2	公共政策論	3・4	2
		公共経済学	2~4	2	知的財産法	3・4	2
		科学技術論	2~4	2	リテールファイナンス論	3・4	2
		金融システム論	2~4	2	金融イノベーション論Ⅱ	3・4	2
		金融イノベーション論Ⅰ	2~4	2	比較イノベーション論	3・4	2
		日本経済論	2~4	2	グローバルガバナンス論	3・4	2
		日本金融論	2~4	2	国際機構論	3・4	4
		国際協力・開発イノベーション論	2~4	4	地域イノベーション論	3・4	4
		開発政策論	2~4	2			
		開発支援論	2~4	2			
	国際法	2~4	4				
	地域政策論	2~4	4				
	戦略系科目	イノベーション戦略論	2~4	4	人的資源論	3・4	4
		戦略論	2~4	2	新商品開発論	3・4	2
		組織論	2~4	2	ベンチャービジネス論	3・4	2
		マーケティング論	2~4	2	研究開発管理論	3・4	2
		現代企業論	2~4	4	トップマネジメント論	3・4	2
		企業家史	2~4	4	企業評価論	3・4	4
組織イノベーション論		2~4	4				
グローバル・イノベーション・マネジメント論		2~4	4				
科目共通	消費行動論	2~4	2				
	OCA	2~4	2	政策イノベーション特殊講義Ⅰ	3・4	2	
	イノベーション・マネジメント実践演習	2~4	2	政策イノベーション特殊講義Ⅱ	3・4	2	
選択B	心理系科目	コミュニケーション・デザイン実践演習	2~4	2			
		イノベーション心理学	2~4	4	組織心理学	3・4	2
		認知心理学Ⅰ	2~4	2	意思決定論	3・4	2
		認知心理学Ⅱ	2~4	2	経済心理学	3・4	2
		パーソナリティ心理学	2~4	2	ワークプレイス論	3・4	2
		メディア心理学	2~4	4	対人コミュニケーション論	3・4	4
		異文化間心理学	2~4	2	認知言語学	3・4	4
					ヒューマンインターフェイス論	3・4	4
					産業カウンセリング	3・4	4
	社会系科目	イノベーション社会論	2~4	4	宗教社会論Ⅰ	3・4	2
		社会システム論	2~4	4	宗教社会論Ⅱ	3・4	2
		日本社会文化論Ⅰ	2~4	2	社会人類学	3・4	2
		日本社会文化論Ⅱ	2~4	2	NGO・NPO論	3・4	2
		アジア社会文化論	2~4	4	社会調査専門演習	3・4	4
		アメリカ社会文化論Ⅰ	2~4	2			
		アメリカ社会文化論Ⅱ	2~4	2			
		現代国際社会学	2~4	4			
		異文化間コミュニケーション論Ⅰ	2~4	2			
		異文化間コミュニケーション論Ⅱ	2~4	2			
科目共通	環境社会論Ⅰ	2~4	2				
	環境社会論Ⅱ	2~4	2				
	現代社会福祉論	2~4	2				
	ケアの社会学	2~4	2				
				心理社会学特殊講義	3・4	2	

2 選択 A・B (つづき)

《履修上の注意》

- ① 選択 A 及び選択 B に属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、**学部共通科目**に充当することができる。
- ② 以下の科目は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【**授業に関すること**】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

日本経済論	日本金融論	コミュニケーション・デザイン実践演習
産業カウンセリング	社会調査専門演習	

- ③ 2020年度より「政策イノベーション特殊講義」は「政策イノベーション特殊講義Ⅰ」に科目名称が変更された。旧科目の単位を修得済みの場合、新科目を履修することができない。
- ④ 2020年度に「政策イノベーション特殊講義Ⅱ」が新設された。
- ⑤ 2019年度をもって「環境社会論」が廃講となり、2020年度に「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅱ」が新設された。「環境社会論」の単位を修得している場合、「環境社会論Ⅰ」を履修することはできない。
- ⑥ 2022年度に以下のように授業科目が変更された。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新 授 業 科 目	旧 授 業 科 目
認知心理学Ⅰ	認知心理学
認知心理学Ⅱ	
日本社会文化論Ⅰ	日本社会文化論
日本社会文化論Ⅱ	
アメリカ社会文化論Ⅰ	アメリカ社会文化論
アメリカ社会文化論Ⅱ	
現代社会福祉論	生活福祉論
ケアの社会学	
宗教社会論Ⅰ	宗教社会論
宗教社会論Ⅱ	

- ⑦ 2022年度をもって、「不動産開発論」、「都市開発論」、および「ロジスティクス論」は廃講となった。なお、修得済みの単位は専門科目選択Aの単位として認められる。
- ⑧ 2023年度に「地域イノベーション論」、「コミュニケーション・デザイン実践演習」が新設された。
- ⑨ 2023年度より「社会イノベーション特殊演習」は「イノベーション・マネジメント実践演習」に科目名称が変更された。旧単位を修得済みの場合、新科目を履修することができない。

3 OCA

選択A 学科共通科目で2年次より開講される「OCA」とは、オフ・キャンパス・アクティビティの略語であり、企業や政府、地方公共団体、NPO / NGOなどの諸組織・諸機関において、就業体験（インターンシップ）を積むことにより、実社会への理解、社会において必要な能力・スキルへの理解を深めるとともに、将来のキャリア形成に役立つ実践的な経験を積むことを目的として置かれている科目である。

※ 登録方法については、【**授業に関すること**】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

※ 「OCA事前講義」及び「OCA」は、年度をかえて同一名称の授業科目を反復履修できる。**ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位として認めない。**

4 コース制度

専門科目の選択A及び選択Bの中から所定の単位を修得した場合、卒業時にコース修了の認定が与えられる。詳細については、【**履修規定**】Ⅰ 総説 Ⅲ コース認定制度】及び【**履修モデル**】を参照すること。

D 総合教養科目

高度に科学が細分化された21世紀に生きる人間にとって、その専門能力の養成は必要不可欠であるが、その専門能力も洗練された教養人としての健全な懐疑の精神と幅広い視野があってこそ正しい方向に発揮される。この認識の下に、多様な分野の授業科目が開設されているのが**総合教養科目**である。この科目区分の授業科目は**第11表**のとおりである。卒業要件単位数は**12単位**である。

なお、総合教養科目には全学共通教育カリキュラムで用意された科目が含まれている。全学共通教育の理念等は、【**全学共通教育科目**】の項に記載されている。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧」を参照すること。

第11表 総合教養科目

分野	授業科目	配当年次	単位	分野	授業科目	配当年次	単位	
全学共通教育科目	短期学外演習	1~4	2	基幹	法学（含む日本国憲法）a	1~4	2	
	教養演習	1~4	4		法学（含む日本国憲法）b	1~4	2	
	応用英語研究	3・4	4		社会構造論Ⅰa	1~4	2	
	言語コミュニケーション演習	3・4	4		社会構造論Ⅰb	1~4	2	
全学共通教育科目 教養科目群	総合科目	総合講座Ⅰ	1~4	2	社会構造論Ⅱa	1~4	2	
		総合講座Ⅱ	1~4	2	社会構造論Ⅱb	1~4	2	
		総合講座Ⅲ	1~4	2	社会構造論Ⅲa	1~4	2	
		総合講座Ⅳ	1~4	2	社会構造論Ⅲb	1~4	2	
		総合講座Ⅴ	1~4	2	社会構造論Ⅳa	1~4	2	
		総合講座Ⅵ	1~4	2	社会構造論Ⅳb	1~4	2	
		特別講座Ⅰ	1~4	2	社会構造論Ⅴa	1~4	2	
		特別講座Ⅱ	1~4	2	社会構造論Ⅴb	1~4	2	
		成城学	成城学園を知る	1~4	2	社会構造論Ⅵa	1~4	2
			成城学Ⅰ	1~4	2	社会構造論Ⅵb	1~4	2
成城学Ⅱ	1~4		2	社会構造論演習 a	1~4	2		
成城学Ⅲ	1~4		2	社会構造論演習 b	1~4	2		
成城学Ⅳ	1~4		2	哲学入門 a	1~4	2		
成城学Ⅴ	1~4	2	哲学入門 b	1~4	2			
全学共通教育科目 教養科目群（系列科目）	基幹	社会学入門 a	1~4	2	宗教学入門 a	1~4	2	
		社会学入門 b	1~4	2	宗教学入門 b	1~4	2	
		メディア論入門 a	1~4	2	倫理学入門 a	1~4	2	
		メディア論入門 b	1~4	2	倫理学入門 b	1~4	2	
	現代社会論系列 展開	現代社会論Ⅰa	1~4	2	西洋思想入門 a	1~4	2	
		現代社会論Ⅰb	1~4	2	西洋思想入門 b	1~4	2	
		現代社会論Ⅱa	1~4	2	東洋思想入門 a	1~4	2	
		現代社会論Ⅱb	1~4	2	東洋思想入門 b	1~4	2	
		現代社会論Ⅲa	1~4	2	日本思想入門 a	1~4	2	
		現代社会論Ⅲb	1~4	2	日本思想入門 b	1~4	2	
		現代社会論Ⅳa	1~4	2	思想・人間論Ⅰa	1~4	2	
		現代社会論Ⅳb	1~4	2	思想・人間論Ⅰb	1~4	2	
		現代社会論Ⅴa	1~4	2	思想・人間論Ⅱa	1~4	2	
		現代社会論Ⅴb	1~4	2	思想・人間論Ⅱb	1~4	2	
		現代社会論Ⅵa	1~4	2	思想・人間論Ⅲa	1~4	2	
		現代社会論Ⅵb	1~4	2	思想・人間論Ⅲb	1~4	2	
		現代社会論Ⅶa	1~4	2	思想・人間論演習 a	1~4	2	
		現代社会論Ⅶb	1~4	2	思想・人間論演習 b	1~4	2	
		現代社会論Ⅷa	1~4	2	文学入門 a	1~4	2	
		現代社会論Ⅷb	1~4	2	文学入門 b	1~4	2	
社会構造論系列 基幹	現代社会論演習 a	1~4	2	言語学入門 a	1~4	2		
	現代社会論演習 b	1~4	2	言語学入門 b	1~4	2		
	国際関係論入門 a	1~4	2	音楽入門 a	1~4	2		
	国際関係論入門 b	1~4	2	音楽入門 b	1~4	2		
	経済学入門 a	1~4	2	表象文化論入門 a	1~4	2		
	経済学入門 b	1~4	2	表象文化論入門 b	1~4	2		
	政治学入門 a	1~4	2	表現文化論Ⅰa	1~4	2		
	政治学入門 b	1~4	2	表現文化論Ⅰb	1~4	2		
	情報社会論入門 a	1~4	2	表現文化論Ⅱa	1~4	2		
	情報社会論入門 b	1~4	2	表現文化論Ⅱb	1~4	2		

履修規定

政策イノベーション学科

第11表 総合教養科目 (つづき)

分野	授業科目	配当年次	単位	分野	授業科目	配当年次	単位			
全学共通教育科目 教養科目群(系列科目)	表現文化論系列 展開	表現文化論Ⅲa	1~4	2	地域空間論系列 展開	地域空間論Ⅵa	1~4	2		
		表現文化論Ⅲb	1~4	2		地域空間論Ⅵb	1~4	2		
		表現文化論Ⅳa	1~4	2		地域空間論Ⅶa	1~4	2		
		表現文化論Ⅳb	1~4	2		地域空間論Ⅶb	1~4	2		
		表現文化論Ⅴa	1~4	2		地域空間論Ⅷa	1~4	2		
		表現文化論Ⅴb	1~4	2		地域空間論Ⅷb	1~4	2		
		表現文化論Ⅵa	1~4	2		地域空間論演習 a	1~4	2		
		表現文化論Ⅵb	1~4	2		地域空間論演習 b	1~4	2		
		表現文化論演習 a	1~4	2						
		表現文化論演習 b	1~4	2						
	歴史文化論系列 展開	歴史文化論系列 展開	歴史学入門 a	1~4	2	数理・自然科学系列 展開	数理の世界 a	1~4	2	
			歴史学入門 b	1~4	2		数理の世界 b	1~4	2	
			日本近現代史 a	1~4	2		物理の世界 a	1~4	2	
			日本近現代史 b	1~4	2		物理の世界 b	1~4	2	
			ヨーロッパ近現代史 a	1~4	2		化学の世界 a	1~4	2	
			ヨーロッパ近現代史 b	1~4	2		化学の世界 b	1~4	2	
			アジア近現代史 a	1~4	2		生命科学の世界 a	1~4	2	
			アジア近現代史 b	1~4	2		生命科学の世界 b	1~4	2	
			アメリカ近現代史 a	1~4	2		科学史 a	1~4	2	
			アメリカ近現代史 b	1~4	2		科学史 b	1~4	2	
歴史文化論系列 展開	歴史文化論系列 展開	歴史文化論Ⅰa	1~4	2	自然科学系列 展開	自然科学Ⅰa	1~4	2		
		歴史文化論Ⅰb	1~4	2		自然科学Ⅰb	1~4	2		
		歴史文化論Ⅱa	1~4	2		自然科学Ⅱa	1~4	2		
		歴史文化論Ⅱb	1~4	2		自然科学Ⅱb	1~4	2		
		歴史文化論Ⅲa	1~4	2		自然科学Ⅲa	1~4	2		
		歴史文化論Ⅲb	1~4	2		自然科学Ⅲb	1~4	2		
		歴史文化論Ⅳa	1~4	2		自然科学Ⅳa	1~4	2		
		歴史文化論Ⅳb	1~4	2		自然科学Ⅳb	1~4	2		
		歴史文化論Ⅴa	1~4	2		自然科学Ⅴa	1~4	2		
		歴史文化論Ⅴb	1~4	2		自然科学Ⅴb	1~4	2		
歴史文化論系列 展開	歴史文化論系列 展開	歴史文化論演習 a	1~4	2	数理・自然科学演習 a	1~4	2			
		歴史文化論演習 b	1~4	2	数理・自然科学演習 b	1~4	2			
		歴史文化論演習 a	1~4	2						
		歴史文化論演習 b	1~4	2						
		文化人類学入門 a	1~4	2	基幹	こころと身体 a	1~4	2		
		文化人類学入門 b	1~4	2		こころと身体 b	1~4	2		
		空間システム論入門 a	1~4	2		身体と運動・スポーツ a	1~4	2		
		空間システム論入門 b	1~4	2	身体と運動・スポーツ b	1~4	2			
		地域空間論系列 展開	地域空間論系列 展開	地域空間論Ⅰa	1~4	2	心身論系列 展開	心身論Ⅰa	1~4	2
				地域空間論Ⅰb	1~4	2		心身論Ⅰb	1~4	2
地域空間論Ⅱa	1~4			2	心身論Ⅱa	1~4		2		
地域空間論Ⅱb	1~4			2	心身論Ⅱb	1~4		2		
地域空間論Ⅲa	1~4			2	心身論Ⅲa	1~4		2		
地域空間論Ⅲb	1~4			2	心身論Ⅲb	1~4		2		
地域空間論Ⅳa	1~4			2	心身論Ⅳa	1~4		2		
地域空間論Ⅳb	1~4			2	心身論Ⅳb	1~4		2		
地域空間論Ⅴa	1~4			2	心身論Ⅴa	1~4		2		
地域空間論Ⅴb	1~4			2	心身論Ⅴb	1~4		2		
地域空間論系列 展開	地域空間論系列 展開	地域空間論Ⅴa	1~4	2	心身論演習 a	1~4	2			
		地域空間論Ⅴb	1~4	2	心身論演習 b	1~4	2			

履修規定

政策イノベーション学科

第11表 総合教養科目 (つづき)

区分	授業科目	配当年次	単位	区分	授業科目	配当年次	単位		
全学共通教育科目 国際交流科目群	英語等による日本事情関係科目	Japan Studies I A	1~4	2	全学共通教育科目 国際交流科目群	英語等による特定のテーマを扱った科目	Special Topics I A	1~4	2
		Japan Studies I B	1~4	2			Special Topics I B	1~4	2
		Japan Studies II A	1~4	2			Special Topics II A	1~4	2
		Japan Studies II B	1~4	2			Special Topics II B	1~4	2
		Japan Studies III A	1~4	2			Special Topics III A	1~4	2
		Japan Studies III B	1~4	2			Special Topics III B	1~4	2
		Japan Studies IV A	1~4	2			Special Topics IV A	1~4	2
		Japan Studies IV B	1~4	2			Special Topics IV B	1~4	2
		Japan Studies V A	1~4	2			Special Topics V A	1~4	2
		Japan Studies V B	1~4	2			Special Topics V B	1~4	2
		Japan Studies VI A	1~4	2					
		Japan Studies VI B	1~4	2					
		Japan Studies VII A	1~4	2					
		Japan Studies VII B	1~4	2					
		Japan Studies VIII A	1~4	2					
Japan Studies VIII B	1~4	2							

【2022年度以降入学者用】

区分	授業科目	配当年次	単位
全学共通教育科目 データサイエンス科目群	リテラシー科目	データサイエンス概論	1~4 2
		データサイエンス基礎	1~4 2
	応用基礎科目	データアナリティクス基礎	2~4 2
		機械学習基礎	2~4 2
	アドバンスド科目	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2~4 2
		データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2~4 2
		データサイエンス特殊講義 I	2~4 2
		データサイエンス特殊講義 II	2~4 2
		データサイエンス特殊講義 III	2~4 2
	選択科目	データサイエンス特殊講義 IV	2~4 2
		データアナリティクス応用	2~4 2
		機械学習応用	2~4 2
		数理科学基礎 a	1~4 2
		数理科学基礎 b	1~4 2
		数理科学応用 a	1~4 2
数理科学応用 b	1~4 2		

【2021年度以前入学者用】

区分	授業科目	配当年次	単位
全学共通教育科目 データサイエンス科目群	基礎科目	データサイエンス概論	1~4 2
		データサイエンス基礎	1~4 2
		データアナリティクス基礎	2~4 2
		データアナリティクス応用	2~4 2
	発展科目	機械学習基礎	2~4 2
		データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2~4 2
	選択科目	数理科学基礎 a	1~4 2
		数理科学基礎 b	1~4 2
		数理科学応用 a	1~4 2
		数理科学応用 b	1~4 2

《履修上の注意》

- ① 総合教養科目に属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、一般共通科目に充当することができる。
- ② 全学共通教育科目の中には特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。

- ③ 「短期学外演習」は、反復して履修することができる。ただし、卒業要件単位に算入することができるのは2単位までである。
- ④ 世田谷6大学コンソーシアム連携授業科目である「総合講座V」及び「総合講座VI」は、年度をかえて同一名称の授業科目を反復履修できる。ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することができない。
- ⑤ 2021・2022年度開講の「特別講座II」を修得した場合のみ、成績評価は他の科目と異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。
- ⑥ 2021年度をもって、「数理科学I a・b」、「数理科学II a・b」は廃講となった。修得済みの単位は総合教養科目の単位として認められる。
- ⑦ 2022年度に以下のように授業科目の名称変更がされた。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新 授 業 科 目	旧 授 業 科 目
データサイエンス基礎	データサイエンス入門I
データアナリティクス基礎	データサイエンス入門II
データアナリティクス応用	データサイエンス応用
機械学習基礎	データサイエンス・スキルアップ・プログラム

- ⑧ 「データアナリティクス基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- ・ 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
- ⑨ 「機械学習基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- ・ 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
 - ・ 「データアナリティクス基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。
- ⑩ 「データサイエンス・アドバンスト・プログラム」、「データサイエンス・ワークフロー・プログラム」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- ・ 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
 - ・ 「データアナリティクス基礎」、「機械学習基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。
- ⑪ 2022年度に「数理科学基礎a・b」、「数理科学応用a・b」が新設された。
- ⑫ 2023年度に「Special TopicsVA・B」が新設された。

教 養 演 習

総合教養科目の1つとして少人数のゼミナール形式の授業として開講されるのが「教養演習」である。この授業科目は1～4年次までに開かれているが、主な対象として1年次生を設定している。クラスサイズは原則20人以下とし、少人数教育の利点を活かした教員と学生間、さらに学生相互間での議論を重視した授業を行う。学生一人ひとりの個性を育みながら、テーマに沿って学生の知的関心を広め、さらに深めることをねらいとしている。あわせて、議論とレポートの作成を通して、論理的な思考と日本語表現力を育成する。

「教養演習」は反復・重複して履修することができるが、卒業要件単位に算入することができるのは4単位までである。

なお、履修に際しては特別な手続きが必要である。登録方法については、【[授業に関すること](#)】
 Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

E 学部共通科目

学部共通科目には、英語力のブラッシュアップが図れるような各種の英語科目及び英語以外の外国語科目が配置されている。

学部共通科目の卒業要件単位数は6単位であり、授業科目は第12表のとおりである。なお、学部共通科目には全学共通教育カリキュラムで用意された科目が含まれており、全学共通教育の理念等は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧」を参照すること。

なお、学部共通科目の卒業要件6単位は、学部共通科目の中に配置されている授業科目のほか、基礎科目の選択A、選択B及び選択C並びに専門科目の選択A及び選択Bに属する授業科目の中から、それぞれ卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

第12表 学部共通科目

分野	授業科目	配当年次	単位	分野	授業科目	配当年次	単位	
全学共通教育科目 リテラシー科目群	English for International Communication	2~4	2	外国語科目 (ディプロム・コース)	ディプロム・コース中級(独語) a	1~4	1	
	English for Academic Settings	2~4	2		ディプロム・コース中級(独語) b	1~4	1	
	English for Practical Proficiency	2~4	2		ディプロム・コース上級(独語) a	1~4	1	
	Innovation Studies in English [a]	2~4	1		ディプロム・コース上級(独語) b	1~4	1	
	Innovation Studies in English [b]	2~4	1		ディプロム・コース中級(仏語) a	1~4	1	
	Advanced Oral Interaction in English	2~4	2		ディプロム・コース中級(仏語) b	1~4	1	
	Critical Reading in English [a]	2~4	1		ディプロム・コース上級(仏語) a	1~4	1	
	Critical Reading in English [b]	2~4	1		ディプロム・コース上級(仏語) b	1~4	1	
	Research Writing Skills in English [a]	2~4	1		ディプロム・コース中級(スペイン語) a	1~4	1	
	Research Writing Skills in English [b]	2~4	1		ディプロム・コース中級(スペイン語) b	1~4	1	
	Thesis Writing Skills in English [a]	3~4	1		ディプロム・コース中級(韓国語) a	1~4	1	
	Thesis Writing Skills in English [b]	3~4	1		ディプロム・コース中級(韓国語) b	1~4	1	
全学共通教育科目 外国語科目 リテラシー科目群	資格英語	2~4	2	海外短期語学研修	海外短期語学研修(英語・春季)	*	2	
	ビジネス英語a	1~4	1		海外短期語学研修(英語・夏季)	1~4	2	
	ビジネス英語b	1~4	1		海外短期語学研修(独語・春季)	*	2	
	独会話選択a	1~4	1		海外短期語学研修(仏語・春季)	*	2	
	独会話選択b	1~4	1		海外短期語学研修(中国語・夏季)	1~4	2	
	独語選択(初級) I a	1~4	1		海外短期語学研修(英語・夏季)	1~4	1	
	独語選択(初級) I b	1~4	1		[2021年度以降入学者のみ履修可]			
	独語選択(初級) II a	1~4	1		海外短期語学研修(英語・就業体験準備)	1~4	1	
	独語選択(初級) II b	1~4	1		[2020年度以前入学者のみ履修可]			
	独語選択(中級) a	1~4	1		海外短期研修(マレーシア・就業体験研修)	海外短期研修(マレーシア・就業体験研修)	1~4	2
	独語選択(中級) b	1~4	1			[2020年度以前入学者のみ履修可]		
	独語選択(上級) a	1~4	1		受け入れ留学生科目	日本語(初級) I A	交換留学生等	2
	独語選択(上級) b	1~4	1	日本語(初級) I B		交換留学生等	2	
	仏会話選択a	1~4	1	日本語(初級) II A		交換留学生等	2	
	仏会話選択b	1~4	1	日本語(初級) II B		交換留学生等	2	
	仏語選択(初級) I a	1~4	1	日本語(初級) III A		交換留学生等	2	
	仏語選択(初級) I b	1~4	1	日本語(初級) III B		交換留学生等	2	
	仏語選択(初級) II a	1~4	1	日本語(初級) IVA		交換留学生等	2	
	仏語選択(初級) II b	1~4	1	日本語(初級) IVB		交換留学生等	2	
	仏語選択(中級) a	1~4	1	日本語(中級) I A		交換留学生等	2	
	仏語選択(中級) b	1~4	1	日本語(中級) I B		交換留学生等	2	
	仏語選択(上級) a	1~4	1	日本語(中級) II A		交換留学生等	2	
	仏語選択(上級) b	1~4	1	日本語(中級) II B		交換留学生等	2	
	スペイン語選択(初級) a	1~4	1	日本語(中級) III A		交換留学生等	2	
	スペイン語選択(初級) b	1~4	1	日本語(中級) III B		交換留学生等	2	
	中国語選択(初級) I a	1~4	1	日本語(中級) IVA		交換留学生等	2	
	中国語選択(初級) I b	1~4	1	日本語(中級) IVB		交換留学生等	2	
	中国語選択(初級) II a	1~4	1	日本語(上級) I A		交換留学生等	1	
	中国語選択(初級) II b	1~4	1	日本語(上級) I B		交換留学生等	1	
	中国語選択(中級) a	1~4	1	日本語(上級) II A		交換留学生等	1	
	中国語選択(中級) b	1~4	1	日本語(上級) II B		交換留学生等	1	
	中国語選択(上級) a	1~4	1	日本語(上級) III A		交換留学生等	2	
	中国語選択(上級) b	1~4	1	日本語(上級) III B		交換留学生等	2	
	韓国語会話選択a	1~4	1	日本語(上級) IVA		交換留学生等	2	
	韓国語会話選択b	1~4	1	日本語(上級) IVB		交換留学生等	2	
	韓国語選択(初級) a	1~4	1	日本語(上級) VA	交換留学生等	2		
韓国語選択(初級) b	1~4	1	日本語(上級) VB	交換留学生等	2			

履修規定

政策イノベーション学科

《履修上の注意》

- ① 学部共通科目は、特別な履修手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 「資格英語」は、TOEFL又はTOEICの成績優秀者に対して単位を授与する授業科目である。
- ③ 《英語到達目標》
 - ・「ビジネス英語」― 受講者のレベルや要請に応じて、初級～上級のレベルを目指す。
- ④ 中級以上の独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の目安を参考にすること。

授業科目（グレード）	履修の目安	備考
独語選択（中級）a・b 仏語選択（中級）a・b 中国語選択（中級）a・b	・「選択（初級）Ⅰa～Ⅱb」の計4単位を修得した者	a・bどちらかみの履修も可。
独語選択（上級）a・b 仏語選択（上級）a・b 中国語選択（上級）a・b	・上記「選択（中級）a・b」の計2単位を修得した者	a・bどちらかみの履修も可。

※上記の「履修の目安」を満たさない状態で履修を希望する場合、必ず第1回目の授業に出席し、担当教員に相談すること。

⑤ 《ディプロム・コース到達目標》

- ・中級（独語・仏語）：独検・仏検の4～3級の合格。
 - ・上級（独語・仏語）：独検・仏検の（準）2級～準1級の合格。
 - ・中級（スペイン語・韓国語）：西検・ハン検の3級の合格。
- ⑥ 「海外短期語学研修」、「海外短期研修」については以下のとおりである。

授 業 科 目	配当年次	単位	備 考
海外短期語学研修（英語・春季）	*	2	研修内容等については、シラバスを参照のこと。 また、履修登録の方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
海外短期語学研修（英語・夏季）	1～4	2	
海外短期語学研修（独語・春季）	*	2	
海外短期語学研修（仏語・春季）	*	2	
海外短期語学研修（中国語・夏季）	1～4	2	
海外短期語学研修（英語・夏季） 【2021年度以降入学者のみ履修可】	1～4	1	
海外短期語学研修（英語・就業体験準備） 【2020年度以前入学者のみ履修可】	1～4	1	
海外短期研修（マレーシア・就業体験研修） 【2020年度以前入学者のみ履修可】	1～4	2	

- ・海外短期語学研修のうち、配当年次が*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位が授与される科目である。
研修参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。研修に参加する年度は単位数が0の置ききの科目、その翌年度に2単位の科目を教務部が履修登録する。履修登録された2単位は、研修の翌年度の履修科目登録上限単位数に含まれる。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の可否にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。
 - ・一度単位が授与された授業科目も再度履修することができ、同一年度に複数の授業科目を履修することもできる。ただし、授与された単位のうち卒業要件単位に算入することができるのはあわせて2単位までである。
 - ・やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考慮し、履修科目登録上限単位数や卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。
 - ・2021年度以降入学者対象の「海外短期語学研修（英語・夏季）」（マレーシア）と2020年度以前入学者対象の「海外短期語学研修（英語・就業体験準備）」の研修内容は同一である。
 - ・【2020年度以前入学者のみ】
「海外短期語学研修（英語・就業体験準備）【1単位】」と「海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）【2単位】」はセットで履修することになっている。
 - ・「海外短期語学研修」及び「海外短期研修」の成績評価は、他の授業科目とは異なり、合格であれば「合」（英文の成績証明書は「P」）と表示される。
- ⑦ 「日本語（初級）」、「日本語（中級）」、「日本語（上級）」は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者、又は外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。外国人留学生が当該科目の履修を希望する場合は、教務部に申し出ること。
- ⑧ 2020年度に「韓国語会話選択a・b」、「ディプロム・コース中級（スペイン語）a・b」、「ディプロム・コース中級（韓国語）a・b」が新設された。
- ⑨ 2019年度をもって、「スペイン語選択（中級・ディプロム）a・b」および「韓国語選択（中級・ディプロム）a・b」は廃講となった。修得済みの単位は学部共通科目の単位として認められる。

履修規定
政策イノベーション学部

F

一般共通科目

一般共通科目の卒業要件単位数は4単位であり、授業科目は第13表～第16表のとおりである。

なお、一般共通科目の卒業要件単位4単位は、一般共通科目の中に配置されている授業科目のほか、総合教養科目に属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位を充当することができる。

一般共通科目は全て、全学共通教育カリキュラムで用意された科目である。各分野の設置に当たっての理念等は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧」を参照すること。

- 1 スポーツ・ウェルネス教育科目 スポーツ・ウェルネス教育科目の授業科目は、第13表のとおりである。

第13表 スポーツ・ウェルネス教育科目

カテゴリー	系列	授業科目・種目、コース	配当年次	単位	
スポーツ・ウェルネス講義・演習科目(半期)	スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ スポーツ・スタディーズⅡ スポーツ・スタディーズⅢ スポーツ・スタディーズⅣ	1～4	2	
	ウェルネス文化	ウェルネス・スタディーズⅠ ウェルネス・スタディーズⅡ ウェルネス・スタディーズⅢ ウェルネス・スタディーズⅣ			
	身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ 身体表現・スタディーズⅡ 身体表現・スタディーズⅢ 身体表現・スタディーズⅣ			
スポーツ・ウェルネス実技科目(半期または集中)	スポーツ文化	オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー&フットサル ソフトボール 卓球 テニス トレーニング バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル	定時コース	1～4	1
		サイクル・スポーツ スキー	集中コース		
	ウェルネス文化	アクアエクササイズ エアロビクス&コンディショニング エアロビクス&ピラティス コンディショニング 水泳 フィットネス ヨガ&ピラティス レクリエーション・スポーツ	定時コース		
		身体表現文化	剣道(古武道) ダンスパフォーマンス		

《履修上の注意》

- ① スポーツ・ウェルネス教育科目は、特別な履修登録手続きが必要となるので【[授業に関すること](#)Ⅳ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ② スポーツ・ウェルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室又は指定された教室でガイダンスを行う。
- ③ スポーツ・ウェルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、トレーニングセンターで行う科目はトレーニングセンターで、それ以外は第1体育館でガイダンスを行う。なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。
- ④ スポーツ・ウェルネス実技科目は反復履修・重複履修することができる。
- ⑤ 健康上の問題及び心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部又は科目担当専任教員まで申し出ること。

2 IT科目

IT科目の授業科目は、第14表のとおりである。登録方法などについては、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第14表 IT科目

授 業 科 目	配当年次	単 位	授 業 科 目	配当年次	単 位
コンピュータ・リテラシーA1	1~4	2	コンピュータ・リテラシーD	1~4	2
コンピュータ・リテラシーA2	1~4	2	コンピュータ・リテラシーE	1~4	2
コンピュータ・リテラシーB	1~4	2	図書館活用法	1~4	2
コンピュータ・リテラシーC	1~4	2			

《履修上の注意》

- ① 「コンピュータ・リテラシーA1」と「コンピュータ・リテラシーA2」は、セットで履修することになっている。対となるクラスは、同一曜日・時限に開講している。
- ② セットで履修した「コンピュータ・リテラシーA1」と「コンピュータ・リテラシーA2」のうち、どちらか1科目のみ単位を修得し、もう一方の科目が不合格となった場合、不合格となった科目のみを再履修することも、両方を再履修することもできない。

3 WRD

WRDの授業科目「WRD」は第15表に示すとおりである。登録方法などについては、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第15表 WRD

授 業 科 目	配当年次	単 位
WRD	1~4	4

4 キャリア デザイン科目

キャリアデザイン科目の授業科目は、第16表のとおりである。登録方法などについては、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第16表 キャリアデザイン科目

授 業 科 目	配当年次	単 位
☆キャリア形成Ⅰ	1~4	2
☆キャリア形成Ⅱ	1~4	2
☆キャリア形成Ⅲ	1~4	2
☆キャリア形成Ⅳ	1~4	2
★プロジェクト演習	1・2	2

《履修上の注意》

- ① ☆の付いた授業科目からは2単位まで卒業要件単位に算入することができる。
- ② ★の付いた授業科目からは副題が異なる授業科目を複数開講している。詳細は本年度のシラバスを確認すること。ただし、「プロジェクト演習」のうち、修得できる単位数および卒業要件単位に算入できる単位数は、1科目2単位までとする。また3年次以降は履修することができない。

Ⅲ

政策イノベーション学科授業科目一覧

第17表 政策イノベーション学科授業科目一覧

分野・区分		配当年次	1 年			
外国語科目	必修		English I: Skills for Learning [a] ① English I: Skills for Learning [b] ① English I: Social Interaction [a] ① English I: Social Interaction [b] ① English I: Academic Interaction [a] ① English I: Academic Interaction [b] ① English I: Reading and Writing [a] ① English I: Reading and Writing [b] ①			
	必修		イノベーション概論 [a] ② イノベーション概論 [b] ②		情報リテラシー② データ分析入門②	
基礎科目	選択 A		経済学④* 国際関係学④*	政策学②* 行政学②*	経営学④* 統計学④*	心理学④ 社会学④
	選択 B					
	選択 C		エコロジー論④ 生命倫理論④	比較文化論④ 生命の科学④	文明と社会④ 家族と社会の変動④	地域と文化④
専門科目	必修					
	選択 A	政策系科目				
		戦略系科目				
		学科共通科目				
	選択 B	心理系科目				
		社会系科目				
学科共通科目						

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。
 注2) 本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧」を参照すること。
 注3) 基礎科目選択Aの卒業要件単位数12単位のうち、*印のついた授業科目から8単位以上を選択すること。

履修規定

政策イノベーション学科

2 年	3 年	4 年	卒業要件 単位数
English II: Public Speaking① English II: Presentation and Discussion① English II: Academic Reading and Writing [a] ① English II: Academic Reading and Writing [b] ① English II: Business Reading and Writing [a] ① English II: Business Reading and Writing [b] ①			14
			8
			12
社会調査法④ 心理実験法④	メッセージ分析法④ 市場調査法④	心理研究法④	4
			4
基礎ゼミナール（政策）② 基礎ゼミナール（戦略）②	ゼミナール I ④	ゼミナール II ④ 卒業研究④	16
イノベーション政策論④ 経済政策② 公共経済学② 科学技術論②	金融システム論② 金融イノベーション論 I ② 日本経済論② 日本金融論②	国際協力・開発イノベーション論④ 開発政策論② 開発支援論② 国際法④	地域政策論④
	イノベーション経済論④ 公共政策論② 知的財産法② リテールファイナンス論② 金融イノベーション論 II ②	比較イノベーション論② グローバルガバナンス論② 国際機構論④ 地域イノベーション論④	
イノベーション戦略論④ 戦略論② 組織論② マーケティング論②	現代企業論④ 企業家史④ 組織イノベーション論④ グローバル・イノベーション・マネジメント論④	消費行動論②	32
	人的資源論④ 新商品開発論② ベンチャービジネス論②	研究開発管理論② トップマネジメント論② 企業評価論④	
OCA②	イノベーション・マネジメント実践演習②	コミュニケーション・デザイン実践演習②	
		政策イノベーション特殊講義 I ② 政策イノベーション特殊講義 II ②	
イノベーション心理論④ 認知心理学 I ② 認知心理学 II ②	パーソナリティ心理学② メディア心理学④ 異文化間心理学②	組織心理学② 意思決定論② 経済心理学② ワークプレイス論②	対人コミュニケーション論④ 認知言語学④ ヒューマンインターフェイス論④ 産業カウンセリング④
イノベーション社会論④ 社会システム論④ 日本社会文化論 I ② 日本社会文化論 II ② アジア社会文化論④	アメリカ社会文化論 I ② アメリカ社会文化論 II ② 現代国際社会学④ 異文化間コミュニケーション論 I ② 異文化間コミュニケーション論 II ②	環境社会論 I ② 環境社会論 II ② 現代社会福祉論② ケアの社会学②	14
		宗教社会論 I ② 宗教社会論 II ② 社会人類学②	NGO・NPO論② 社会調査専門演習④
		心理社会学特殊講義②	

第17表 政策イノベーション学科授業科目一覧（つづき）

配当年次	1 年		
分野・区分			
総合教養科目	短期学外演習②	教養演習④	
	総合講座Ⅰ② 総合講座Ⅱ② 総合講座Ⅲ② 総合講座Ⅳ② 総合講座Ⅴ② 総合講座Ⅵ② 特別講座Ⅰ② 特別講座Ⅱ② 成城学園を知る② 成城学Ⅰ② 成城学Ⅱ② 成城学Ⅲ② 成城学Ⅳ② 成城学Ⅴ② 社会学入門a② 社会学入門b② メディア論入門a② メディア論入門b② 現代社会論Ⅰa② 現代社会論Ⅰb② 現代社会論Ⅱa② 現代社会論Ⅱb② 現代社会論Ⅲa② 現代社会論Ⅲb② 現代社会論Ⅳa② 現代社会論Ⅳb② 現代社会論Ⅴa② 現代社会論Ⅴb② 現代社会論Ⅵa② 現代社会論Ⅵb② 現代社会論Ⅶa② 現代社会論Ⅶb②	現代社会論Ⅷa② 現代社会論Ⅷb② 現代社会論演習a② 現代社会論演習b② 国際関係論入門a② 国際関係論入門b② 経済学入門a② 経済学入門b② 政治学入門a② 政治学入門b② 情報社会論入門a② 情報社会論入門b② 法学（含む日本国憲法）a② 法学（含む日本国憲法）b② 社会構造論Ⅰa② 社会構造論Ⅰb② 社会構造論Ⅱa② 社会構造論Ⅱb② 社会構造論Ⅲa② 社会構造論Ⅲb② 社会構造論Ⅳa② 社会構造論Ⅳb② 社会構造論Ⅴa② 社会構造論Ⅴb② 社会構造論Ⅵa② 社会構造論Ⅵb② 社会構造論演習a② 社会構造論演習b② 哲学入門a② 哲学入門b② 宗教学入門a② 宗教学入門b②	倫理学入門a② 倫理学入門b② 西洋思想入門a② 西洋思想入門b② 東洋思想入門a② 東洋思想入門b② 日本思想入門a② 日本思想入門b② 思想・人間論Ⅰa② 思想・人間論Ⅰb② 思想・人間論Ⅱa② 思想・人間論Ⅱb② 思想・人間論Ⅲa② 思想・人間論Ⅲb② 思想・人間論演習a② 思想・人間論演習b② 文学入門a② 文学入門b② 言語学入門a② 言語学入門b② 音楽入門a② 音楽入門b② 表象文化論入門a② 表象文化論入門b② 表現文化論Ⅰa② 表現文化論Ⅰb② 表現文化論Ⅱa② 表現文化論Ⅱb② 表現文化論Ⅲa② 表現文化論Ⅲb② 表現文化論Ⅳa② 表現文化論Ⅳb②
	【国際交流科目・データサイエンス科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 ㊦ 総合教養科目を参照】		
学部共通科目	ビジネス英語a① ビジネス英語b① 独会話選択a① 独会話選択b① 独語選択（初級）Ⅰa① 独語選択（初級）Ⅰb① 独語選択（初級）Ⅱa① 独語選択（初級）Ⅱb① 独語選択（中級）a① 独語選択（中級）b① 独語選択（上級）a① 独語選択（上級）b① 仏会話選択a① 仏会話選択b① 仏語選択（初級）Ⅰa① 仏語選択（初級）Ⅰb① 仏語選択（初級）Ⅱa① 仏語選択（初級）Ⅱb① 仏語選択（中級）a① 仏語選択（中級）b① 仏語選択（上級）a① 仏語選択（上級）b① スペイン語選択（初級）a① スペイン語選択（初級）b① 中国語選択（初級）Ⅰa① 中国語選択（初級）Ⅰb① 中国語選択（初級）Ⅱa① 中国語選択（初級）Ⅱb① 中国語選択（中級）a①	中国語選択（中級）b① 中国語選択（上級）a① 中国語選択（上級）b① 韓国語会話選択a① 韓国語会話選択b① 韓国語選択（初級）a① 韓国語選択（初級）b① ディプロム・コース中級（独語）a① ディプロム・コース中級（独語）b① ディプロム・コース上級（独語）a① ディプロム・コース上級（独語）b① ディプロム・コース中級（仏語）a① ディプロム・コース中級（仏語）b① ディプロム・コース上級（仏語）a① ディプロム・コース上級（仏語）b① ディプロム・コース中級（スペイン語）a① ディプロム・コース中級（スペイン語）b① ディプロム・コース中級（韓国語）a① ディプロム・コース中級（韓国語）b① 海外短期語学研修（英語・春季）② 海外短期語学研修（英語・夏季）② 海外短期語学研修（独語・春季）② 海外短期語学研修（仏語・春季）② 海外短期語学研修（中国語・夏季）② 海外短期語学研修（英語・夏季）② 海外短期語学研修（英語・夏季）① 海外短期語学研修（英語・就業体験）① 海外短期語学研修（英語・就業体験）①	海外短期研修（マレーシア・就業体験研修） 【2020年度以前入学者のみ履修可】② 日本語（初級）ⅠA② 日本語（初級）ⅠB② 日本語（初級）ⅡA② 日本語（初級）ⅡB② 日本語（初級）ⅢA② 日本語（初級）ⅢB② 日本語（初級）ⅣA② 日本語（初級）ⅣB② 日本語（中級）ⅠA② 日本語（中級）ⅠB② 日本語（中級）ⅡA② 日本語（中級）ⅡB② 日本語（中級）ⅢA② 日本語（中級）ⅢB② 日本語（中級）ⅣA② 日本語（中級）ⅣB② 日本語（上級）ⅠA① 日本語（上級）ⅠB① 日本語（上級）ⅡA① 日本語（上級）ⅡB① 日本語（上級）ⅢA② 日本語（上級）ⅢB② 日本語（上級）ⅣA② 日本語（上級）ⅣB② 日本語（上級）ⅤA② 日本語（上級）ⅤB②
	【外国語科目の一部は、Ⅳ卒業要件単位に算入されない授業科目を参照】		
一般共通科目	【スポーツ・ウエルネス教育科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 ㊦ 一般共通科目 1 スポーツ・ウエルネス教育科目 を参照】 コンピュータ・リテラシーA1② コンピュータ・リテラシーC② 図書館活用法② コンピュータ・リテラシーA2② コンピュータ・リテラシーD② WRD④ コンピュータ・リテラシーB② コンピュータ・リテラシーE② 【キャリアデザイン科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 ㊦ 一般共通科目 4 キャリアデザイン科目およびⅣ卒業要件単 【国際交流科目は、Ⅳ卒業要件単位に算入されない授業科目を参照】		

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。

注2) 本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧」を参照すること。

履修規定

政策イノベーション学科

2 年	3 年		4 年	卒業要件 単位数
	応用英語研究④	言語コミュニケーション演習④		12
表現文化論 Va② 表現文化論 Vb② 表現文化論 VIa② 表現文化論 VIb② 表現文化論演習a② 表現文化論演習b② 歴史学入門a② 歴史学入門b② 日本近現代史a② 日本近現代史b② ヨーロッパ近現代史a② ヨーロッパ近現代史b② アジア近現代史a② アジア近現代史b② アメリカ近現代史a② アメリカ近現代史b② 歴史文化論 I a② 歴史文化論 I b② 歴史文化論 II a② 歴史文化論 II b② 歴史文化論 III a② 歴史文化論 III b② 歴史文化論 IV a② 歴史文化論 IV b② 歴史文化論 Va② 歴史文化論 Vb② 歴史文化論演習a② 歴史文化論演習b② 文化人類学入門a② 文化人類学入門b② 空間システム論入門a② 空間システム論入門b② 地域空間論 I a②	地域空間論 I b② 地域空間論 II a② 地域空間論 II b② 地域空間論 III a② 地域空間論 III b② 地域空間論 IV a② 地域空間論 IV b② 地域空間論 Va② 地域空間論 Vb② 地域空間論 VI a② 地域空間論 VI b② 地域空間論 VII a② 地域空間論 VII b② 地域空間論 VIII a② 地域空間論 VIII b② 地域空間論演習a② 地域空間論演習b② 数理の世界a② 数理の世界b② 物理の世界a② 物理の世界b② 化学の世界a② 化学の世界b② 生命科学の世界a② 生命科学の世界b② 科学史a② 科学史b② 自然科学 I a② 自然科学 I b② 自然科学 II a② 自然科学 II b② 自然科学 III a② 自然科学 III b②	自然科学 IV a② 自然科学 IV b② 自然科学 Va② 自然科学 Vb② 数理・自然科学演習a② 数理・自然科学演習b② こころと身体a② こころと身体b② 身体と運動・スポーツa② 身体と運動・スポーツb② 心身論 I a② 心身論 I b② 心身論 II a② 心身論 II b② 心身論 III a② 心身論 III b② 心身論 IV a② 心身論 IV b② 心身論 Va② 心身論 Vb② 心身論演習a② 心身論演習b②		
	資格英語 ② English for International Communication② English for Academic Settings② English for Practical Proficiency② Innovation Studies in English [a] ① Innovation Studies in English [b] ① Advanced Oral Interaction in English② Critical Reading in English [a] ① Critical Reading in English [b] ① Research Writing Skills in English [a] ① Research Writing Skills in English [b] ①		Thesis Writing Skills in English [a] ① Thesis Writing Skills in English [b] ①	6
位に算入されない授業科目を参照】				4
合 計				126

履修規定

政策イノベーション学科

IV

科目番号（科目ナンバリング）

概要

科目番号は、各授業科目に対して、体系的に編成された教育課程（カリキュラム）におけるその位置付け（学修の段階、順序等も含む。）を表すために、各桁に以下に示す分類に基づく数字又は英字を当てて用いることにより、付されている。この科目番号により、当該授業科目がどのような配当年次（又はレベル）の、どのような領域のものであるかがわかるようになっており、学習計画を検討する一助としても活用することができる。なお、科目番号は、シラバスに表示される。

[例] 社会イノベーション学部 政策イノベーション学科における「イノベーション政策論」

NIN - **CA3** - **2** - **3010**
 ① 学科 ② 分野・区分・領域 ③ 配当年次 ④ 対象となる領域 ⑤ 識別番号

この科目番号であることにより、この授業科目は、政策イノベーション学科の教育課程において「専門科目・選択A・政策系科目」という科目区分の中に位置づけられており、配当年次は「2年次以上」、対象となる領域は「政策領域」であることを示している。

① 学科

N	I	N	政策イノベーション学科
---	---	---	-------------

② 分野・区分・領域

分野		区分		領域	
A	外国語科目	M	必修	7	〈すべての科目に共通する。〉
B	基礎科目	M	必修	0	〈すべての科目に共通する。〉
		A	選択A		
		B	選択B		
		C	選択C		
C	専門科目	M	必修	0~6	〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉
		A	選択A	3	政策系科目
				4	戦略系科目
		B	選択B	0,1	学科共通科目 〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉
				5	心理系科目
				6	社会系科目
0,2	学科共通科目 〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉				
D	総合教養科目	0	学部開設科目	0,7	〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉
		2	教養科目群	1	総合科目
				2	成城学
				3	系列科目
		5	国際交流科目群	0	〈すべての科目に共通する。〉
6	データサイエンス科目群	0	〈すべての科目に共通する。〉		
E	学部共通科目	0	学部開設科目	7	〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉
		2	外国語科目	0	卒業要件内科目 〈すべての科目に共通する。〉
				9	卒業要件外科目
		3	外国語科目（ディプロム）	0	〈すべての科目に共通する。〉
5	国際交流科目群			0	〈すべての科目に共通する。〉
F	一般共通科目	1	スポーツ・ウエルネス科目	1	講義・演習科目
				2	実技科目
		2	IT科目	0	〈すべての科目に共通する。〉
		3	WRD	0	〈すべての科目に共通する。〉
		4	キャリアデザイン科目	0	卒業要件内科目 〈すべての科目に共通する。〉
				9	卒業要件外科目
		5	国際交流科目群	0	卒業要件内科目 〈すべての科目に共通する。〉
9	卒業要件外科目				

③ 配当年次

1	1年次から履修できる科目
2	2年次から履修できる科目
3	3年次から履修できる科目
4	4年次に履修できる科目

④ 対象となる領域

0	全領域に関連
1	政策・戦略の両領域に関連
2	心理・社会の両領域に関連
3	政策領域
4	戦略領域
5	心理領域
6	社会領域
7	英語
9	その他
A~F	(全学共通教育科目) *注1

*注1 A~Fの分類の詳細は、次表を参照すること。

⑤ 識別番号

識別番号	
下3桁	各科目に、原則として異なる番号が付与される(一部の科目を除く)。 なお、共通する科目名で [a]・[b]、I・IIとなっている場合には、最終桁が0と5の組合せとなっている。 ただし、全学共通教育科目は、この通りではない。*注2

*注2 全学共通教育科目についての詳細は、次表を参照すること。

全学共通教育科目の番号体系

([例]の対象となる領域に対応)		([例]の識別番号に対応)				下4桁		
科目群	分野	系列	基幹/展開					
A リテラシー科目群	1	WRD	0	-	0	-	A100	
	2	外国語科目					A200	
	3	外国語科目(ディプロム・コース)					A300	
	4	IT科目					A400	
B 教養科目群	1	総合科目	0	-	0	-	B100	
	2	成城学					B200	
	3	系列科目	1	現代社会論系列	1	基幹	B311	
			2	社会構造論系列	2	展開	B312	
			3	思想・人間論系列	1	基幹	B331	
					2	展開	B332	
			4	表現文化論系列	1	基幹	B341	
					2	展開	B342	
			5	歴史文化論系列	1	基幹	B351	
					2	展開	B352	
	6	地域空間論系列	1	基幹	B361			
2			展開	B362				
7	数理・自然科学系列	1	基幹	B371				
		2	展開	B372				
8	心身論系列	1	基幹	B381				
		2	展開	B382				
C キャリアデザイン科目群	0	-	0	-	0	-	C000	
D 国際交流科目群	1	留学対策科目	0	-	0	-	D100	
	2	英語等による地域研究科目					D200	
	3	英語等による日本事情関係科目					D300	
	4	英語等による特定のテーマを扱った科目					D400	
	5	海外短期語学研修					D500	
	6	受け入れ留学生科目					D600	
	7	留学準備演習					D700	
E データサイエンス科目群	1	リテラシー科目	0	-	0	-	E100	
	2	応用基礎科目					E200	
	3	アドバンスド科目					E300	
	4	選択科目					E400	
F スポーツ・ウエルネス教育科目	1	スポーツ・ウエルネス講義・演習科目	0	-	0	-	F110	
		2					ウエルネス文化	F120
		3					身体表現文化	F130
2	スポーツ・ウエルネス実技科目	0	-	0	-	F200		

V

卒業要件単位に算入されない授業科目

以下の授業科目は、履修することが可能であるが、修得しても卒業要件単位には含まれないので注意すること。

なお以下は全て、全学共通教育カリキュラムで用意された科目である。各分野の設置に当たっての理念等は、【[全学共通教育科目](#)】の項に記載されている。

分野・区分	授 業 科 目	配当年次	単位	授 業 科 目	配当年次	単位	
学部共通科目 外国語科目	英語リスニング&スピーキング (初級) a	1~4	1	英語リーディング&ライティング (中級) a	1~4	1	
	英語リスニング&スピーキング (初級) b	1~4	1	英語リーディング&ライティング (中級) b	1~4	1	
	英語リスニング&スピーキング (中級) a	1~4	1	英語リーディング&ライティング (上級) a	1~4	1	
	英語リスニング&スピーキング (中級) b	1~4	1	英語リーディング&ライティング (上級) b	1~4	1	
	英語リスニング&スピーキング (上級) a	1~4	1	英会話選択a	1~4	1	
	英語リスニング&スピーキング (上級) b	1~4	1	英会話選択b	1~4	1	
	英語リーディング&ライティング (初級) a	1~4	1	英文多読a	1~4	1	
	英語リーディング&ライティング (初級) b	1~4	1	英文多読b	1~4	1	
一般共通科目	キャリアデザイン科目	業界企業分析	2~4	2	時事英語 I	1~4	2
		職業選択	2~4	2	時事英語 II	1~4	2
		キャリア・プランニング・プログラム I	3~4	2	時事問題研究	2~4	2
		キャリア・プランニング・プログラム II	3~4	2			
	国際交流科目 【留学対策科目】	Academic Skills I A	1~4	1	Academic Skills IV A	1~4	1
		Academic Skills I B	1~4	1	Academic Skills IV B	1~4	1
		Academic Skills II A	1~4	1	Academic Skills V A	2~4	1
		Academic Skills II B	1~4	1	Academic Skills V B	2~4	1
		Academic Skills III A	1~4	1			
		Academic Skills III B	1~4	1			
	国際交流科目 【英語等による 地域研究科目】	European Studies A	1~4	2	Oceanian Studies A	1~4	2
		European Studies B	1~4	2	Oceanian Studies B	1~4	2
		North American Studies A	1~4	2	Asian Studies A	1~4	2
		North American Studies B	1~4	2	Asian Studies B	1~4	2
	国際交流科目 【留学準備演習】	留学準備演習	1~4	2			

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧」を参照すること。

《履修上の注意》

① 《英語到達目標》

- 「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」

初級：TOEIC 600-700点、英検2級程度

中級：TOEIC 700-800点、英検準1級程度

上級：TOEIC 800-990点、英検1級程度

- 「英会話選択」— 受講者のレベルや要請に応じて、中級~上級のレベルを目指す。

- 「英文多読」— 受講者のレベルや要請に応じて、中級~上級のレベルを目指す。

② 外国語科目、キャリアデザイン科目のうち「スタート・プログラム I~III」及び「時事英語 I・II」、国際交流科目は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【[授業に関すること](#)】IV 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

③ 2019年度をもって、「Academic Communication a・b」は廃講となった。

④ 2022年度をもって、「Academic Skills VIA・B」は廃講となった。

履修規定

心理社会学科

I 総説	56	2) 選択A・B	
A. 科目区分および卒業要件単位数	56	3) OCA	
1) 科目区分		4) コース制度	
2) 卒業要件単位数		D. 総合教養科目	62
B. 履修科目登録上限単位数	56	教養演習	
1) 履修科目登録上限単位数制度		E. 学部共通科目	67
2) 履修科目登録上限単位数		F. 一般共通科目	70
C. コース認定制度	57	1) スポーツ・ウエルネス教育科目	
D. 2年次から3年次への進級基準	57	2) IT科目	
		3) WRD	
		4) キャリアデザイン科目	
II 科目区分別履修方法	58	III 心理社会学科授業科目一覧	72
A. 外国語科目	58	IV 科目番号 (科目ナンバリング)	76
1) 必修		V 卒業要件単位に算入されない	
2) TOEIC IPテスト		授業科目	78
3) 未修得科目の再履修			
B. 基礎科目	59		
1) 必修			
2) 選択			
C. 専門科目	60		
1) 必修			

I 総説

A 科目区分および卒業要件単位数

1 科目区分

授業科目は、**外国語科目**、**基礎科目**、**専門科目**、**総合教養科目**、**学部共通科目**、**一般共通科目**の6つの科目区分から構成されている。

2 卒業要件単位数

卒業要件単位数は**126単位**であり、**第1表**に示す規定の単位数を修得しなければならない。

第1表 心理社会学科 卒業要件科目および単位数

科目区分		規定単位数	
外国語科目	必修	14	14
	必修	8	28
基礎科目	選択A	12	
	選択B	4	
	選択C	4	
専門科目	必修	16	62
	選択A (注1)	32	
	選択B	14	
総合教養科目		12	12
学部共通科目		6	(注2) 6
一般共通科目		4	4
合計		126	

(注1) **学部共通科目**の卒業要件単位6単位は、**学部共通科目**の中に配置されている授業科目のほか、**基礎科目**の選択A、選択B及び選択C並びに**専門科目**の選択A及び選択Bに配置されている授業科目の中から、それぞれ卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

(注2) **一般共通科目**の卒業要件単位4単位は、**一般共通科目**の中に配置されている授業科目のほか、**総合教養科目**に配置されている授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

(注3) 留学先大学において修得した単位を本学の外国語科目の単位として認定した場合、外国語科目の卒業要件単位数を超過して修得した単位は、学部共通科目の卒業要件単位として充当することができる。

B 履修科目登録上限単位数

1 履修科目登録上限単位数制度

授業時間外の学修時間を十分に確保し、各科目の学修効果を促進することを目的として、履修科目が過多にならないよう1年間に履修できる単位数の上限を定めている。1年次から履修計画を立て、確実に単位を修得していくことが大切である。

2 履修科目登録上限単位数

- ① 各年次毎の履修科目登録上限単位数は**47単位**とする。
※ 2年次は、後期に「English II : Presentation and Discussion」を履修するため、教務部で事前に仮置きで1単位分について履修登録してある。
- ② 「資格英語」の2単位は履修科目登録上限単位数（47単位）に含まれない。
- ③ 1年次後期より、学部を設置する審査委員会において、成績資料を個別に審査（審査基準：前年度修得単位数40単位以上かつGPA値2.8以上（1年次生は前期GPA2.8以上））し、履修科目登録上限単位数を52単位まで認めることがある。希望者は所定の期間（別途、掲示にて告知）に教務部に申請すること。

C

コース認定制度

本学部学生は、2年次進級時に、心理、社会、政策、戦略のいずれの領域を自分の今後の専門領域とするかを申告する。この専門領域のことを本学部では「コース」と呼ぶ。

コース認定制度は、科目区分の「専門科目」の「選択A」及び「選択B」の中から、コース認定要件に示される所定の単位数を修得した場合に、卒業時に当該コースの修了を認定する制度である。各コースの認定要件は第2表のとおりである。また、認定要件を満たしていれば、申告によらず複数のコースについて認定する。

このコース認定制度は、学生諸君が自らの学習目標を明確に意識することにより、自己の学習意欲向上を図ることを目的としたものである。また、コース毎に収容定員が設定されるものではない。なお、ゼミナールへの配属は、申告したコースの別に関わらずに、学科別に選考を通じて行われる。

コース申告の手続きなどについては、1年次終了時までにはガイダンスを行う。

第2表 コース認定要件

コース	認定要件
心理コース	専門科目選択科目の心理系科目から20単位以上
社会コース	専門科目選択科目の社会系科目から20単位以上
政策コース	専門科目選択科目の政策系科目から20単位以上
戦略コース	専門科目選択科目の戦略系科目から20単位以上

D

2年次から3年次への進級基準

2年次から3年次へ進級するには、2年次終了までに第3表に示す所定の単位を修得していなければならない。

第3表 進級基準

		授業科目	単位数
1年次必修科目	外国語科目	English I: Skills for Learning [a]	1
		English I: Skills for Learning [b]	1
		English I: Social Interaction [a]	1
		English I: Social Interaction [b]	1
		English I: Academic Interaction [a]	1
		English I: Academic Interaction [b]	1
		English I: Reading and Writing [a]	1
		English I: Reading and Writing [b]	1
	基礎科目	イノベーション概論 [a]	2
		イノベーション概論 [b]	2
情報リテラシー		2	
データ分析入門		2	
2年次必修科目	専門科目	基礎ゼミナール (心理)	いずれか 2
		基礎ゼミナール (社会)	
上記必修科目以外の1・2年次配当科目 (卒業要件外単位を除く)			15
合計			33

II

科目区分別履修方法

A

外国語科目

社会イノベーション学部では、英語が必修科目となっており、聞く、話す、読む、書くの4つのスキルをバランスよく身につけることができるようなカリキュラムが組まれている。卒業要件単位数は第4表のとおりである。

第4表 外国語科目規定単位数

区分	授 業 科 目	配当年次	規定単位数	主な技能
必修	English I: Skills for Learning [a]	1	1	基本技能
	English I: Skills for Learning [b]		1	
	English I: Social Interaction [a]		1	リスニング スピーキング
	English I: Social Interaction [b]		1	
	English I: Academic Interaction [a]		1	
	English I: Academic Interaction [b]		1	
	English I: Reading and Writing [a]		1	リーディング ライティング
	English I: Reading and Writing [b]		1	
	English II: Public Speaking	2	1	リスニング スピーキング
	English II: Presentation and Discussion		1	
	English II: Academic Reading and Writing [a]		1	リーディング ライティング
	English II: Academic Reading and Writing [b]		1	
	English II: Business Reading and Writing [a]		1	
	English II: Business Reading and Writing [b]		1	
計			14	

※ クラス分けについて

2年次必修の英語は、入学時に決められたクラスとは異なる英語専用のクラス [(1) ~ (14)] で受講する。教務部で事前登録を行うので、各自のクラスを、LiveCampusUの履修登録画面の履修状況メニューで確認すること。

1 必 修

1年次には、「English I: Skills for Learning [a]/[b]」で高校までに学習した知識とスキルの総復習に加え、レファレンススキルなどの大学レベルでの英語学習の基礎となるスキルを身につける。「English I: Reading and Writing [a]/[b]」では、読み書きの基礎を固める。主にネイティブ・スピーカーの講師による「English I: Social Interaction [a]/[b]」と「English I: Academic Interaction [a]/[b]」では、それぞれ日常生活とアカデミックな場面におけるコミュニケーション能力を身につける。

2年次の「English II: Business Reading and Writing [a]/[b]」と「English II: Academic Reading and Writing [a]/[b]」では、それぞれビジネスとアカデミックな場面に特化して読み書きのスキルを磨く。前期の「English II: Public Speaking」では、英語によるディスカッションやプレゼンテーション能力の基礎を学び、後期の「English II: Presentation and Discussion」では、前期に学んだスキルを繰り返しトレーニングし、場面に応じた英語コミュニケーション能力を身につける。

なお、外国語科目のうち1年次必修科目の単位数は、3年次への進級基準にも含まれており、3年次進級のためには同授業科目の単位数を修得している必要がある。

2年次後期の「English II: Presentation and Discussion」は、前期の「English II: Public Speaking」が合格又は認定の場合に限り履修可能である。LiveCampusUの履修登録画面上には、「English II: Presentation and Discussion」が表示されるが、「English II: Public Speaking」の単位数が未修得の場合は、前期の成績確定後に、教務部が「English II: Presentation and Discussion」の登録を削除する。また、「English II: Business Reading and Writing [b]」は、履修年度（単位数を取得しようとする年度）のTOEICスコアが450点に満たない場合は授業内の成果にかかわらず不可とする。

※2021年度をもって「English I: Social Interaction」及び「English I: Academic Interaction」が廃講となり、2022年度に「English I: Social Interaction [a]/[b]」及び「English I: Academic Interaction [a]/[b]」が新設された。旧科目の単位数を修得している場合、新科目の単位数を修得済みであるとみなされる。

2 TOEIC IP
テスト

本学部学生には、1年次から3年次までの各年次において、学内で実施するTOEIC IPテスト、または学外で実施されるTOEIC Listening & Reading Testを年1回受験することを義務づけている。これは学生諸君が自らの英語力を継続的にチェックすることにより、学習意欲の向上を図り、さらに社会に対して自らの英語力を広くアピールすることを目的として行われる。また、外国語科目（英語）必修科目の授業科目である「EnglishⅡ：Business Reading and Writing [b]」については、TOEICテストにおいて一定の水準に到達することを単位修得の条件としており、ひいては、本学部卒業の要件ともなっている。

TOEIC IPテストには、本学部で実施されるものの他に、学内のキャリアセンターなどで実施されるものもある。本学部で実施されるTOEIC IPテスト以外により獲得したスコアを用いる場合には、別途掲示する所定期日までに、それらのテストのスコアカードを3号館4階社会イノベーション学部研究事務室に持参して申告する必要がある。本学部で実施されるTOEIC IPテストの受験手続きに関する情報は、別途掲示して通知する。また、TOEIC IPテスト等の受験手続きに関する問い合わせは、3号館4階社会イノベーション学部研究事務室にて受け付ける。

3 未修得科目の
再履修

① 1年次の必修科目

再履修者対象の授業科目（1年次配当）を履修すること。

② 2年次の必修科目

再履修者対象の授業科目（2年次配当）を履修すること。

B 基礎科目

基礎科目は、必修、選択A、選択B、選択Cの4区分から構成されている。それぞれの科目区分の卒業要件単位数は第5表のとおりである。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧」を参照すること。

第5表 基礎科目規定単位数

科目区分		規定単位数
基礎科目	必修	8
	選択A	12
	選択B	4
	選択C	4
計		28

1 必修

基礎科目必修の授業科目は、第6表のとおりである。これらの授業科目は、イノベーションについてどのように考えるかということを理解すると同時に、必要な情報をどのように獲得し、加工するかという基礎的分析能力を身につけることを目的とする。なお、基礎科目の必修科目の単位は、3年次への進級基準にも含まれており、3年次進級のためには必ず同授業科目の単位を修得している必要がある。

第6表 基礎科目必修科目

授業科目	配当年次	単位数
イノベーション概論 [a]	1	2
イノベーション概論 [b]	1	2
情報リテラシー	1	2
データ分析入門	1	2

《履修上の注意》

- ① 基礎科目必修科目が不合格の場合は、翌年度に再履修すること。
- ② 上記科目を再履修する場合は、特別な手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ③ 以下のように授業科目の名称変更がされた。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

変更年度	新授業科目	旧授業科目
2023年度	イノベーション概論 [a]	イノベーション概論
	イノベーション概論 [b]	科学技術と社会

2 選 択

基礎科目における選択科目は、第7表に示されており、選択A、選択B、選択Cの3つに分けられている。選択Aには、4年間のイノベーションに関する学修の基礎となるような授業科目が、選択Bには、分析方法に関する授業科目が配置されている。また、選択Cには、イノベーションを推進するに当たり、その社会的な影響面をより広い視野から検討し、イノベーションのもたらす便益とその問題点を深く考察する授業科目が配置されている。

第7表 基礎科目選択科目

区 分	授 業 科 目	配当年次	単 位	備 考
選択A	心理学*	1~2	4	この区分内の授業科目から、12単位以上を選択すること。 なお、*印のついた科目から8単位以上を必ず選択すること。
	社会学*	1~2	4	
	社会心理学*	1~2	4	
	統計学*	1~2	4	
	経済学	1~2	4	
	国際関係学	1~2	4	
	政策学	1~2	2	
	行政学	1~2	2	
選択B	経営学	1~2	4	この区分内の授業科目から、4単位以上を選択すること。
	社会調査法	2~4	4	
	心理実験法	2~4	4	
	メッセージ分析法	2~4	4	
	市場調査法	2~4	4	
選択C	心理研究法	2~4	4	この区分内の授業科目から、4単位以上を選択すること。
	エコロジー論	1~4	4	
	生命倫理論	1~4	4	
	比較文化論	1~4	4	
	生命の科学	1~4	4	
	文明と社会	1~4	4	
	家族と社会の変動	1~4	4	
地域と文化	1~4	4		

《履修上の注意》

- ① 「社会調査法」、「心理実験法」、「市場調査法」及び「心理研究法」は、機材の関係上、履修者数について制限が行われる。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 選択A、選択B、選択Cに属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超過して修得した単位は、学部共通科目の卒業要件単位として充当することができる。

C 専門科目

専門科目は、必修、選択A、選択Bの3区分から構成されている。それぞれの科目区分の卒業要件単位数は第8表のとおりである。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧」を参照すること。

第8表 専門科目規定単位数

科 目 区 分		規定単位数
専 門 科 目	必 修	16
	選 択 A	32
	選 択 B	14
計		62

1 必 修

専門科目の授業科目は、第9表のとおりである。

第9表 専門科目必修科目

授 業 科 目	配当年次	単 位
基礎ゼミナール（心理）	2	2
基礎ゼミナール（社会）	2	2
ゼミナールⅠ	3	4
ゼミナールⅡ	4	4
卒 業 研 究	4	4

《履修上の注意》

- ① 「ゼミナールⅠ」、「ゼミナールⅡ」及び「卒業研究」は、原則として同一担当教員の指導の下で履修しなければならない。
- ② 「ゼミナールⅠ」が不合格の者は、「ゼミナールⅡ」及び「卒業研究」を履修することができない。
- ③ 卒業研究の提出要領については、【授業に関すること】Ⅳ卒業研究を参照すること。

2 選択A・B

専門科目における選択科目は、選択Aと選択Bに分けられる。

選択Aは、新製品やブランドを受け入れる消費者心理、イノベーションを生み出す個人の創造力とコミュニケーションの可能性を探る心理系科目、イノベーションと社会の関わり、宗教・文化・環境とイノベーションの関係など、社会的な問題を扱う社会系科目及び学科共通科目に分かれる。

選択Bは、科学技術政策や産業政策をはじめとするイノベーション促進のための国の政策や法制度のあり方を考える政策系科目、研究開発戦略、新ビジネスモデルの構築、新製品開発活動など企業戦略のあり方に迫る戦略系科目及び学科共通科目に分かれる。

選択A及び選択Bの授業科目は、第10表のとおりである。

第10表 専門科目選択科目

区分	授業科目	配当年次	単位	授業科目	配当年次	単位	
選択A	心理系科目	イノベーション心理論	2~4	4	組織心理学	3・4	2
		認知心理学Ⅰ	2~4	2	意思決定論	3・4	2
		認知心理学Ⅱ	2~4	2	経済心理学	3・4	2
		パーソナリティ心理学	2~4	2	ワークプレイス論	3・4	2
		メディア心理学	2~4	4	対人コミュニケーション論	3・4	4
		異文化間心理学	2~4	2	認知言語学	3・4	4
					ヒューマンインターフェイス論	3・4	4
					産業カウンセリング	3・4	4
	社会系科目	イノベーション社会論	2~4	4	宗教社会論Ⅰ	3・4	2
		社会システム論	2~4	4	宗教社会論Ⅱ	3・4	2
		日本社会文化論Ⅰ	2~4	2	社会人類学	3・4	2
		日本社会文化論Ⅱ	2~4	2	NGO・NPO論	3・4	2
		アジア社会文化論	2~4	4	社会調査専門演習	3・4	4
		アメリカ社会文化論Ⅰ	2~4	2			
		アメリカ社会文化論Ⅱ	2~4	2			
		現代国際社会学	2~4	4			
		異文化間コミュニケーション論Ⅰ	2~4	2			
		異文化間コミュニケーション論Ⅱ	2~4	2			
		環境社会論Ⅰ	2~4	2			
		環境社会論Ⅱ	2~4	2			
現代社会福祉論	2~4	2					
ケアの社会学	2~4	2					
科目共通	OCA	2~4	2	コミュニケーション・デザイン実践演習	2~4	2	
	イノベーション・マネジメント実践演習	2~4	2	心理社会学特殊講義	3・4	2	
選択B	政策系科目	イノベーション政策論	2~4	4	イノベーション経済論	3・4	4
		経済政策	2~4	2	公共政策論	3・4	2
		公共経済学	2~4	2	知的財産法	3・4	2
		科学技術論	2~4	2	リテールファイナンス論	3・4	2
		金融システム論	2~4	2	金融イノベーション論Ⅱ	3・4	2
		金融イノベーション論Ⅰ	2~4	2	比較イノベーション論	3・4	2
		日本経済論	2~4	2	グローバルガバナンス論	3・4	2
		日本金融論	2~4	2	国際機構論	3・4	4
		国際協力・開発イノベーション論	2~4	4	地域イノベーション論	3・4	2
		開発政策論	2~4	2			
		開発支援論	2~4	2			
		国際法	2~4	4			
	地域政策論	2~4	4				
	戦略系科目	イノベーション戦略論	2~4	4	人的資源論	3・4	4
		戦略論	2~4	2	新商品開発論	3・4	2
		組織論	2~4	2	ベンチャービジネス論	3・4	2
		マーケティング論	2~4	2	研究開発管理論	3・4	2
		現代企業論	2~4	4	トップマネジメント論	3・4	2
		企業家史	2~4	4	企業評価論	3・4	4
		組織イノベーション論	2~4	4			
グローバル・イノベーション・マネジメント論		2~4	4				
科目共通				政策イノベーション特殊講義Ⅰ	3・4	2	
				政策イノベーション特殊講義Ⅱ	3・4	2	

履修規定

心理社会学

2 選択A・B (つづき)

《履修上の注意》

- ① 選択A及び選択Bに属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、**学部共通科目**に充当することができる。
- ② 以下の科目は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【**授業に関すること**】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

産業カウンセリング	社会調査専門演習	コミュニケーション・デザイン実践演習
日本経済論	日本金融論	

- ③ 2019年度をもって「環境社会論」が廃講となり、2020年度に「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅱ」が新設された。「環境社会論」の単位を修得している場合、「環境社会論Ⅰ」を履修することはできない。
- ④ 2020年度より「政策イノベーション特殊講義」は「政策イノベーション特殊講義Ⅰ」に科目名称が変更された。旧科目の単位を修得済みの場合、新科目を履修することができない。
- ⑤ 2020年度に「政策イノベーション特殊講義Ⅱ」が新設された。
- ⑥ 2022年度に以下のように授業科目が変更された。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新 授 業 科 目	旧 授 業 科 目
認知心理学Ⅰ	認知心理学
認知心理学Ⅱ	
日本社会文化論Ⅰ	日本社会文化論
日本社会文化論Ⅱ	
アメリカ社会文化論Ⅰ	アメリカ社会文化論
アメリカ社会文化論Ⅱ	
現代社会福祉論	生活福祉論
ケアの社会学	
宗教社会論Ⅰ	宗教社会論
宗教社会論Ⅱ	

- ⑦ 2022年度をもって、「不動産開発論」、「都市開発論」、および「ロジスティクス論」は廃講となった。なお、修得済の単位は専門科目選択Bの単位として認められる。
- ⑧ 2023年度に「地域イノベーション論」、「コミュニケーション・デザイン実践演習」が新設された。
- ⑨ 2023年度より「社会イノベーション特殊演習」は「イノベーション・マネジメント実践演習」に科目名称が変更された。旧単位を修得済みの場合、新科目を履修することができない。

3 OCA

選択A学科共通科目で2年次より開講される「OCA」とは、オフ・キャンパス・アクティビティの略語であり、企業や政府、地方公共団体、NPO / NGOなどの諸組織・諸機関において、就業体験（インターンシップ）を積むことにより、実社会への理解、社会において必要な能力・スキルへの理解を深めるとともに、将来のキャリア形成に役立つ実践的な経験を積むことを目的として置かれている科目である。

※ 登録方法については、【**授業に関すること**】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

※ 「OCA事前講義」及び「OCA」は、年度をかえて同一名称の授業科目を反復履修できる。**ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位として認めない。**

4 コース制度

専門科目の選択A及び選択Bの中から所定の単位を修得した場合、卒業時にコース修了の認定が与えられる。詳細については、【**履修規定**】Ⅰ総説 Ⅲコース認定制度】及び【**履修モデル**】を参照すること。

D 総合教養科目

高度に科学が細分化された21世紀に生きる人間にとって、その専門能力の養成は必要不可欠であるが、その専門能力も洗練された教養人としての健全な懐疑の精神と幅広い視野があってこそ正しい方向に発揮される。この認識の下に、多様な分野の授業科目が開設されているのが**総合教養科目**である。この科目区分の授業科目は**第11表**のとおりである。卒業要件単位数は**12単位**である。

なお、総合教養科目には全学共通教育カリキュラムで用意された科目が含まれている。全学共通教育の理念等は、【**全学共通教育科目**】の項に記載されている。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧」を参照すること。

第11表 総合教養科目

分野	授業科目	配当年次	単位	分野	授業科目	配当年次	単位	
全学共通教育科目	短期学外演習	1~4	2	基幹	法学（含む日本国憲法）a	1~4	2	
	教養演習	1~4	4		法学（含む日本国憲法）b	1~4	2	
	応用英語研究	3・4	4		社会構造論Ⅰa	1~4	2	
	言語コミュニケーション演習	3・4	4		社会構造論Ⅰb	1~4	2	
全学共通教育科目 教養科目群	総合科目	総合講座Ⅰ	1~4	2	社会構造論Ⅱa	1~4	2	
		総合講座Ⅱ	1~4	2	社会構造論Ⅱb	1~4	2	
		総合講座Ⅲ	1~4	2	社会構造論Ⅲa	1~4	2	
		総合講座Ⅳ	1~4	2	社会構造論Ⅲb	1~4	2	
		総合講座Ⅴ	1~4	2	社会構造論Ⅳa	1~4	2	
		総合講座Ⅵ	1~4	2	社会構造論Ⅳb	1~4	2	
		特別講座Ⅰ	1~4	2	社会構造論Ⅴa	1~4	2	
		特別講座Ⅱ	1~4	2	社会構造論Ⅴb	1~4	2	
		成城学	成城学園を知る	1~4	2	社会構造論Ⅵa	1~4	2
			成城学Ⅰ	1~4	2	社会構造論Ⅵb	1~4	2
成城学Ⅱ	1~4		2	社会構造論演習 a	1~4	2		
成城学Ⅲ	1~4		2	社会構造論演習 b	1~4	2		
成城学Ⅳ	1~4		2	哲学入門 a	1~4	2		
全学共通教育科目 教養科目群（系列科目）	基幹	社会学入門 a	1~4	2	哲学入門 b	1~4	2	
		社会学入門 b	1~4	2	宗教学入門 a	1~4	2	
		メディア論入門 a	1~4	2	宗教学入門 b	1~4	2	
		メディア論入門 b	1~4	2	倫理学入門 a	1~4	2	
	現代社会論系列 展開	現代社会論Ⅰa	1~4	2	倫理学入門 b	1~4	2	
		現代社会論Ⅰb	1~4	2	西洋思想入門 a	1~4	2	
		現代社会論Ⅱa	1~4	2	西洋思想入門 b	1~4	2	
		現代社会論Ⅱb	1~4	2	東洋思想入門 a	1~4	2	
		現代社会論Ⅲa	1~4	2	東洋思想入門 b	1~4	2	
		現代社会論Ⅲb	1~4	2	日本思想入門 a	1~4	2	
		現代社会論Ⅳa	1~4	2	日本思想入門 b	1~4	2	
		現代社会論Ⅳb	1~4	2	思想・人間論Ⅰa	1~4	2	
		現代社会論Ⅴa	1~4	2	思想・人間論Ⅰb	1~4	2	
		現代社会論Ⅴb	1~4	2	思想・人間論Ⅱa	1~4	2	
		現代社会論Ⅵa	1~4	2	思想・人間論Ⅱb	1~4	2	
		現代社会論Ⅵb	1~4	2	思想・人間論Ⅲa	1~4	2	
		現代社会論Ⅶa	1~4	2	思想・人間論Ⅲb	1~4	2	
		現代社会論Ⅶb	1~4	2	思想・人間論演習 a	1~4	2	
		現代社会論Ⅷa	1~4	2	思想・人間論演習 b	1~4	2	
		現代社会論Ⅷb	1~4	2	文学入門 a	1~4	2	
社会構造論系列 基幹	国際関係論入門 a	1~4	2	文学入門 b	1~4	2		
	国際関係論入門 b	1~4	2	言語学入門 a	1~4	2		
	経済学入門 a	1~4	2	言語学入門 b	1~4	2		
	経済学入門 b	1~4	2	音楽入門 a	1~4	2		
	政治学入門 a	1~4	2	音楽入門 b	1~4	2		
	政治学入門 b	1~4	2	表象文化論入門 a	1~4	2		
	情報社会論入門 a	1~4	2	表象文化論入門 b	1~4	2		
	情報社会論入門 b	1~4	2	表現文化論Ⅰa	1~4	2		
	展開	表現文化論Ⅰb	1~4	2	表現文化論Ⅱa	1~4	2	
		表現文化論Ⅱb	1~4	2	表現文化論Ⅱb	1~4	2	

履修規定

心理社会学科

第11表 総合教養科目 (つづき)

分野	授業科目	配当年次	単位	分野	授業科目	配当年次	単位
表現文化論系列 展開	表現文化論Ⅲa	1~4	2	地域空間論系列 展開	地域空間論Ⅵa	1~4	2
	表現文化論Ⅲb	1~4	2		地域空間論Ⅵb	1~4	2
	表現文化論Ⅳa	1~4	2		地域空間論Ⅶa	1~4	2
	表現文化論Ⅳb	1~4	2		地域空間論Ⅶb	1~4	2
	表現文化論Ⅴa	1~4	2		地域空間論Ⅷa	1~4	2
	表現文化論Ⅴb	1~4	2		地域空間論Ⅷb	1~4	2
	表現文化論Ⅵa	1~4	2		地域空間論演習 a	1~4	2
	表現文化論Ⅵb	1~4	2		地域空間論演習 b	1~4	2
	表現文化論演習 a	1~4	2		数学の世界 a	1~4	2
	表現文化論演習 b	1~4	2		数学の世界 b	1~4	2
歴史文化論系列 展開	歴史学入門 a	1~4	2	数理・自然科学系列 展開	物理の世界 a	1~4	2
	歴史学入門 b	1~4	2		物理の世界 b	1~4	2
	日本近現代史 a	1~4	2		化学の世界 a	1~4	2
	日本近現代史 b	1~4	2		化学の世界 b	1~4	2
	ヨーロッパ近現代史 a	1~4	2		生命科学の世界 a	1~4	2
	ヨーロッパ近現代史 b	1~4	2		生命科学の世界 b	1~4	2
	アジア近現代史 a	1~4	2		科学史 a	1~4	2
	アジア近現代史 b	1~4	2		科学史 b	1~4	2
	アメリカ近現代史 a	1~4	2		自然科学Ⅰa	1~4	2
	アメリカ近現代史 b	1~4	2		自然科学Ⅰb	1~4	2
歴史文化論系列 展開	歴史文化論Ⅰa	1~4	2	自然科学系列 展開	自然科学Ⅱa	1~4	2
	歴史文化論Ⅰb	1~4	2		自然科学Ⅱb	1~4	2
	歴史文化論Ⅱa	1~4	2		自然科学Ⅲa	1~4	2
	歴史文化論Ⅱb	1~4	2		自然科学Ⅲb	1~4	2
	歴史文化論Ⅲa	1~4	2		自然科学Ⅳa	1~4	2
	歴史文化論Ⅲb	1~4	2		自然科学Ⅳb	1~4	2
	歴史文化論Ⅳa	1~4	2		自然科学Ⅴa	1~4	2
	歴史文化論Ⅳb	1~4	2		自然科学Ⅴb	1~4	2
	歴史文化論Ⅴa	1~4	2		数理・自然科学演習 a	1~4	2
	歴史文化論Ⅴb	1~4	2		数理・自然科学演習 b	1~4	2
歴史文化論系列 展開	歴史文化論演習 a	1~4	2	心身論系列 展開	こころと身体 a	1~4	2
	歴史文化論演習 b	1~4	2		こころと身体 b	1~4	2
	文化人類学入門 a	1~4	2		身体と運動・スポーツ a	1~4	2
	文化人類学入門 b	1~4	2		身体と運動・スポーツ b	1~4	2
	空間システム論入門 a	1~4	2		心身論Ⅰa	1~4	2
	空間システム論入門 b	1~4	2		心身論Ⅰb	1~4	2
	地域空間論Ⅰa	1~4	2		心身論Ⅱa	1~4	2
	地域空間論Ⅰb	1~4	2		心身論Ⅱb	1~4	2
	地域空間論Ⅱa	1~4	2		心身論Ⅲa	1~4	2
	地域空間論Ⅱb	1~4	2		心身論Ⅲb	1~4	2
地域空間論Ⅲa	1~4	2	心身論Ⅳa	1~4	2		
地域空間論Ⅲb	1~4	2	心身論Ⅳb	1~4	2		
地域空間論Ⅳa	1~4	2	心身論Ⅴa	1~4	2		
地域空間論Ⅳb	1~4	2	心身論Ⅴb	1~4	2		
地域空間論Ⅴa	1~4	2	心身論演習 a	1~4	2		
地域空間論Ⅴb	1~4	2	心身論演習 b	1~4	2		

履修規定

心理社会学科

第11表 総合教養科目 (つづき)

区分	授業科目	配当年次	単位	区分	授業科目	配当年次	単位		
全学共通教育科目 国際交流科目群	英語等による日本事情関係科目	Japan Studies I A	1~4	2	全学共通教育科目 国際交流科目群	英語等による特定のテーマを扱った科目	Special Topics I A	1~4	2
		Japan Studies I B	1~4	2			Special Topics I B	1~4	2
		Japan Studies II A	1~4	2			Special Topics II A	1~4	2
		Japan Studies II B	1~4	2			Special Topics II B	1~4	2
		Japan Studies III A	1~4	2			Special Topics III A	1~4	2
		Japan Studies III B	1~4	2			Special Topics III B	1~4	2
		Japan Studies IV A	1~4	2			Special Topics IV A	1~4	2
		Japan Studies IV B	1~4	2			Special Topics IV B	1~4	2
		Japan Studies V A	1~4	2			Special Topics V A	1~4	2
		Japan Studies V B	1~4	2			Special Topics V B	1~4	2
		Japan Studies VI A	1~4	2					
		Japan Studies VI B	1~4	2					
		Japan Studies VII A	1~4	2					
		Japan Studies VII B	1~4	2					
		Japan Studies VIII A	1~4	2					
		Japan Studies VIII B	1~4	2					

【2022年度以降入学者用】

区分	授業科目	配当年次	単位
全学共通教育科目 データサイエンス科目群	リテラシー科目	データサイエンス概論	1~4 2
		データサイエンス基礎	1~4 2
	応用基礎科目	データアナリティクス基礎	2~4 2
		機械学習基礎	2~4 2
	アドバンスド科目	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2~4 2
		データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2~4 2
		データサイエンス特殊講義 I	2~4 2
		データサイエンス特殊講義 II	2~4 2
		データサイエンス特殊講義 III	2~4 2
		データサイエンス特殊講義 IV	2~4 2
	選択科目	データアナリティクス応用	2~4 2
		機械学習応用	2~4 2
		数理科学基礎 a	1~4 2
		数理科学基礎 b	1~4 2
		数理科学応用 a	1~4 2
		数理科学応用 b	1~4 2

【2021年度以前入学者用】

区分	授業科目	配当年次	単位
全学共通教育科目 データサイエンス科目群	基礎科目	データサイエンス概論	1~4 2
		データサイエンス基礎	1~4 2
		データアナリティクス基礎	2~4 2
		データアナリティクス応用	2~4 2
	発展科目	機械学習基礎	2~4 2
		データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2~4 2
	選択科目	数理科学基礎 a	1~4 2
		数理科学基礎 b	1~4 2
		数理科学応用 a	1~4 2
		数理科学応用 b	1~4 2

《履修上の注意》

- ① 総合教養科目に属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位は、一般共通科目に充当することができる。
- ② 全学共通教育科目の中には特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。

履修規定

心理社会学科

- ③ 「短期学外演習」は、反復して履修することができる。ただし、卒業要件単位に算入することができるのは2単位までである。
- ④ 世田谷6大学コンソーシアム連携授業科目である「総合講座V」及び「総合講座VI」は、年度をかえて同一名称の授業科目を反復履修できる。ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位として認めない。
- ⑤ 2021・2022年度開講の「特別講座II」を修得した場合のみ、成績評価は他の科目と異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。
- ⑥ 2021年度をもって、「数理科学I a・b」、「数理科学II a・b」は廃講となった。修得済みの単位は総合教養科目の単位として認められる。
- ⑦ 2022年度に以下のように授業科目の名称変更がされた。旧授業科目の単位を修得している場合、新授業科目を履修することはできない。

新 授 業 科 目	旧 授 業 科 目
データサイエンス基礎	データサイエンス入門I
データアナリティクス基礎	データサイエンス入門II
データアナリティクス応用	データサイエンス応用
機械学習基礎	データサイエンス・スキルアップ・プログラム

- ⑧ 「データアナリティクス基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- ・ 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
- ⑨ 「機械学習基礎」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- ・ 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
 - ・ 「データアナリティクス基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。
- ⑩ 「データサイエンス・アドバンスト・プログラム」、「データサイエンス・ワークフロー・プログラム」の履修に際しては、以下の条件を満たしていることが望ましい。
- ・ 「データサイエンス概論」、「データサイエンス基礎」を修得済みであること。
 - ・ 「データアナリティクス基礎」、「機械学習基礎」を修得済みであるか、同時履修していること。
- ⑪ 2022年度に「数理科学基礎a・b」、「数理科学応用a・b」が新設された。
- ⑫ 2023年度に「Special TopicsVA・B」が新設された。

教 養 演 習

総合教養科目の1つとして少人数のゼミナール形式の授業として開講されるのが「教養演習」である。この授業科目は1～4年次までに開かれているが、主な対象として1年次生を設定している。クラスサイズは原則20人以下とし、少人数教育の利点を活かした教員と学生間、さらに学生相互間での議論を重視した授業を行う。学生一人ひとりの個性を育みながら、テーマに沿って学生の知的関心を広め、さらに深めることをねらいとしている。あわせて、議論とレポートの作成を通して、論理的な思考と日本語表現力を育成する。

「教養演習」は反復・重複して履修することができるが、卒業要件単位に算入することができるのは4単位までである。

なお、履修に際しては特別な手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

E 学部共通科目

学部共通科目には、英語力のブラッシュアップが図れるような各種の英語科目及び英語以外の外国語科目が配置されている。

学部共通科目の卒業要件単位数は6単位であり、授業科目は第12表のとおりである。なお、学部共通科目には全学共通教育カリキュラムで用意された科目が含まれており、全学共通教育の理念等は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧」を参照すること。

なお、学部共通科目の卒業要件6単位は、学部共通科目の中に配置されている授業科目のほか、基礎科目の選択A、選択B及び選択C並びに専門科目の選択A及び選択Bに属する授業科目の中から、それぞれ卒業要件単位数を超えて修得した単位によっても充当することができる。

第12表 学部共通科目

分野	授業科目	配当年次	単位	分野	授業科目	配当年次	単位
全学共通教育科目 リテラシー科目群	English for International Communication	2~4	2	外国語科目 (ディプロム・コース)	ディプロム・コース中級(独語) a	1~4	1
	English for Academic Settings	2~4	2		ディプロム・コース中級(独語) b	1~4	1
	English for Practical Proficiency	2~4	2		ディプロム・コース上級(独語) a	1~4	1
	Innovation Studies in English [a]	2~4	1		ディプロム・コース上級(独語) b	1~4	1
	Innovation Studies in English [b]	2~4	1		ディプロム・コース中級(仏語) a	1~4	1
	Advanced Oral Interaction in English	2~4	2		ディプロム・コース中級(仏語) b	1~4	1
	Critical Reading in English [a]	2~4	1		ディプロム・コース上級(仏語) a	1~4	1
	Critical Reading in English [b]	2~4	1		ディプロム・コース上級(仏語) b	1~4	1
	Research Writing Skills in English [a]	2~4	1		ディプロム・コース中級(スペイン語) a	1~4	1
	Research Writing Skills in English [b]	2~4	1		ディプロム・コース中級(スペイン語) b	1~4	1
	Thesis Writing Skills in English [a]	3~4	1		ディプロム・コース中級(韓国語) a	1~4	1
	Thesis Writing Skills in English [b]	3~4	1		ディプロム・コース中級(韓国語) b	1~4	1
	資格英語	2~4	2		海外短期語学研修	海外短期語学研修(英語・春季)	*
ビジネス英語a	1~4	1	海外短期語学研修(英語・夏季)	1~4		2	
ビジネス英語b	1~4	1	海外短期語学研修(独語・春季)	*		2	
独会話選択a	1~4	1	海外短期語学研修(仏語・春季)	*		2	
独会話選択b	1~4	1	海外短期語学研修(中国語・夏季)	1~4		2	
独語選択(初級) I a	1~4	1	海外短期語学研修(英語・夏季) [2021年度以降入学者のみ履修可]	1~4		1	
独語選択(初級) I b	1~4	1	海外短期語学研修(英語・就業体験準備) [2020年度以前入学者のみ履修可]	1~4		1	
独語選択(初級) II a	1~4	1	海外短期研修(マレーシア・就業体験研修) [2020年度以前入学者のみ履修可]	1~4		2	
独語選択(初級) II b	1~4	1					
独語選択(中級) a	1~4	1	全学共通教育科目 国際交流科目群 受け入れ留学生科目	日本語(初級) I A		交換留学生等	2
独語選択(中級) b	1~4	1		日本語(初級) I B	交換留学生等	2	
独語選択(上級) a	1~4	1		日本語(初級) II A	交換留学生等	2	
独語選択(上級) b	1~4	1		日本語(初級) II B	交換留学生等	2	
仏会話選択a	1~4	1		日本語(初級) III A	交換留学生等	2	
仏会話選択b	1~4	1		日本語(初級) III B	交換留学生等	2	
仏語選択(初級) I a	1~4	1		日本語(初級) IV A	交換留学生等	2	
仏語選択(初級) I b	1~4	1		日本語(初級) IV B	交換留学生等	2	
仏語選択(初級) II a	1~4	1		日本語(初級) IVA	交換留学生等	2	
仏語選択(初級) II b	1~4	1		日本語(初級) IVB	交換留学生等	2	
仏語選択(中級) a	1~4	1		日本語(中級) I A	交換留学生等	2	
仏語選択(中級) b	1~4	1		日本語(中級) I B	交換留学生等	2	
仏語選択(上級) a	1~4	1		日本語(中級) II A	交換留学生等	2	
仏語選択(上級) b	1~4	1		日本語(中級) II B	交換留学生等	2	
スペイン語選択(初級) a	1~4	1		日本語(中級) III A	交換留学生等	2	
スペイン語選択(初級) b	1~4	1		日本語(中級) III B	交換留学生等	2	
中国語選択(初級) I a	1~4	1		日本語(中級) IV A	交換留学生等	2	
中国語選択(初級) I b	1~4	1		日本語(中級) IVB	交換留学生等	2	
中国語選択(初級) II a	1~4	1		日本語(上級) I A	交換留学生等	1	
中国語選択(初級) II b	1~4	1		日本語(上級) I B	交換留学生等	1	
中国語選択(中級) a	1~4	1		日本語(上級) II A	交換留学生等	1	
中国語選択(中級) b	1~4	1		日本語(上級) II B	交換留学生等	1	
中国語選択(上級) a	1~4	1		日本語(上級) III A	交換留学生等	2	
中国語選択(上級) b	1~4	1		日本語(上級) III B	交換留学生等	2	
韓国語会話選択a	1~4	1		日本語(上級) IV A	交換留学生等	2	
韓国語会話選択b	1~4	1		日本語(上級) IVB	交換留学生等	2	
韓国語選択(初級) a	1~4	1		日本語(上級) VA	交換留学生等	2	
韓国語選択(初級) b	1~4	1		日本語(上級) VB	交換留学生等	2	

履修規定

心理社会学科

《履修上の注意》

- ① 学部共通科目は、特別な履修手続きが必要である。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 「資格英語」は、TOEFL又はTOEICの成績優秀者に対して単位を授与する授業科目である。
- ③ 《英語到達目標》
 - ・「ビジネス英語」― 受講者のレベルや要請に応じて、初級～上級のレベルを目指す。
- ④ 中級以上の独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の目安を参考にすること。

授業科目（グレード）	履修の目安	備考
独語選択（中級）a・b 仏語選択（中級）a・b 中国語選択（中級）a・b	・「選択（初級）I a～II b」の計4単位を修得した者	a・bどちらかみの履修も可。
独語選択（上級）a・b 仏語選択（上級）a・b 中国語選択（上級）a・b	・上記「選択（中級）a・b」の計2単位を修得した者	a・bどちらかみの履修も可。

※上記の「履修の目安」を満たさない状態で履修を希望する場合、必ず第1回目の授業に出席し、担当教員に相談すること。

⑤ 《ディプロム・コース到達目標》

- ・中級（独語・仏語）：独検・仏検の4～3級の合格。
- ・上級（独語・仏語）：独検・仏検の（準）2級～準1級の合格。
- ・中級（スペイン語・韓国語）：西検・ハン検の3級の合格。

⑥ 「海外短期語学研修」、「海外短期研修」については以下のとおりである。

授 業 科 目	配当年次	単位	備 考
海外短期語学研修（英語・春季）	*	2	研修内容等については、シラバスを参照のこと。 また、履修登録の方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
海外短期語学研修（英語・夏季）	1～4	2	
海外短期語学研修（独語・春季）	*	2	
海外短期語学研修（仏語・春季）	*	2	
海外短期語学研修（中国語・夏季）	1～4	2	
海外短期語学研修（英語・夏季） 【2021年度以降入学者のみ履修可】	1～4	1	
海外短期語学研修（英語・就業体験準備） 【2020年度以前入学者のみ履修可】	1～4	1	
海外短期研修（マレーシア・就業体験研修） 【2020年度以前入学者のみ履修可】	1～4	2	

- ・海外短期語学研修のうち、配当年次が*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位が授与される科目である。
研修参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。研修に参加する年度は単位数が0の置ききの科目、その翌年度に2単位の科目を教務部が履修登録する。履修登録された2単位は、研修の翌年度の履修科目登録上限単位数に含まれる。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の可否にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。
- ・一度単位が授与された授業科目も再度履修することができ、同一年度に複数の授業科目を履修することもできる。ただし、授与された単位のうち卒業要件単位に算入することができるのはあわせて2単位までである。
- ・やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考慮し、履修科目登録上限単位数や卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。
- ・2021年度以降入学者対象の「海外短期語学研修（英語・夏季）」（マレーシア）と2020年度以前入学者対象の「海外短期語学研修（英語・就業体験準備）」の研修内容は同一である。
- ・【2020年度以前入学者のみ】
「海外短期語学研修（英語・就業体験準備）【1単位】」と「海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）【2単位】」はセットで履修することになっている。
- ・「海外短期語学研修」及び「海外短期研修」の成績評価は、他の授業科目とは異なり、合格であれば「合」（英文の成績証明書は「P」）と表示される。
- ⑦ 「日本語（初級）」、「日本語（中級）」、「日本語（上級）」は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者、又は外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。外国人留学生が当該科目の履修を希望する場合は、教務部に申し出ること。
- ⑧ 2020年度に「韓国語会話選択a・b」、「ディプロム・コース中級（スペイン語）a・b」、「ディプロム・コース中級（韓国語）a・b」が新設された。
- ⑨ 2019年度をもって、「スペイン語選択（中級・ディプロム）a・b」および「韓国語選択（中級・ディプロム）a・b」は廃講となった。修得済みの単位は学部共通科目の単位として認められる。

履修規定

心理社会学科

一般共通科目の卒業要件単位数は4単位であり、授業科目は第13表～第16表のとおりである。

なお、一般共通科目の卒業要件単位4単位は、一般共通科目の中に配置されている授業科目のほか、総合教養科目に属する授業科目の中から、卒業要件単位数を超えて修得した単位を充当することができる。

一般共通科目は全て、全学共通教育カリキュラムで用意された科目である。各分野の設置に当たっての理念等は、【全学共通教育科目】の項に記載されている。

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧」を参照すること。

1 スポーツ・ウェルネス教育科目 スポーツ・ウェルネス教育科目の授業科目は、第13表のとおりである。

第13表 スポーツ・ウェルネス教育科目

カテゴリー	系列	授業科目・種目、コース	配当年次	単位	
スポーツ・ウェルネス講義・演習科目(半期)	スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ スポーツ・スタディーズⅡ スポーツ・スタディーズⅢ スポーツ・スタディーズⅣ	1～4	2	
	ウェルネス文化	ウェルネス・スタディーズⅠ ウェルネス・スタディーズⅡ ウェルネス・スタディーズⅢ ウェルネス・スタディーズⅣ			
	身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ 身体表現・スタディーズⅡ 身体表現・スタディーズⅢ 身体表現・スタディーズⅣ			
スポーツ・ウェルネス実技科目(半期または集中)	スポーツ文化	オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー&フットサル ソフトボール 卓球 テニス トレーニング バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル	定時コース	1～4	1
		サイクル・スポーツ スキー	集中コース		
	ウェルネス文化	アクアエクササイズ エアロビクス&コンディショニング エアロビクス&ピラティス コンディショニング 水泳 フィットネス ヨガ&ピラティス レクリエーション・スポーツ	定時コース		
		身体表現文化	剣道(古武道) ダンスパフォーマンス		

《履修上の注意》

- ① スポーツ・ウェルネス教育科目は、特別な履修登録手続きが必要となるので【[授業に関すること](#)Ⅳ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ② スポーツ・ウェルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室又は指定された教室でガイダンスを行う。
- ③ スポーツ・ウェルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、トレーニングセンターで行う科目はトレーニングセンターで、それ以外は第1体育館でガイダンスを行う。
なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。
- ④ スポーツ・ウェルネス実技科目は反復履修・重複履修することができる。
- ⑤ 健康上の問題及び心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部又は科目担当専任教員まで申し出ること。

2 IT科目

IT科目の授業科目は、第14表のとおりである。登録方法などについては、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第14表 IT科目

授 業 科 目	配当年次	単 位	授 業 科 目	配当年次	単 位
コンピュータ・リテラシーA1	1～4	2	コンピュータ・リテラシーD	1～4	2
コンピュータ・リテラシーA2	1～4	2	コンピュータ・リテラシーE	1～4	2
コンピュータ・リテラシーB	1～4	2	図書館活用法	1～4	2
コンピュータ・リテラシーC	1～4	2			

《履修上の注意》

- ① 「コンピュータ・リテラシーA1」と「コンピュータ・リテラシーA2」は、セットで履修することになっている。対となるクラスは、同一曜日・時限に開講している。
- ② セットで履修した「コンピュータ・リテラシーA1」と「コンピュータ・リテラシーA2」のうち、どちらか1科目のみ単位を修得し、もう一方の科目が不合格となった場合、不合格となった科目のみを再履修することも、両方を再履修することもできない。

3 WRD

WRDの授業科目「WRD」は第15表のとおりである。登録方法などについては、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第15表 WRD

授 業 科 目	配当年次	単 位
WRD	1～4	4

4 キャリア デザイン科目

キャリアデザイン科目の授業科目は、第16表のとおりである。登録方法などについては、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

第16表 キャリアデザイン科目

授 業 科 目	配当年次	単 位
☆キャリア形成Ⅰ	1～4	2
☆キャリア形成Ⅱ	1～4	2
☆キャリア形成Ⅲ	1～4	2
☆キャリア形成Ⅳ	1～4	2
★プロジェクト演習	1・2	2

注) 各授業科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、授業科目名称には含まれない。

《履修上の注意》

- ① ☆の付いた「キャリア形成Ⅰ～Ⅳ」からは2単位まで卒業要件単位に算入することができる。
- ② ★の付いた「プロジェクト演習」は副題が異なる授業科目を複数開講している。詳細は本年度のシラバスを確認すること。ただし、「プロジェクト演習」のうち、修得できる単位数および卒業要件単位に算入できる単位数は、1科目2単位までとする。また3年次以降は履修することができない。

III

心理社会学科授業科目一覧

第17表 心理社会学科授業科目一覧

分野・区分		配当年次	1 年			
外国語科目	必修	English I: Skills for Learning [a] ① English I: Skills for Learning [b] ① English I: Social Interaction [a] ① English I: Social Interaction [b] ① English I: Academic Interaction [a] ① English I: Academic Interaction [b] ① English I: Reading and Writing [a] ① English I: Reading and Writing [b] ①				
		必修	イノベーション概論 [a] ② イノベーション概論 [b] ②		情報リテラシー② データ分析入門②	
基礎科目	選択 A	心理学④* 社会学④*	社会心理学④* 統計学④*	経済学④ 国際関係学④	政策学② 行政学②	経営学④
	選択 B					
	選択 C	エコロジー論④ 生命倫理論④	比較文化論④ 生命の科学④	文明と社会④ 家族と社会の変動④	地域と文化④	
専門科目	必修					
	選択 A	心理系科目				
		社会系科目				
		学科共通科目				
	選択 B	政策系科目				
		戦略系科目				
学科共通科目						

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。
 注2) 本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧」を参照すること。
 注3) 基礎科目選択Aの卒業要件単位数12単位のうち、*印のついた授業科目から8単位以上を選択すること。

履修規定

心理社会学科

2 年	3 年	4 年	卒業要件 単位数
English II: Public Speaking① English II: Presentation and Discussion① English II: Academic Reading and Writing [a] ① English II: Academic Reading and Writing [b] ① English II: Business Reading and Writing [a] ① English II: Business Reading and Writing [b] ①			14
			8
			12
社会調査法④ 心理実験法④	メッセージ分析法④ 市場調査法④	心理研究法④	4
			4
基礎ゼミナール(心理)② 基礎ゼミナール(社会)②	ゼミナールⅠ④	ゼミナールⅡ④ 卒業研究④	16
イノベーション心理論④ 認知心理学Ⅰ② 認知心理学Ⅱ②	パーソナリティ心理学② メディア心理学④ 異文化間心理学②	組織心理学② 意思決定論② 経済心理学② ワークプレイス論②	32
		対人コミュニケーション論④ 認知言語学④ ヒューマンインターフェイス論④ 産業カウンセリング④	
イノベーション社会論④ 社会システム論④ 日本社会文化論Ⅰ② 日本社会文化論Ⅱ② アジア社会文化論④	アメリカ社会文化論Ⅰ② アメリカ社会文化論Ⅱ② 現代国際社会学④ 異文化間コミュニケーション論Ⅰ② 異文化間コミュニケーション論Ⅱ②	環境社会論Ⅰ② 環境社会論Ⅱ② 現代社会福祉論② ケアの社会学②	
		宗教社会論Ⅰ② 宗教社会論Ⅱ② 社会人類学②	
		NGO・NPO論② 社会調査専門演習④	
OCA②	イノベーション・マネジメント実践演習②	コミュニケーション・デザイン実践演習②	
		心理社会学特殊講義②	
イノベーション政策論④ 経済政策② 公共経済学② 科学技術論②	金融システム論② 金融イノベーション論Ⅰ② 日本経済論② 日本金融論②	国際協力・開発イノベーション論④ 開発政策論② 開発支援論② 国際法④	地域政策論④
		イノベーション経済論④ 公共政策論② 知的財産法② リテールファイナンス論② 金融イノベーション論Ⅱ②	比較イノベーション論② グローバルガバナンス論② 国際機構論④ 地域イノベーション論④
イノベーション戦略論④ 戦略論② 組織論② マーケティング論②	現代企業論④ 企業家史④ 組織イノベーション論④ グローバル・イノベーション・マネジメント論④	消費行動論②	14
		人的資源論④ 新商品開発論② ベンチャービジネス論②	研究開発管理論② トップマネジメント論② 企業評価論④
		政策イノベーション特殊講義Ⅰ②	政策イノベーション特殊講義Ⅱ②

第17表 心理社会学科授業科目一覧（つづき）

配当年次	1 年		
分野・区分			
総合教養科目	短期学外演習②	教養演習④	
	総合講座Ⅰ② 総合講座Ⅱ② 総合講座Ⅲ② 総合講座Ⅳ② 総合講座Ⅴ② 総合講座Ⅵ② 特別講座Ⅰ② 特別講座Ⅱ② 成城学園を知る② 成城学Ⅰ② 成城学Ⅱ② 成城学Ⅲ② 成城学Ⅳ② 成城学Ⅴ② 社会学入門a② 社会学入門b② メディア論入門a② メディア論入門b② 現代社会論Ⅰa② 現代社会論Ⅰb② 現代社会論Ⅱa② 現代社会論Ⅱb② 現代社会論Ⅲa② 現代社会論Ⅲb② 現代社会論Ⅳa② 現代社会論Ⅳb② 現代社会論Ⅴa② 現代社会論Ⅴb② 現代社会論Ⅵa② 現代社会論Ⅵb② 現代社会論Ⅶa② 現代社会論Ⅶb②	現代社会論Ⅶa② 現代社会論Ⅶb② 現代社会論演習a② 現代社会論演習b② 国際関係論入門a② 国際関係論入門b② 経済学入門a② 経済学入門b② 政治学入門a② 政治学入門b② 情報社会論入門a② 情報社会論入門b② 法学（含む日本国憲法）a② 法学（含む日本国憲法）b② 社会構造論Ⅰa② 社会構造論Ⅰb② 社会構造論Ⅱa② 社会構造論Ⅱb② 社会構造論Ⅲa② 社会構造論Ⅲb② 社会構造論Ⅳa② 社会構造論Ⅳb② 社会構造論Ⅴa② 社会構造論Ⅴb② 社会構造論Ⅵa② 社会構造論Ⅵb② 社会構造論演習a② 社会構造論演習b② 哲学入門a② 哲学入門b② 宗教学入門a② 宗教学入門b②	倫理学入門a② 倫理学入門b② 西洋思想入門a② 西洋思想入門b② 東洋思想入門a② 東洋思想入門b② 日本思想入門a② 日本思想入門b② 思想・人間論Ⅰa② 思想・人間論Ⅰb② 思想・人間論Ⅱa② 思想・人間論Ⅱb② 思想・人間論Ⅲa② 思想・人間論Ⅲb② 思想・人間論演習a② 思想・人間論演習b② 文学入門a② 文学入門b② 言語学入門a② 言語学入門b② 音楽入門a② 音楽入門b② 表象文化論入門a② 表象文化論入門b② 表現文化論Ⅰa② 表現文化論Ⅰb② 表現文化論Ⅱa② 表現文化論Ⅱb② 表現文化論Ⅲa② 表現文化論Ⅲb② 表現文化論Ⅳa② 表現文化論Ⅳb②
	【国際交流科目・データサイエンス科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 ㊦ 総合教養科目を参照】		
学部共通科目	ビジネス英語a① ビジネス英語b① 独会話選択a① 独会話選択b① 独語選択（初級）Ⅰa① 独語選択（初級）Ⅰb① 独語選択（初級）Ⅱa① 独語選択（初級）Ⅱb① 独語選択（中級）a① 独語選択（中級）b① 独語選択（上級）a① 独語選択（上級）b① 仏会話選択a① 仏会話選択b① 仏語選択（初級）Ⅰa① 仏語選択（初級）Ⅰb① 仏語選択（初級）Ⅱa① 仏語選択（初級）Ⅱb① 仏語選択（中級）a① 仏語選択（中級）b① 仏語選択（上級）a① 仏語選択（上級）b① スペイン語選択（初級）a① スペイン語選択（初級）b① 中国語選択（初級）Ⅰa① 中国語選択（初級）Ⅰb① 中国語選択（初級）Ⅱa① 中国語選択（初級）Ⅱb① 中国語選択（中級）a①	中国語選択（中級）b① 中国語選択（上級）a① 中国語選択（上級）b① 韓国語会話選択a① 韓国語会話選択b① 韓国語選択（初級）a① 韓国語選択（初級）b① ディプロム・コース中級（独語）a① ディプロム・コース中級（独語）b① ディプロム・コース上級（独語）a① ディプロム・コース上級（独語）b① ディプロム・コース中級（仏語）a① ディプロム・コース中級（仏語）b① ディプロム・コース上級（仏語）a① ディプロム・コース上級（仏語）b① ディプロム・コース中級（スペイン語）a① ディプロム・コース中級（スペイン語）b① ディプロム・コース中級（韓国語）a① ディプロム・コース中級（韓国語）b① 海外短期語学研修（英語・春季）② 海外短期語学研修（英語・夏季）② 海外短期語学研修（独語・春季）② 海外短期語学研修（仏語・春季）② 海外短期語学研修（中国語・夏季）② 海外短期語学研修（英語・夏季）② 海外短期語学研修（英語・夏季）① 海外短期語学研修（英語・就業体験）① 海外短期語学研修（英語・就業体験）①	海外短期研修（マレーシア・就業体験研修） 【2020年度以前入学者のみ履修可】② 日本語（初級）ⅠA② 日本語（初級）ⅠB② 日本語（初級）ⅡA② 日本語（初級）ⅡB② 日本語（初級）ⅢA② 日本語（初級）ⅢB② 日本語（初級）ⅣA② 日本語（初級）ⅣB② 日本語（中級）ⅠA② 日本語（中級）ⅠB② 日本語（中級）ⅡA② 日本語（中級）ⅡB② 日本語（中級）ⅢA② 日本語（中級）ⅢB② 日本語（中級）ⅣA② 日本語（中級）ⅣB② 日本語（上級）ⅠA① 日本語（上級）ⅠB① 日本語（上級）ⅡA① 日本語（上級）ⅡB① 日本語（上級）ⅢA② 日本語（上級）ⅢB② 日本語（上級）ⅣA② 日本語（上級）ⅣB② 日本語（上級）ⅤA② 日本語（上級）ⅤB②
	【外国語科目の一部は、Ⅳ卒業要件単位に算入されない授業科目を参照】		
一般共通科目	【スポーツ・ウエルネス教育科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 ㊦ 一般共通科目 1 スポーツ・ウエルネス教育科目 を参照】 コンピュータ・リテラシーA1② コンピュータ・リテラシーC② 図書館活用法② コンピュータ・リテラシーA2② コンピュータ・リテラシーD② WRD④ コンピュータ・リテラシーB② コンピュータ・リテラシーE② 【キャリアデザイン科目は、Ⅱ科目区分別履修方法 ㊦ 一般共通科目 4 キャリアデザイン科目およびⅣ卒業要件単 【国際交流科目は、Ⅳ卒業要件単位に算入されない授業科目を参照】		

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。

注2) 本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧」を参照すること。

2 年	3 年	4 年	卒業要件 単位数
	応用英語研究④	言語コミュニケーション演習④	
表現文化論 Va② 表現文化論 Vb② 表現文化論 VIa② 表現文化論 VIb② 表現文化論演習a② 表現文化論演習b② 歴史学入門a② 歴史学入門b② 日本近現代史a② 日本近現代史b② ヨーロッパ近現代史a② ヨーロッパ近現代史b② アジア近現代史a② アジア近現代史b② アメリカ近現代史a② アメリカ近現代史b② 歴史文化論 I a② 歴史文化論 I b② 歴史文化論 II a② 歴史文化論 II b② 歴史文化論 III a② 歴史文化論 III b② 歴史文化論 IV a② 歴史文化論 IV b② 歴史文化論 Va② 歴史文化論 Vb② 歴史文化論演習a② 歴史文化論演習b② 文化人類学入門a② 文化人類学入門b② 空間システム論入門a② 空間システム論入門b② 地域空間論 I a②	地域空間論 I b② 地域空間論 II a② 地域空間論 II b② 地域空間論 III a② 地域空間論 III b② 地域空間論 IV a② 地域空間論 IV b② 地域空間論 Va② 地域空間論 Vb② 地域空間論 VI a② 地域空間論 VI b② 地域空間論 VII a② 地域空間論 VII b② 地域空間論 VIII a② 地域空間論 VIII b② 地域空間論演習a② 地域空間論演習b② 数理の世界a② 数理の世界b② 物理の世界a② 物理の世界b② 化学の世界a② 化学の世界b② 生命科学の世界a② 生命科学の世界b② 科学史a② 科学史b② 自然科学 I a② 自然科学 I b② 自然科学 II a② 自然科学 II b② 自然科学 III a② 自然科学 III b②	自然科学IVa② 自然科学IVb② 自然科学Va② 自然科学Vb② 数理・自然科学演習a② 数理・自然科学演習b② こころと身体a② こころと身体b② 身体と運動・スポーツa② 身体と運動・スポーツb② 心身論 I a② 心身論 I b② 心身論 II a② 心身論 II b② 心身論 III a② 心身論 III b② 心身論 IV a② 心身論 IV b② 心身論 Va② 心身論 Vb② 心身論演習a② 心身論演習b②	12
資格英語 ② English for International Communication② English for Academic Settings② English for Practical Proficiency② Innovation Studies in English [a] ① Innovation Studies in English [b] ① Advanced Oral Interaction in English② Critical Reading in English [a] ① Critical Reading in English [b] ① Research Writing Skills in English [a] ① Research Writing Skills in English [b] ①			6
	Thesis Writing Skills in English [a] ① Thesis Writing Skills in English [b] ①		
位に算入されない授業科目を参照】			4
合 計			126

履修規定

心理社会学科

IV

科目番号（科目ナンバリング）

概要

科目番号は、各授業科目に対して、体系的に編成された教育課程（カリキュラム）におけるその位置付け（学修の段階、順序等も含む。）を表すために、各桁に以下に示す分類に基づく数字又は英字を当てて用いることにより、付されている。この科目番号により、当該授業科目がどのような配当年次（又はレベル）の、どのような領域のものであるかがわかるようになっており、学習計画を検討する一助としても活用することができる。なお、科目番号は、シラバスに表示される。

[例] 社会イノベーション学部 心理社会学科における「イノベーション心理論」

NPS - **CA5** - **2** - **5010**

① 学科 ② 分野・区分・領域 ③ 配当年次 ④ 対象となる領域 ⑤ 識別番号

この科目番号であることにより、この授業科目は、心理社会学科の教育課程において「専門科目・選択A・心理系科目」という科目区分の中に位置づけられており、配当年次は「2年次以上」、対象となる領域は「心理領域」であることを示している。

① 学科

NPS | 心理社会学科

② 分野・区分・領域

分野		区分		領域	
A	外国語科目	M	必修	7	〈すべての科目に共通する。〉
B	基礎科目	M	必修	0	〈すべての科目に共通する。〉
		A	選択A		
		B	選択B		
		C	選択C		
C	専門科目	M	必修	0~6	〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉
		A	選択A	5	心理系科目
				6	社会系科目
				0.2	学科共通科目 〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉
		B	選択B	3	政策系科目
				4	戦略系科目
0.1	学科共通科目 〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉				
D	総合教養科目	0	学部開設科目	0.7	〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉
		2	教養科目群	1	総合科目
				2	成城学
				3	系列科目
		5	国際交流科目群	0	〈すべての科目に共通する。〉
6	データサイエンス科目群	0	〈すべての科目に共通する。〉		
E	学部共通科目	0	学部開設科目	7	〈「対象となる領域」の区分に準じる。〉
		2	外国語科目	0	卒業要件内科目 〈すべての科目に共通する。〉
				9	卒業要件外科目
		3	外国語科目（ディプロム）	0	〈すべての科目に共通する。〉
5	国際交流科目群	0	〈すべての科目に共通する。〉		
F	一般共通科目	1	スポーツ・ウエルネス科目	1	講義・演習科目
				2	実技科目
		2	IT科目	0	〈すべての科目に共通する。〉
		3	WRD	0	〈すべての科目に共通する。〉
		4	キャリアデザイン科目	0	卒業要件内科目 〈すべての科目に共通する。〉
				9	卒業要件外科目
5	国際交流科目群	0	卒業要件内科目 〈すべての科目に共通する。〉		
		9	卒業要件外科目		

③ 配当年次

1	1年次から履修できる科目
2	2年次から履修できる科目
3	3年次から履修できる科目
4	4年次に履修できる科目

④ 対象となる領域

0	全領域に関連
1	政策・戦略の両領域に関連
2	心理・社会の両領域に関連
3	政策領域
4	戦略領域
5	心理領域
6	社会領域
7	英語
9	その他
A~F	(全学共通教育科目) *注1

*注1 A~Fの分類の詳細は、次表を参照すること。

⑤ 識別番号

識別番号	
下3桁	各科目に、原則として異なる番号が付与される(一部の科目を除く)。 なお、共通する科目名で [a]・[b]、I・IIとなっている場合には、最終桁が0と5の組合せとなっている。 ただし、全学共通教育科目は、この通りではない。*注2

*注2 全学共通教育科目についての詳細は、次表を参照すること。

全学共通教育科目の番号体系

[[例]の対象となる領域に対応]		[[例]の識別番号に対応]				下4桁
科目群	分野	系列	基幹/展開			
A リテラシー科目群	1 WRD	0 -	0	-	-	A100
	2 外国語科目					A200
	3 外国語科目(ディプロム・コース)					A300
	4 IT科目					A400
B 教養科目群	1 総合科目	0 -	0	-	-	B100
	2 成城学					B200
	3 系列科目	1 現代社会論系列	1 基幹	B311		
			2 展開	B312		
		2 社会構造論系列	1 基幹	B321		
			2 展開	B322		
		3 思想・人間論系列	1 基幹	B331		
			2 展開	B332		
		4 表現文化論系列	1 基幹	B341		
			2 展開	B342		
	5 歴史文化論系列	1 基幹	B351			
		2 展開	B352			
6 地域空間論系列	1 基幹	B361				
	2 展開	B362				
7 数理・自然科学系列	1 基幹	B371				
	2 展開	B372				
8 心身論系列	1 基幹	B381				
	2 展開	B382				
C キャリアデザイン科目群	0 -	0 -	0 -	0 -	C000	
D 国際交流科目群	1 留学対策科目	0 -	0	-	-	D100
	2 英語等による地域研究科目					D200
	3 英語等による日本事情関係科目					D300
	4 英語等による特定のテーマを扱った科目					D400
	5 海外短期語学研修					D500
	6 受け入れ留学生科目					D600
	7 留学準備演習					D700
E データサイエンス科目群	1 リテラシー科目	0 -	0	-	-	E100
	2 応用基礎科目					E200
	3 アドバンスド科目					E300
	4 選択科目					E400
F スポーツ・ウエルネス教育科目	1 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目	1 スポーツ文化	0 -	-	-	F110
		2 ウエルネス文化				F120
		3 身体表現文化				F130
2 スポーツ・ウエルネス実技科目	0 -	0 -	F200			

V

卒業要件単位に算入されない授業科目

以下の授業科目は、履修することが可能であるが、修得しても卒業要件単位には含まれないので注意すること。
 なお以下は全て、全学共通教育カリキュラムで用意された科目である。各分野の設置に当たっての理念等は、【[全学共通教育科目](#)】の項に記載されている。

分野・区分	授 業 科 目	配当年次	単位	授 業 科 目	配当年次	単位	
学部共通科目 外国語科目	英語リスニング&スピーキング (初級) a	1~4	1	英語リーディング&ライティング (中級) a	1~4	1	
	英語リスニング&スピーキング (初級) b	1~4	1	英語リーディング&ライティング (中級) b	1~4	1	
	英語リスニング&スピーキング (中級) a	1~4	1	英語リーディング&ライティング (上級) a	1~4	1	
	英語リスニング&スピーキング (中級) b	1~4	1	英語リーディング&ライティング (上級) b	1~4	1	
	英語リスニング&スピーキング (上級) a	1~4	1	英会話選択a	1~4	1	
	英語リスニング&スピーキング (上級) b	1~4	1	英会話選択b	1~4	1	
	英語リーディング&ライティング (初級) a	1~4	1	英文多読a	1~4	1	
	英語リーディング&ライティング (初級) b	1~4	1	英文多読b	1~4	1	
一般共通科目	キャリアデザイン科目	業界企業分析	2~4	2	時事英語 I	1~4	2
		職業選択	2~4	2	時事英語 II	1~4	2
		キャリア・プランニング・プログラム I	3~4	2	時事問題研究	2~4	2
		キャリア・プランニング・プログラム II	3~4	2			
	国際交流科目 【留学対策科目】	Academic Skills I A	1~4	1	Academic Skills IV A	1~4	1
		Academic Skills I B	1~4	1	Academic Skills IV B	1~4	1
		Academic Skills II A	1~4	1	Academic Skills V A	2~4	1
		Academic Skills II B	1~4	1	Academic Skills V B	2~4	1
		Academic Skills III A	1~4	1			
		Academic Skills III B	1~4	1			
	国際交流科目 【英語等による地域研究科目】	European Studies A	1~4	2	Oceanian Studies A	1~4	2
		European Studies B	1~4	2	Oceanian Studies B	1~4	2
		North American Studies A	1~4	2	Asian Studies A	1~4	2
		North American Studies B	1~4	2	Asian Studies B	1~4	2
	国際交流科目 【留学準備演習】	留学準備演習	1~4	2			

本年度休講科目は「社会イノベーション学部 2023年度休講科目一覧」を参照すること。

《履修上の注意》

① 《英語到達目標》

- ・「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」
 初級：TOEIC 600-700点、英検2級程度
 中級：TOEIC 700-800点、英検準1級程度
 上級：TOEIC 800-990点、英検1級程度
- ・「英会話選択」— 受講者のレベルや要請に応じて、中級~上級のレベルを目指す。
- ・「英文多読」— 受講者のレベルや要請に応じて、中級~上級のレベルを目指す。

② 外国語科目、キャリアデザイン科目のうち「スタート・プログラム I~III」及び「時事英語 I・II」、国際交流科目は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【[授業に関すること](#)】IV 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

③ 2019年度をもって、「Academic Communication a・b」は廃講となった。

④ 2022年度をもって、「Academic Skills VIA・B」は廃講となった。

全学共通教育科目

I	全学共通教育の理念	80
II	全学共通教育科目における 各種プログラム認定・修了要件	84

I

全学共通教育の理念

成城大学は、個性を尊重し、創造力に富む感性豊かな学生を育成するという建学の理念を掲げてきた。これらの理念に今日的な意味を与え、良質な教育を供給し、学生諸君の自主的活動の促進をはかるために、学部毎の専門科目と併行して、教養教育を中心とした全学共通教育カリキュラムを導入している。全学共通教育の具体的な教育目標は以下のとおりである。

- (1) 多様化する社会、文化を理解できる素養を育てる
- (2) 批判的かつ創造的な思考力・判断力を培う
- (3) 主体的に学び、積極的にコミュニケーションをとる能力を養う

上記の理念に基づき、以下[A]～[F]の科目群を開設している。各学部カリキュラムの位置づけは、以下の通り。

学 部	分 野
経済	自由設計科目
文芸	共通科目
法	基礎部門
社会イノベーション	総合教養科目、学部共通科目または一般共通科目

A

リテラシー科目群

リテラシー科目群は、全学共通教育の理念に基づき、大学における学習および社会生活において必要なコミュニケーションをとる能力を身につけるための科目群である。具体的には、大学における様々な学習の基礎となる知識の理解力、創造的な思考力、的確な判断力を培うための科目、国際化する社会の中で、国際的なレベルでのコミュニケーションに対応する能力を養うための科目、高度情報社会の中で、情報を的確に処理し、主体的に情報を創造し発信する能力を身につけるための科目などによって構成されている。なお、リテラシー科目群は、以下のとおり3つの分野に分かれる。

1 WRD

高等学校までの勉強は一定のプログラムに従って提供される知識の受容を中心とするが、大学の勉強は自分で問題の所在を明らかにし、自発的に思考をめぐらし、しかもその結果を自らの言葉として表現することを基本とする。こうした大学での学びの姿勢を修得するのが、「WRD」である。

「WRD」(ワードと読む)とは、「Write書く、Read読む、Debate議論する」の頭文字である。これらの行為は、どの学問においても土台となるものである。最近、高等学校までの学習において、これらの基礎訓練を積んでいないことが多い。「WRD」は、以上のような実践的訓練をする場でもある。

WRD科目の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

2 外国語科目

外国語科目は、学生の国際的コミュニケーション能力を高めるために、各学部設置の外国語科目に加えて設置されるものである。

大学入学以前に既習の英語については、聴く・話す・読む・書くの技能向上を目指すクラス、卒業後に必要となるビジネス英語を集中的に学ぶクラス、多読による読解力養成を目的とするクラスがある。

その他の外国語は、初歩文法を学ぶクラスから、高度なコミュニケーション能力を養成するクラスまで段階を追ったクラス編成となっている。ディプロム・コースは各外国語の資格認定試験突破を目標に授業が展開される。

外国語科目の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

3 IT科目

IT科目は、主としてパソコンを用いて、様々なデータを処理する手法とその応用を学ぶ科目である。基礎的なパソコンの操作方法はもちろん、全学共通教育の理念に基づいて、パソコンを用いてコミュニケーション能力(情報受信発信能力)やプレゼンテーション能力(表現能力)を身につけることを目的とする。

具体的には、ワープロソフトを用いた文書作成方法や、表計算ソフトを用いたデータ処理、インターネットを活用した情報収集と整理など、パソコンの基本的な活用の手法を学ぶ科目、その応用科目として、パソコンを用いて統計学的なデータ処理を行う手法を学ぶ科目、パソコンを用いて画像や映像を加工・編集したり、ウェブページを制作することを通じて、情報

の整理や表現の手法を学ぶ科目が設置されている。
 また、「図書館活用法」では、近年の情報を巡る環境や情報媒体の変化に対応した図書館利用リテラシー能力の修得を目指す。
 IT科目の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

B 教養科目群

教養科目群は、「現代社会において生活を営む市民として必要な教養を身につける」ことを目標に設置される。近年、学問は専門という名のもとに細分化しており、これらを統括的に捉える眼を養うために、現代社会の多様なあり方を積極的に学び、思考訓練をすることはきわめて重要である。現代における「教養」を志向するのが成城大学の教養科目群である。

1 総合科目

総合科目は、特定の主題に関する諸現象を、学際的・総合的に分析・把握する能力を養うとともに、教養科目・専門科目を問わず、学習の動機づけを行う講義である。コーディネーターである教員が、学生の自発的な学習を支援するよう、講義の方向づけを行う。
 総合科目の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

2 成城学

成城学は、成城学園に関するもの、成城という地域の歴史や地理に関するもの、成城の民俗誌に関するもの、成城の自然（史・誌）に関する内容で構成される。成城学には、講義形式を中心とするものと、学生参加型の授業形式のもの（成城フィールド・スタディー）とがある。
 成城学の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

3 系列科目

系列科目は、8つの学問分野による分類の下に、各分野を概観し基礎知識を提供する「基幹科目」と各分野の最新の話題や特殊事項の研究を志向する「展開科目」から構成されており、各科目間は重層構造を持っている。学問分野という視点、時間（歴史）と空間（地域）という視点や、関心のある主題という視点など、受講生の様々な関心や興味に合わせた組み合わせで受講することによって、幅広い教養の獲得だけにとどまらず、所属学部専門的研究を補う広い視野を確保できるよう工夫がなされている。また、教養科目群のコンセプトである現代における「教養」を志向すべく、現代に特化した内容を中心とした科目が配置されている。
 系列科目の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

《系列の概要》

系列名	概要
現代社会論系列	複雑化する現代社会の事象に目を向け、それらの諸相を解析する能力を身につける新しい学問領域の科目で構成される。
社会構造論系列	政治や経済など、社会の構成と機能を理解する上で、必要な学問の枠組みを学ぶ科目で構成される。
思想・人間論系列	人間のあり方・世界のあり方について、先人がどのような問いをたて、どのような解を得てきたか、彼らの思考の筋道を辿り、現代人の新たな考察への手がかりを得られる科目で構成される。
表現文化論系列	人間生活の根幹をなす多種多様な表現の基底にある歴史的背景・生活環境を視野に入れ、さらに現代における複雑化した表現の諸相を考察する科目で構成される。
歴史文化論系列	過去と対話することによって、現代に至る人間の営みを照射し、受講生が歴史を自ずから再構成する方法を身につけることができる科目で構成される。
地域空間論系列	国際化する社会を理解するための方法や、地理的空間を科学的に考えるための知識と、世界各地域の社会や文化の諸相について学ぶ科目によって構成される。
数理・自然科学系列	科学技術文明を生きる者として数理の感覚を身につける科目、自然や社会、芸術に隠された数学的秩序を探る科目、さらに、現代科学技術文明を形成する科学の方法・発展過程をあとづけ、その功罪を考察する科目と、身近な現象・自然環境を科学的視点からとらえる科目で構成される。
心身論系列	人間の身体機能や精神構造、さらに人間相互のかかわりを理解するための知識と、心身の健康を維持するための知識を学ぶ科目で構成される。

C キャリアデザイン科目群

キャリアデザイン科目群は、大学卒業後、ひいては将来の人生設計に欠かせない職業観に関する知識を学習する科目群である。働くことの意義や、適職を見つけるための方法などを学びながら、自分のキャリア（＝人生）を発見し構築していくことを主たる目的とする科目群である。キャリアデザイン科目群の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

成城大学就業力育成・認定プログラムの認定要件については、p.84 第1表に示されている。

D 国際交流科目群

国際交流科目群は、グローバル化の進む社会への対応力を身につけるための科目群である。「留学対策科目」では、留学時に必要とされるレベルの英語の基礎技能（IELTS等試験対策を含む）を、「英語等による地域研究科目」では、世界の地域事情について、「英語等による日本事情関係科目」では、日本の政治・経済・社会・文化等について、「英語等による特定のテーマを扱った科目」では、グローバルな話題性のあるテーマについて、それぞれ英語で留学生と共に学ぶことができる。特に、就学中に留学・海外就業体験を希望する者は、*「成城国際教育プログラム（SIEP）」に参加し準備することが推奨される。

*詳細・登録方法等については、年度初めに実施される説明会に参加するほか、国際センターに直接問い合わせること。国際交流科目群の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

成城国際教育プログラム（SIEP）の修了要件については、p.84 第2表に示されている。

E データサイエンス科目群

商品開発、マーケティング、サービス産業における集客力の向上などのビジネスのみならず、医療、災害への危機管理など様々な領域で、発生・収集したデータを理解し、それを有効に活用できる人材が求められている。データサイエンス科目群は、ビッグデータなどの多種多様な情報を効果的に活用するための知識と技能を学習する科目群である。学習する内容は、文理融合的で実践的・実務的なものとなっており、履修者は、この科目群を系統的に学ぶことで、さらに視野を広げ、卒業後どのような分野に進んでも活かせるデータ分析力を身につけることができる。

データサイエンス科目群の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

データサイエンス基礎力育成・認定プログラムのディプロマ取得要件については、p.85 第3表に示されている。

F スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目は全学共通教育科目として位置づけ、以下の教育目標の下に設置されるものである。

- (1) 「ウエルネス」とは、身体的健康、精神的健康、そして他者や自然との良好な関係を築くという意味での社会的健康からなる新しい健康概念である。この科目では「ウエルネス」へのアプローチとして、身体的、精神的健康状態を維持・増進するために必要な科学的知識の理解を深めるとともに、様々なスポーツや運動などの身体活動、身体表現を通して自己や他者や自然と向き合い、また共に生きていくための能力を養う。
- (2) グローバルな文化現象であるスポーツの成り立ち、歴史、現代的意味や社会的価値について様々な理論的知識を学ぶ。また、実際にスポーツ・運動を実践しながら、他者や自然との良好なコミュニケーションに必要な知識、スキルを獲得する。
- (3) 運動やスポーツを主体的に楽しみ、生涯にわたって豊かな「スポーツライフ」と「ウエルネスライフ」をマネジメントするための基盤を形成する。

1 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目

スポーツ・ウエルネス講義・演習科目とは、講義、スポーツや身体運動、身体表現の実践、健康状態を知るための測定などを融合した演習形式での授業である。「スポーツ・スタディーズ」では、スポーツ文化やスポーツ社会に関する多様な学問的知識を獲得していく。「ウエルネス・スタディーズ」では、基礎的な健康科学の諸理論を学ぶ。「身体表現・スタディーズ」では、スポーツや武道、ダンスを身体を媒体とした表現行為として学ぶ。
スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

2 スポーツ・ウエルネス実技科目

スポーツ・ウエルネス実技科目とは、実際にスポーツや運動の実践をとおして、身体的・精神的な健康の維持・増進を図る授業である。スポーツや運動の基礎的なスキル、方法、ルール、マナーを学びながら、スポーツの楽しさにふれ、人間の営為にとって欠かすことのできないアナログな身体コミュニケーションの重要性を理解し、年次、学部、年齢、ジェンダー、国籍を超えたクラス編成の中で、他者との友好的な関係を作るための本質的なスキルを獲得し、共生社会の一員となるための基礎的な姿勢を身につけることができる。また、生涯にわたって豊かなスポーツ文化を享受するための知識、スキル、方法を獲得することができる。
スポーツ・ウエルネス実技科目の開設科目は、p.83に掲載箇所が示されている。

各科目群開設科目の掲載箇所一覧

			政策イノベーション学科	心理社会学科
A)リテラシー 科目群	1 WRD		P.46 第15表	P.70 第15表
	2 外国語 科目		P.43 第12表	P.67 第12表
		卒業要件外		P.54
	3 IT科目		P.46 第14表	P.70 第14表
B)教養科目群	1 総合科目		P.39 第11表	P.63 第11表
	2 成城学		P.39 第11表	P.63 第11表
	3 系列科目		P.39 第11表	P.63 第11表
C)キャリアデザイン科目群			P.46 第16表	P.70 第16表
	卒業要件外		P.54	P.78
D)国際交流科目群		【総合教養科目】	P.41 第11表	P.65 第11表
		【学部共通科目】	P.43 第12表	P.67 第12表
		卒業要件外	P.54	P.78
E)データサイエンス科目群			P.41 第11表	P.65 第11表
F)スポーツ・ウエルネス教育科目			P.45 第13表	P.69 第13表

II

全学共通教育科目における 各種プログラム認定・修了要件

全学共通教育科目のうち、キャリアデザイン科目群、国際交流科目群、データサイエンス科目群では、各科目群の理念（p.82）に基づいて系統的な学びを促すとともに、独自の認定・修了要件を設けたプログラムを用意している。プログラム登録等の詳細については、各センターにて4月に開催するガイダンスに出席するか、直接問い合わせること。また、以下の科目の中には**卒業要件に含まれない科目もある**ため、主体的に中長期的な履修計画を立て、修得を進めていくことが肝要である。

第1表 成城大学就業力育成・認定プログラム

就業力 ディプロマ 取得要件	EMS 取得要件	授 業 科 目	配当年次	単 位
4単位以上	4単位以上	キャリア形成Ⅰ	1～4	2
		キャリア形成Ⅱ	1～4	2
		キャリア形成Ⅲ	1～4	2
		キャリア形成Ⅳ	1～4	2
2単位以上	2単位以上	プロジェクト演習	1・2	2
		成城インターンシップ	経文法1～4	2
6単位	6単位	業界企業分析	2～4	2
		職業選択	2～4	2
		キャリア・プランニング・プログラムⅠ	3・4	2
	2単位	キャリア・プランニング・プログラムⅡ	3・4	2
2単位以上	2単位以上	時事英語Ⅰ	1～4	2
		時事英語Ⅱ	1～4	2
		時事問題研究	2～4	2

第2表 成城国際教育プログラム（SIEP）

修了要件	科 目 区 分 ・ 授 業 科 目	配当年次	単位	
コア科目 (必須)	留学準備演習	1～4	2	
選択科目 (8単位以上)	留学対策科目〔Academic Skills〕	1～4/2～4	1	
	英語等による地域研究科目：Area Studies (European Studies, North American Studies, Oceanian Studies, Asian Studies)	1～4	2	
	英語等による日本事情関係科目〔Japan Studies〕	1～4	2	
	英語等による特定のテーマを扱った科目〔Special Topics〕	1～4	2	
	海外短期語学研修（春季/夏季）		(春季)* ^(注1)	2
			(夏季)1～4	
	2021年度以降入学者	海外短期語学研修（英語・夏季） ※マレーシア	1～4	1
		成城インターンシップ ※海外実施プログラムのみ対象	経文法1～4 ^(注2)	2
2020年度以前入学者	海外短期語学研修（英語・就業体験準備）	1～4	1	
	海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）	1～4	2	
	成城インターンシップ（成城グローバルインターンシップ・プログラム）	経文法1～4 ^(注2)	2	

注1) 配当年次*印の科目は、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位が授与される。

注2) 社会イノベーション学部所属する学生は、同プログラムへの参加により、「OCA（配当：社2～4）」を修得すること。

第3表 データサイエンス基礎力育成・認定プログラム【2022年度以降入学者用】

	リテラシーレベル・ ディプロマ 取得要件	応用基礎 ディプロマ 取得要件	アドバンスド・ ディプロマ 取得要件	授 業 科 目	配当年次	単 位
リテラシー 科目	○	○	○	データサイエンス概論	1～4	2
	○	○	○	データサイエンス基礎	1～4	2
応用基礎 科目		○	○	データアナリティクス基礎	2～4	2
		○	○	機械学習基礎	2～4	2
アドバンスド 科目			この中から 2科目4単位 選択必修 (注1)	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2
				データサイエンス・ワークフロー・プログラム	2～4	2
				データサイエンス特殊講義Ⅰ	2～4	2
				データサイエンス特殊講義Ⅱ	2～4	2
				データサイエンス特殊講義Ⅲ	2～4	2
				データサイエンス特殊講義Ⅳ	2～4	2

注1) アドバンスド・ディプロマの取得希望者は「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」、「データサイエンス・ワークフロー・プログラム」から1科目以上を修得することが望ましい。

注2) 2021年度から、上記指定科目以外の一部の科目についてディプロマ取得要件に算入する制度が導入された。詳細は、データサイエンス教育研究センターに確認すること。

第3表 データサイエンス基礎力育成・認定プログラム【2021年度以前入学者用】

	DS基礎力 ディプロマ 取得要件	EMS ディプロマ 取得要件	授 業 科 目	配当年次	単 位
基礎科目	○	○	データサイエンス概論	1～4	2
	○	○	データサイエンス基礎 (旧：データサイエンス入門Ⅰ)	1～4	2
	○	○	データアナリティクス基礎 (旧：データサイエンス入門Ⅱ)	2～4	2
		○	データアナリティクス応用 (旧：データサイエンス応用)	2～4	2
発展科目	○	○	機械学習基礎 (旧：データサイエンス・スキルアップ・プログラム)	2～4	2
		○	データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2

注) 2021年度から、上記指定科目以外の一部の科目についてディプロマ取得要件に算入する制度が導入された。詳細は、データサイエンス教育研究センターに確認すること。

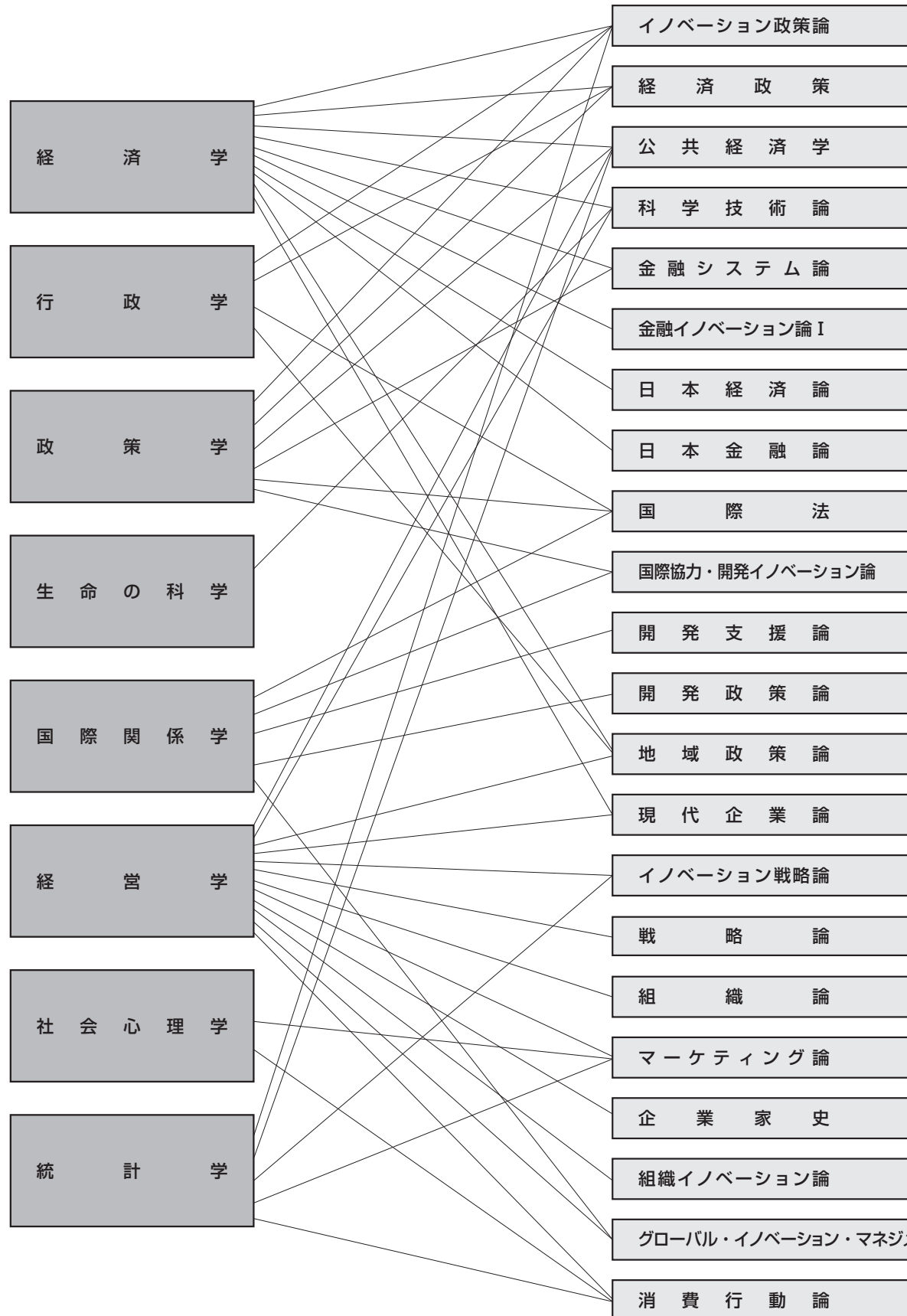
履修系統図

社会イノベーション学部 (政策イノベーション学科及び心理社会学科)	88
--	----

社会イノベーション学部（政策イノベーション学科及び心理社会学）

基礎科目（選択）並びに専門科目（選択科目）（政策系科目及び戦略系科目）

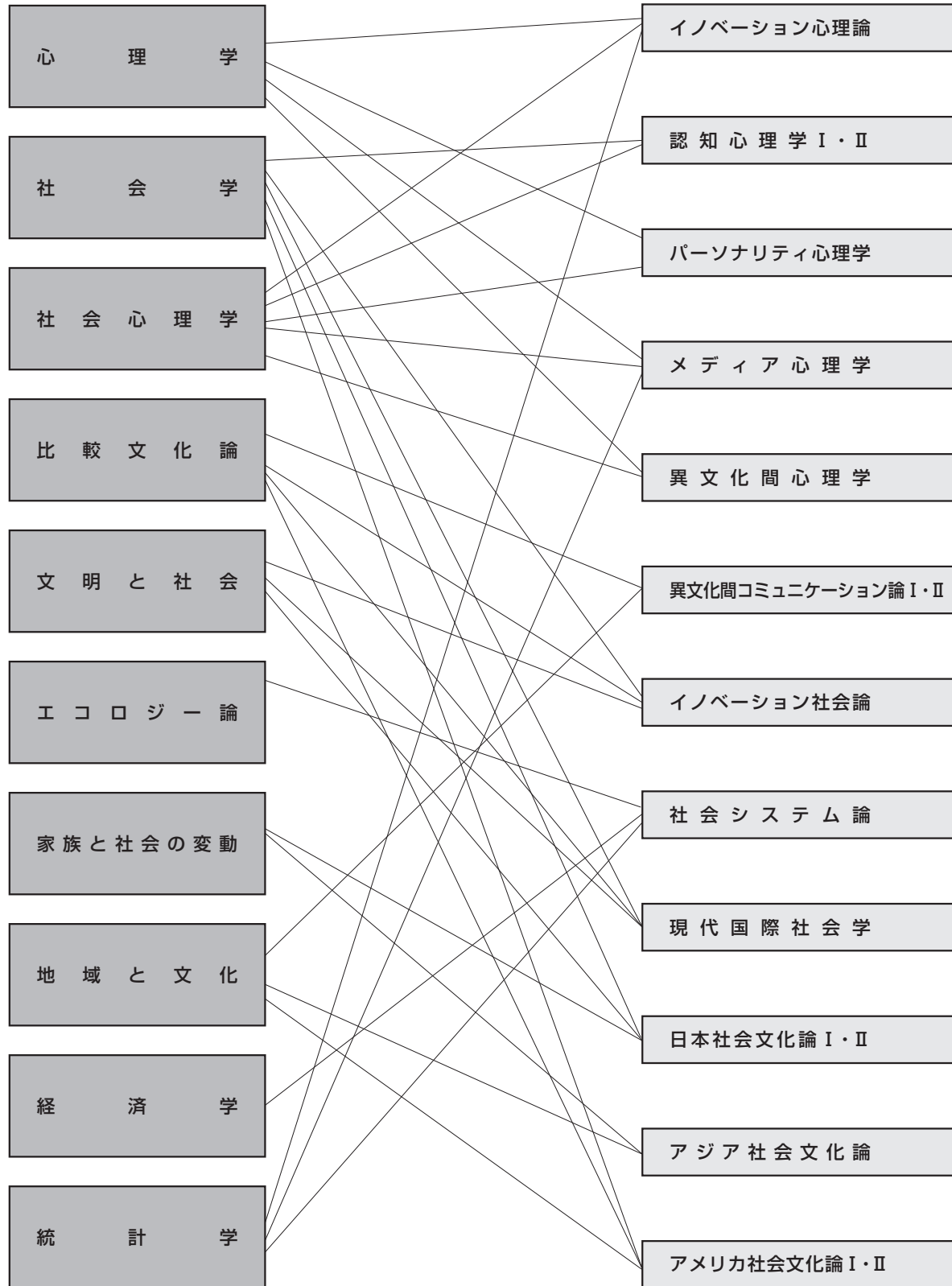
履修系統図



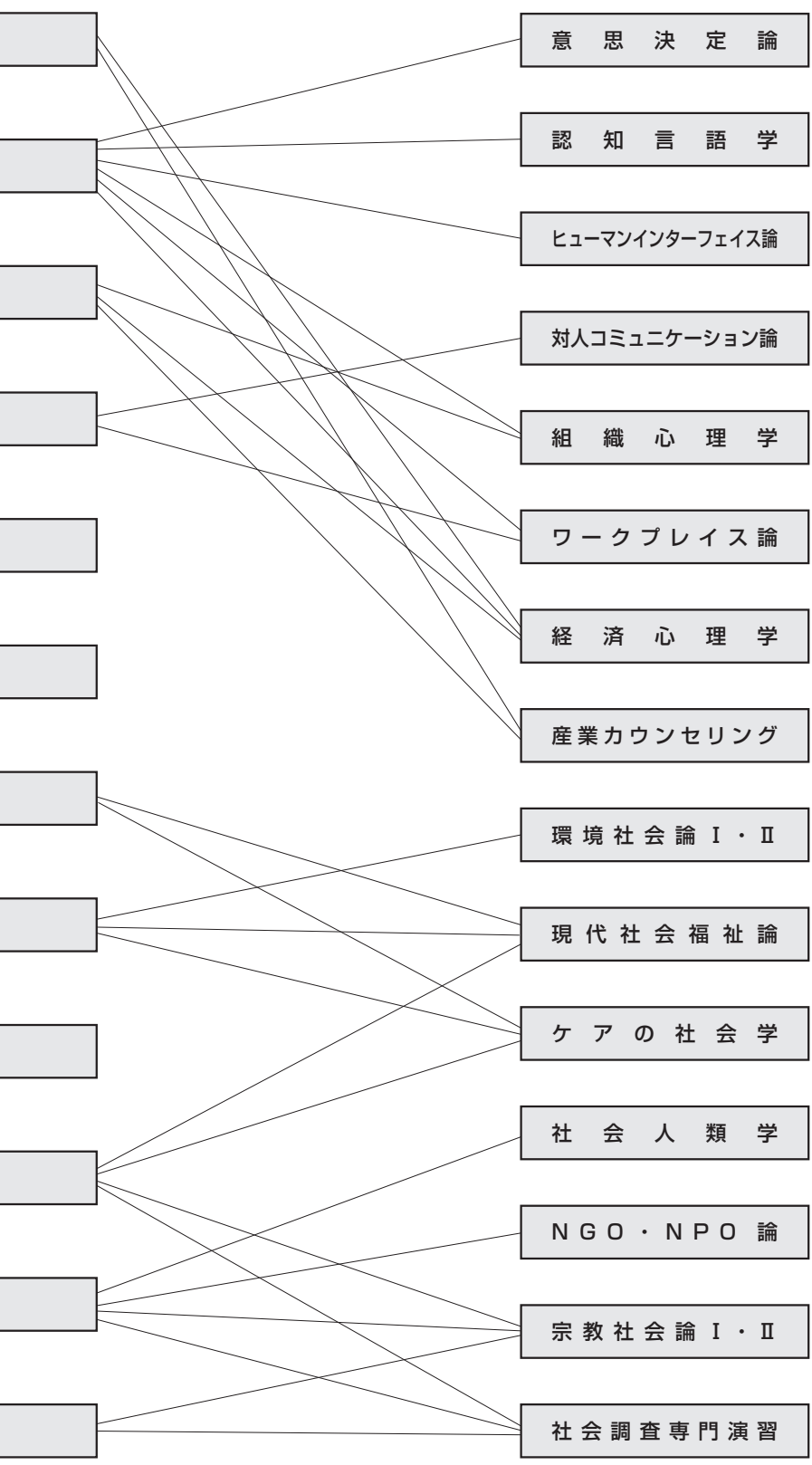
社会イノベーション学部（政策イノベーション学科及び心理社会

基礎科目（選択）並びに専門科目（選択科目）（心理系科目及び社会系科目）

履修系統図



（学科）履修系統図



履修系統図

履修モデル

政策コース	94
戦略コース	95
心理コース	96
社会コース	97

履修モデル 政策コース 政策イノベーション学科に所属するAさんの場合

将来は経済系の官庁に勤め、知識立国という新しい視点から新産業の育成に携わりたいと考えている。

〈政策レベルにおけるイノベーション・システムについて学ぶ〉

日本が継続的に発展するためには、イノベーションをいかに生み出していくかが重要となる。そして、その鍵を握っているのが、政策レベルでのイノベーション・システムの確立である。政策コースでは、国のイノベーション政策の方向性、科学技術の動向、イノベーション遂行のための資金問題、国際的な技術移転などに関する知識を深めるとともに、企業レベルでのイノベーションの遂行、社会レベルでのイノベーションの普及についてもしっかり学ぶ。

	基礎科目	専門科目	
1年	必修科目 イノベーション概論 [a] イノベーション概論 [b] 情報リテラシー データ分析入門 選択 A 経済学 国際関係学 政策学 選択 C 生命の科学	しっかりと基礎を培う 「イノベーション概論 [a][b]」などの必修科目に加え、「経済学」、「国際関係学」、「政策学」などの基礎を学ぶ。	外国語科目 必修英語 English I : Skills for Learning [a]・[b] English I : Social Interaction [a]・[b] English I : Academic Interaction [a]・[b] English I : Reading and Writing [a]・[b] 一般共通科目 コンピュータ・リテラシー A 1・A 2 テニス 総合教養科目 教養演習
	選択 A 行政学 社会学 選択 B 社会調査法	2年次からコースを選択 政策 イノベーション政策論 科学技術論 金融システム論 経済政策 戦略 イノベーション戦略論 社会 イノベーション社会学 現代国際社会学 ゼミナール 基礎ゼミナール (政策) 基礎ゼミナール (戦略)	外国語科目 必修英語 English II : Public Speaking English II : Presentation and Discussion English II : Academic Reading and Writing [a]・[b] English II : Business Reading and Writing [a]・[b] 学部共通科目 English for International Communication 仏語選択 (初級) a・b 総合教養科目 生命科学の世界 a・b
2年	政策イノベーションを中心に、より深い認識を 専門科目はイノベーション政策やそれを支える金融システムに関する授業科目を中心に履修。また、企業のイノベーションやイノベーションと個人・社会の関わり、さらには社会の変容などについても認識を深める。	政策 イノベーション経済論 金融イノベーション論 I・II 戦略 現代企業論 心理 イノベーション心理論 社会 環境社会論 I・II ゼミナール ゼミナール I	総合教養科目 言語コミュニケーション演習 学部共通科目 English for Academic Settings 仏語選択 (中級) a・b
		政策 知的財産法 戦略 ベンチャービジネス論 心理 メディア心理学 ゼミナール ゼミナール II 卒業研究 卒業研究	総合教養科目 地域空間論 IV a・b 卒業研究例 「イノベーション・システムと産業創造」
3年			
4年			

関連分野の教養の幅を広げる

履修モデル

めざす将来

政策、企業戦略、社会へとイノベーションの循環を達成し、それを基盤に新しい産業の創造を企画・立案できる能力を備えた人材。

さらに広がるキャリアプラン
 国家公務員、地方公務員、シンクタンク、NGO・NPO職員など

履修モデル 戦略コース 政策イノベーション学科に所属するBさんの場合

競争企業から一歩先行く新製品の開発プロジェクトリーダーを目指す。

〈企業を進化させる戦略的イノベーションにアプローチ〉

現代企業が成長し、事業を拡大していくためには、つねに競争企業から一歩先を行く新製品の開発が必要となる。もちろん、そうした新製品は技術的なものばかりではなく、マーケットニーズに対応した商品やサービスも含まれる。戦略コースでは、企業の持つ技術やブランドといった経営資源と顧客ニーズについて正しく把握し、企業を進化させるために必要な戦略的イノベーションの基本的な考え方から実践的な方法論までを学ぶ。

	基礎科目	専門科目	
1年	必修科目 イノベーション概論 [a] イノベーション概論 [b] 情報リテラシー データ分析入門 選択 A 経済学 経営学 社会心理学 選択 C 地域と文化	市場調査法で顧客ニーズを学ぶ 選択科目で基礎的な考え方を養うとともに、顧客ニーズの分析手法として「市場調査法」を履修。 2年次からコースを選択	外国語科目 必修英語 English I : Skills for Learning [a]・[b] English I : Social Interaction [a]・[b] English I : Academic Interaction [a]・[b] English I : Reading and Writing [a]・[b] 総合教養科目 自然科学Ⅰ a・b 心身論 一般共通科目 エアロビクス
2年	選択 B 市場調査法 イノベーション戦略関連科目を重点的に学習 専門科目では企業の戦略関連科目を中心に学習し、理論から実践的手法までを学ぶ。また、国の政策や社会への普及も理解するとともに、プロジェクト運営という視点から「組織心理学」も履修する。	戦略 イノベーション戦略論 戦略論、マーケティング論 現代企業論 心理 イノベーション心理学 社会 社会システム論、現代国際社会学 ゼミナール 基礎ゼミナール (戦略) 基礎ゼミナール (政策)	外国語科目 必修英語 English II : Public Speaking English II : Presentation and Discussion English II : Academic Reading and Writing [a]・[b] English II : Business Reading and Writing [a]・[b] 学部共通科目 English for International Communication 総合教養科目 社会構造論Ⅵ a・b 表象文化論入門 a・b
3年		政策 イノベーション政策論 戦略 企業評価論 企業家史、新商品開発論 研究開発管理論、消費行動論 トップマネジメント論 社会 異文化間コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ ゼミナール ゼミナールⅠ	総合教養科目 言語コミュニケーション演習 学部共通科目 English for Academic Settings English for Practical Proficiency 一般共通科目 水泳 トレーニング
4年		政策 知的財産法 戦略 ベンチャービジネス論 心理 組織心理学、異文化間心理学 ゼミナール ゼミナールⅡ 卒業研究 卒業研究	学部共通科目 ビジネス英語 a・b 卒業研究例 「企業成長における革新的イノベーションと漸新的イノベーションの役割」

関連分野の教養の幅を広げる

履修モデル

めざす将来

企業のシーズと市場のニーズ両面について詳しい知識を持ち、それらを踏まえてイノベティブな新製品の開発をリードし、新製品が社会に与える影響なども考慮できる人材。

さらに広がるキャリアプラン 企業の経営企画担当者、製品開発のプロジェクトリーダー、ベンチャービジネス経営者、事業コンサルタント、ベンチャーキャピタリストなど

履修モデル 心理コース 心理社会学科に所属するCさんの場合

イノベーションの普及過程を正しく理解した、情報戦略に詳しい**広告・広報担当者**を目指す。

〈個人とイノベーションの関係を体系的に学ぶ〉

心理コースでは、イノベーションの認知や個人における創造性の開発など、イノベーションと人間の心理や行動との関わりを取り扱う。個人のパーソナリティがイノベーションの生成や受容に与える影響、ブランドの与える波及効果・心理的効果、さらにはイノベーションを生み出す組織内での課題解決コミュニケーションや人間関係。イノベーションと個人に関わるこうした諸テーマを体系的・発展的に考察できる能力を育む。

	基礎科目	専門科目	
1年	必修科目 イノベーション概論 [a] イノベーション概論 [b] 情報リテラシー データ分析入門 選択 A 心理学 社会心理学 経済学 選択 C 家族と社会の変動	心理・社会の基礎を学ぶ 「イノベーション概論[a][b]」などの必修科目に加え、「心理学」「社会心理学」の基礎を学ぶ。	外国語科目 必修英語 English I : Skills for Learning [a]・[b] English I : Social Interaction [a]・[b] English I : Academic Interaction [a]・[b] English I : Reading and Writing [a]・[b] 総合教養科目 自然科学 Ia・Ib 心身論 一般共通科目 コンピュータ・リテラシーA1、A2
	選択 B 市場調査法 心理実験法 マーケットへのアプローチ方法を習得 市場性の有無や広告効果の測定などのノウハウを身につけるため、「市場調査法」「心理実験法」を履修する。	2年次からコースを選択 心理 イノベーション心理学 認知心理学 I・II メディア心理学 パーソナリティ心理学 異文化間心理学 社会 イノベーション社会論 ゼミナール 基礎ゼミナール (心理) 基礎ゼミナール (社会)	外国語科目 必修英語 English II : Public Speaking English II : Presentation and Discussion English II : Academic Reading and Writing [a]・[b] English II : Business Reading and Writing [a]・[b] 総合教養科目 表象文化論入門 a・b 教養演習
2年	新製品の普及過程と広告など情報戦略を履修する。 イノベーションの普及プロセス、メディア環境の変化とユーザーへの影響、新しい製品の受容、製品購入にいたるまでの過程などに関連した科目を履修。さらに、「知的財産法」などの授業科目で広告・広報の仕事に求められる知識を養う。	政策 イノベーション政策論 戦略 マーケティング論 新商品開発論 消費行動論 心理 ヒューマンインターフェイス論 意思決定論、組織心理学 社会 現代社会福祉論 異文化間コミュニケーション論 I・II ゼミナール ゼミナール I	総合教養科目 言語コミュニケーション演習 学部共通科目 中国語選択 (初級) Ia・Ib、(初級) IIa・IIb English for Practical Proficiency 一般共通科目 ゴルフ エアロビクス&コンディショニング
		心理 ワークプレイス論 政策 知的財産法 ゼミナール ゼミナール II 卒業研究 卒業研究	学部共通科目 中国語選択 (中級) a・b 卒業研究例 「新製品の普及と広告メディアに関する一考察」
3年			
4年			

めざす将来

新製品受容の心理過程、メディアの影響、消費者の意思決定などの知識に根ざした、**広告・広報活動を行う能力を持った人材**。

さらに広がるキャリアプラン

広告・広報関連業務担当者、企業における人事管理（人的資源管理）担当者、企業内教育および総務担当者など

履修モデル 社会コース 心理社会学科に所属するDさんの場合

アジアに興味があり、将来はシンクタンクでアジアにおける経済計画や開発についての仕事に就きたい。

〈社会・文化とイノベーションの関係を幅広い視野から探求する〉

社会コースでは、人間関係・福祉・環境・宗教・文化・グローバリゼーションなど様々な局面での社会的課題について、その背景への理解を深めながら、今必要とされている社会に関わるイノベーションとは何かについて考察する。こうした問題を実証的に学ぶことによって、より広い、よりグローバルな視野からイノベーションと社会の関係を探求する。

	基礎科目	専門科目		
1年	<p>必修科目</p> <p>イノベーション概論 [a] イノベーション概論 [b] 情報リテラシー データ分析入門</p> <p>選択 A</p> <p>社会学 社会心理学 国際関係学</p> <p>選択 C</p> <p>文明と社会</p>		<p>2年次から コースを選択</p>	
2年	<p>選択 B</p> <p>社会調査法</p> <p>イノベーションとグローバル社会を総合的に学ぶ</p> <p>グローバル化の問題と多様な社会の理解をめざし、多様な社会系科目を選択。また、実際にどのような経済計画や開発を行うかを学ぶための科目、さらに国際化や開発に伴う問題点やバランスのとれた社会の在り方を考えるための授業科目も履修する。</p>	<p>社会</p> <p>イノベーション社会論 社会システム論 日本社会文化論 I・II アジア社会文化論 現代国際社会学</p> <p>政策</p> <p>イノベーション政策論</p> <p>ゼミナール</p> <p>基礎ゼミナール (社会) 基礎ゼミナール (心理)</p>	<p>外国語科目</p> <p>必修英語</p> <p>English I : Skills for Learning [a]・[b] English I : Social Interaction [a]・[b] English I : Academic Interaction [a]・[b] English I : Reading and Writing [a]・[b]</p> <p>総合教養科目</p> <p>教養演習</p>	<p>教養科目で幅広い知識を吸収</p>
3年		<p>政策</p> <p>イノベーション経済論、開発政策論</p> <p>戦略</p> <p>イノベーション戦略論</p> <p>心理</p> <p>認知心理学 I・II メディア心理学</p> <p>社会</p> <p>異文化間コミュニケーション論 I・II 環境社会論 I・II、宗教社会論 I・II</p> <p>ゼミナール</p> <p>ゼミナール I</p>	<p>外国語科目</p> <p>必修英語</p> <p>English II : Public Speaking English II : Presentation and Discussion English II : Academic Reading and Writing [a]・[b] English II : Business Reading and Writing [a]・[b]</p> <p>学部共通科目</p> <p>English for International Communication 中国語選択 (初級) Ia・Ib、(初級) IIa・IIb</p> <p>一般共通科目</p> <p>コンピュータ・リテラシー A1・A2</p>	<p>生きた英語能力を培う</p> <p>海外での活動を考え、外国語科目に加えて「English for International Communication」「English for Academic Settings」を履修する。</p>
4年		<p>戦略</p> <p>組織論</p> <p>社会</p> <p>現代社会福祉論 NGO・NPO 論</p> <p>ゼミナール</p> <p>ゼミナール II</p> <p>卒業研究</p> <p>卒業研究</p>	<p>総合教養科目</p> <p>言語コミュニケーション演習</p> <p>学部共通科目</p> <p>English for Academic Settings 中国語選択 (中級) a・b</p> <p>総合教養科目</p> <p>社会構造論 IV a・b</p> <p>一般共通科目</p> <p>サッカー&フットサル テニス</p>	<p>卒業研究例</p> <p>「アジアの社会と開発に関する一試論」</p>

めざす将来

人間に対する基本的な知識をもち、グローバル化の問題と多様な社会のあり方を理解し、経済計画や開発についての実務能力を持った人材。

さらに広がるキャリアプラン
国連等国際機関での活動従事者、ジャーナリスト、NGO・NPO職員など

履修モデル

社会調査士資格

1 社会調査士資格とは

社会調査に関する基礎的な知識・技能、相応の応用力と倫理観を身に付けた人に対して与えられる資格である。資格の認定は、日本教育社会学会、日本行動計量学会、日本社会学会の三学会を基盤とする一般社団法人社会調査協会（以下、「社会調査協会」という）が行う。

2 資格取得の条件

社会調査士の資格を取得するためには、社会調査協会が標準カリキュラムとして認定した科目の単位を修得し、学士の学位を取得した上で、社会調査協会に対して資格認定の申請を行う必要がある。

※ 申請手続きの詳細は、社会調査協会のホームページで確認すること。

【標準カリキュラム】

科目区分		備考
A	社会調査の基本的事項に関する科目	必ず修得すること。
B	調査設計と実施方法に関する科目	必ず修得すること。
C	基本的な資料とデータの分析に関する科目	必ず修得すること。
D	社会調査に必要な統計学に関する科目	必ず修得すること。
E	多変量解析の方法に関する科目	どちらか1つで可。
F	質的な調査と分析の方法に関する科目	
G	社会調査を実際に経験し学習する科目	必ず修得すること。

3 本学部での対応科目

本学部での開講科目では、以下の科目が標準科目として対応している。

【認定科目一覧】

標準カリキュラム	本学部開講科目	備考
A 社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査法	社会調査法の単位により、A・B双方を修得することになる。
B 調査設計と実施方法に関する科目		
C 基本的な資料とデータの分析に関する科目	情報リテラシー	
D 社会調査に必要な統計学に関する科目	データ分析入門	
E 多変量解析の方法に関する科目	市場調査法 コンピュータ・リテラシーC	いずれか1科目
G 社会調査を実際に経験し学習する科目	社会調査専門演習	

4 問い合わせ

〔一般社団法人社会調査協会事務局〕

〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-18 メゾン鈴博3F

TEL : 03-6273-9784

FAX : 03-5684-0374

ホームページ : <http://jasr.or.jp/>

〔学部問い合わせ先〕

社会イノベーション学部研究事務室

〒157-8511 世田谷区成城6-1-20

TEL : 03-3482-9764

E-Mail : ninno121@seijo.jp

交換留学・認定留学で修得した単位の認定

1 交換留学・認定留学

本学には、協定を結んでいる大学との間で相互に学生を派遣する交換留学制度、及び、学位授与権のある海外の大学を自由に選択できる認定留学制度がある。

これらの制度を用いて、半年から1年間の留学をした学生が、留学先で修得した単位を本学の単位として認定することを希望する場合、以下の手続きが必要になる。

2 本学における単位認定・成績について

① 留学中に修得した単位を、成城大学での卒業単位として認定するにあたっては、以下のよう
に計算によって授業時間を算出する。留学中に単位を修得した科目の授業時間が1350
分に相当すれば2単位、2025分に相当すれば3単位、2700分に相当すれば4単位と
して認定する。なお、修得した単位が語学・実技科目にあたる場合には、認定される単位
数はこの半分になる。

(例) 2単位科目 90分×15回=1350分

② 留学先大学において修得した単位を本学の外国語科目の単位として認定した場合、外国語
科目の卒業要件単位数を超過して修得した単位は、学部共通科目の卒業要件単位として充
当することができる。

③ 2年次後期の必修科目「English II: Business Reading and Writing [b]」については、
授業の成績に加えて、TOEIC450点以上のスコアが単位認定に必要である。そのため、
以下のいずれかの手順で、TOEICのスコアを用意すること。

- 1) 出発前の6月ないしは7月のTOEICを受験して、450点以上のスコアを取得する。
- 2) 帰国後の6月ないしは7月のTOEICを受験して、450点以上のスコアを取得する。

④ 留学により、2年次の基礎ゼミナールを履修することが出来ない場合は、留学中に修得し
た単位により帰国後に単位認定を行う。

⑤ 3年次以降のゼミナールは、留学中も所属するゼミで継続して履修している扱いとする。
そのため、帰国後に単位認定を行うのではなく、留学中に所属ゼミの担当教員から与えら
れた課題を含めて、年度末に成績を付与する。

⑥ 留学期間が4年次後期に及んだ場合には、留学した年度に卒業することができないので注
意すること。

3 留意事項

① 留学に出発する前の前期と、帰国してからの後期の履修を組み合わせ、通年科目を履修
することができる(ブリッジ履修)。帰国した際に授業時間割が変更されるなどして、ブリッ
ジ履修がうまく成立しないケースも考えられるので、注意すること。

② 帰国後に、留学中に修得した単位を、成城大学での卒業単位として認定する作業を行う。
その際に必要となるので、履修した授業については、必ず教科書やノート、シラバスを保
管しておくこと。

学則・その他

成城大学学則	102
成城大学学位規則	116
成城学園配置図・大学校舎案内	121

成城大学学則

昭和25年2月20日 制定
(文部大臣認可)

第1章 総 則

第1条 本大学は成城学園創業の精神に則り個性の暢達を主眼として広く専門の学芸を研究教授し、広角の視野と高度の教養を具えかつ、豊かな個性を持つ社会の先導者を育成すると共に、文化の発展に貢献することを目的とする。

2 本大学各学部の人材育成上の目的は次のとおりとする。

- (1) 経済学部は、経済社会における諸現象を理論的・実証的に把握し、変貌する現実社会に対する洞察力と判断力を養うとともに、事業経営など種々の環境において必要な識見と実践能力を具えた人材を育成することを目的とする。
- (2) 文芸学部は、人間の文化的営為に関する多角的な研究・考察を通じて、豊かな教養、柔軟な思考力、広い視野を修得させ、かつ、それらを基盤にした知的創造性に富み、それをもって社会に貢献しうる人を育てることを目的とする。
- (3) 法学部は、法的なものの見方・考え方を身につけることをめざし、現代の法律学を体系的に学ぶことによって、深い理解力、確かな判断力、豊かな想像力をもった人材を育成することを目的とする。
- (4) 社会イノベーション学部は、社会に持続した発展をもたらす人間の創造活動であるイノベーションについて学問横断的に理解し、社会に貢献する意欲をもって、自らそれらに関する問題を発見・設定・解決し、その成果を論理的また実践的な言語能力を活用して伝達することができる、社会に有為な人材を育成することを目的とする。

3 本大学各学科の人材育成の目的は別表1のとおりとする。

第2条 本大学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本大学における教育研究活動の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 自己点検・評価の項目、実施に関する組織及び運営等については別に定める。

第3条 本大学は、成城大学と称する。

2 本大学は、東京都世田谷区成城六丁目1番20号に置く。

第2章 学部、学科組織、収容定員及び修業年限

第4条 本大学に次の学部及び学科を置き、その収容定員は次のとおりとする。

(学部)	(学科)	(入学定員)	(収容定員)	
経済学部	経済学科	180名	720名	
	経営学科	180名	720名	
文芸学部	文化史学科	60名	240名	
	国文学科	60名	240名	
	英文学科	75名	300名	
	芸術学科	60名	240名	
	マスコミュニケーション学科	60名	240名	
	ヨーロッパ文化学科	60名	240名	
法 学 部	法律学科	240名	960名	
	社会イノベーション学部	政策イノベーション学科	120名	480名
	心理社会学科	120名	480名	

第5条 本大学の修業年限は、4年とする。ただし、本大学の各学部教授会の議を経て、学長が認めるときは、3年とすることができる。

2 在学年数は、8年を超えることができない。

第6条 本大学に大学院を置く。

2 大学院の学則は、別に定める。

第3章 学長及び教職員

第7条 本大学に学長、学部長、教授、准教授、講師、助教及び事務職員その他を置く。

2 学長、学部長、教員及び事務職員に関する規則は、本学則に定めるもののほか、別に定める。

第7条の2 本大学に副学長を置くことができる。

2 副学長に関する規則は、別に定める。

第8条 本大学に名誉教授を置くことができる。

2 名誉教授に関する規則は、別に定める。

第9条 学長は、校務をつかさどり、所属教職員を統括する。

2 学長は、次の各号に掲げる事項につき、第9条の3に定める評議会の議を経て決するものとする。

- (1) 成城大学学則、成城大学大学院学則及び成城大学学位規則並びにその他重要な規則の制定改廃に関する事項
- (2) 学部及び学科、大学院研究科及び専攻並びに附置研究施設の新設改廃に関する事項
- (3) 教員人事の基準及び専任教員数の配置に関する事項

- (4) 学生定員に関する事項
 - (5) 学生の厚生補導及びその身分に関する重要事項
 - (6) 大学予算に関する事項
 - (7) その他学長が別に定める大学運営に関する重要事項
 - (8) 学園理事長及び学園長の諮問事項
- 3 学長は、次の各号に掲げる事項につき、第9条の4第1項に定める教授会又は大学院の学則に定める研究科教授会の議を経て決するものとする。
- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
 - (2) 学位の授与に関する事項
 - (3) 教員人事（教育研究業績の審査等）に関する事項
 - (4) 教育課程及び担任者に関する事項
 - (5) 授業科目の履修方法、聴講に関する事項
 - (6) その他学長が別に定める当該学部又は研究科の教育研究及びこれに伴う運営に関する重要事項
- 4 学長は、前項に規定するものの他、学長のつかさどる教育研究に関する事項について、教授会に意見を求めることができる。
- 第9条の2** 学部に、学部長を置く。
- 2 学部長は、当該学部に所属する専任教授の中から当該教授会が選出する。
 - 3 学部長の任期は2年とし、1回に限り再任されることができる。
 - 4 学部長は教授会の議長となり、当該学部の運営に当たる。

第4章 評議会

- 第9条の3** 本大学に、重要な事項を審議するために評議会を置く。
- 2 評議会に関する規則は、別に定める。

第4章の2 教授会

- 第9条の4** 各学部に、教育研究に関する事項を審議するために教授会を置く。
- 2 教授会に関する規則は、別に定める。

第5章 学年、学期、休業日及び授業期間

- 第10条** 本大学の学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第11条** 学年は、分けて次の2期とする。
- (1) 前期 4月1日から9月20日まで
 - (2) 後期 9月21日から翌年3月31日まで
- 第12条** 本大学における授業を行わない日（以下「休業日」という。）を次のとおり定める。
- (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
 - (3) 創立記念日 5月5日
 - (4) 春季休業日
 - (5) 夏季休業日
 - (6) 冬季休業日
- 2 前項第4号から第6号までの休業日については、当該学年が始まる前に学長が定める。
 - 3 前2項の規定にかかわらず、学長は、必要に応じて、臨時に休業日を変更し又は設け若しくは取りやめることができる。
- 第13条** 1年間の授業を行う期間は、定期試験期間その他の期間を含めて、35週にわたることを原則とする。

第6章 教育課程

- 第14条** 本大学各学部において開設する科目区分、授業科目、配当年次、授業の方法及び単位数は、別表1の2のとおりとする。
- 第15条** 削除
- 第16条** 学生は、毎学年の始めに当該学年において履修する授業科目を登録しなければならない。ただし、学年の途中においても、所属する教授会の議を経て、履修の登録を認めることがある。
- 2 学生は、前項により登録した授業科目以外を履修し、また単位を修得することはできない。
- 第17条** 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。
- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 演習については、15時間の授業をもって1単位とする。
ただし、授業科目により30時間の授業をもって1単位とすることができる。
 - (3) 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。
- 第17条の2** 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
- 2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることがある。
- 第18条** 学生は、本大学を卒業するためには、4年以上在学し、かつ、その所属する学部及び学科に応じ、別表1の3に定める単位以上を修得

しなければならない。ただし、卒業の要件として定める単位を優秀な成績で修得したと認めるときには、3年以上在学した者に、所属する学部の教授会の議を経て、学長が卒業を認めることができる。

第7章 教職課程及び学芸員課程

第19条 教育職員免許状を得ようとする者は、前条に規定する卒業の要件を充足し、かつ、教育職員免許法及び同法施行規則に定める科目及び単位を修得しなければならない。

- 2 本大学において開設する教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等並びに単位数は、別表2のとおりとする。
- 3 本大学の各学部学科において取得できる免許状の種類及び教科は、別表3のとおりとする。

第20条 学芸員の資格を得ようとする者は、第18条に規定する卒業の要件を充足し、かつ、博物館法及び同法施行規則に定める科目及び単位を修得しなければならない。

- 2 本大学において開設する学芸員に関する科目及び単位数は、別表4のとおりとする。

第8章 学習の評価

第21条 各授業科目の履修を修了した者には、認定の上単位を与える。

- 2 授業科目修了の認定の方法は、平素の成績及び筆記試験又は論文による。ただし、実技、実習、演習などは、平素の成績によって認定することができる。

第22条 試験等の時期は、原則として学期末又は学年末とする。ただし、各授業科目の担当が必要と認めるときは、臨時に行うことができる。

第23条 当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席した者は、当該授業科目修了の認定を受けることができない。

- 2 授業料その他の校納金未納の者は、授業科目修了の認定を受けることができない。
- 3 筆記試験で不正行為を行った者は、当該学期に履修する授業科目について、授業科目修了の認定を受けることができない。

第24条 病気等止むを得ない事情により、試験等を受けることができなかった者に対しては、教授会の議を経て、追試験を行うことがある。

第25条 授業科目の評価は秀、優、良、可及び不可の5段階に区別して表示し、不可は、未修了とする。

第26条 本大学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修とみなし、所定の単位数を限度として、所属する教授会の議を経て、単位を与えることがある。

- 2 本大学に入学する前に行った短期大学又は高等専門学校専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修とみなし、所定の単位数を限度として、所属する教授会の議を経て、単位を与えることがある。
- 3 前2項の規定は、本大学への再入学、学士入学又は転学について準用する。

第9章 卒業及び学位授与

第27条 本大学に4年以上在学し、第18条に規定する単位を修得した者に、所属する学部の教授会による議を経て学部長が卒業と認定したうえで、学長が学士の学位を授与する。ただし、他の大学に在学した年数は、これを通算する。

- 2 前項の規定にかかわらず、本大学に3年以上在学し、第18条に規定する単位を優秀な成績で修得した者に、所属する学部の教授会による議を経て学部長が卒業と認定したうえで、学長が学士の学位を授与することができる。ただし、他の大学に在学した年数は、これを通算する。
- 3 前2項に規定する本大学を卒業するために必要な単位数のうち、第17条の2第2項に規定する授業の方法により修得した単位数は、60単位を超えないものとする。

第28条 削除

第10章 入学、退学、転学及び休学

第29条 入学の時期は、学年の始めとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、学長は、必要に応じ、学年の途中においても、学期の区分に従い、学生を入学させることができる。

第30条 本大学に入学の資格を有する者は、次のとおりである。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずるもので文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達した者
- (9) 高等学校に2年以上在学した者又はこれに準ずる者であって、本大学の定める分野において特に優れた資質があると認められた者

第31条 本大学に入学を志願する者は、本大学所定の書類に別表5の入学検定料を添えて提出しなければならない。

- 2 提出の時期、方法、同時に提出すべき書類等については、別に定める。

第32条 入学は、検定によって、許可を決定する。

- 2 検定の方法は、別に定める。

第33条 本大学を退学した者又は除籍された者が再入学を希望するときは、選考の上、退学時又は除籍時に所属していた学部・学科に限り、所属を希望する学部の教授会の議を経て、学長が入学を許可することができる。

- 2 再入学の場合の入学検定料は別表5のとおりとする。
- 3 再入学の場合の授業料及びその他の校納金は、別表5のとおりとし、再入学して配属される年次の学生に現に適用されている授業料及びその他の校納金に準ずる。なお、授業料及びその他の校納金の未納のために除籍された者が再入学を許可された場合は、所定の期日までに、除籍以前に滞納した授業料及びその他の校納金相当額を納入しなければならない。

4 前3項の規定のほか、必要な手続は別に定める。

第34条 本大学又は他の大学を卒業し、学士の学位を有する者が、本大学に学士入学を希望するときは、選考の上、所属を希望する学部の教授会の議を経て、学長が入学を許可することがある。

2 学士入学の場合の入学検定料は、別表5のとおりとする。

3 前2項の規定のほか、必要な手続は別に定める。

第35条 他大学から本大学への転学は、選考の上、所属を希望する学部の教授会の議を経て、学長が入学を許可することがある。

2 転学の場合の入学検定料は別表5のとおりとする。

3 前2項の規定のほか、必要な手続は別に定める。

第36条 前5条の規定により本大学に入学を許可された者は、指定の期間内に、入学金、授業料及びその他の校納金並びに本大学の指定する書類を提出しなければならない。

2 前項の手続を怠った者には、入学許可を取り消すことがある。

第37条 病気その他の事由によって退学しようとする者は、保証人連署の上、学長に願い出なければならない。病気を理由とする退学願には、医師の診断書を添えなければならない。

第38条 転学部、転学科は、学年の始めに限り、定員を考慮しつつ選考の上、これを許可することができる。

第39条 他の大学へ入学又は転学を希望する者は、保証人連署の上、学長に願い出、所属する学部の教授会の速やかな議を経て、学長の許可を得なければならない。

第40条 病気その他やむを得ない事由により引き続き3か月以上修学することができず、休学しようとする者は、保証人連署の上、学長に願い出、所属する学部の教授会の速やかな議を経て、学長の許可を得なければならない。病気を理由とする休学の願には、医師の診断書を添えなければならない。

第41条 休学の期間は当該学年を超えることができない。ただし、特別の事由がある者については更に1年以内の休学を許可することがある。

2 休学の期間は、通算して4年を超えることができない。

3 休学の期間は、在学年数に算入しない。

第42条 休学期間満了のとき、又は休学期間中であってもその事由が消滅したときは学長の許可を得て、復学することができる。

第43条 次の各号の一に該当する者は、所属する学部の教授会の議を経て、学長が除籍することができる。

- (1) 第5条第2項に規定する在学年限を超えた者
- (2) 死亡又は行方不明の者
- (3) 授業料その他校納金を督促しても納入しない者

第11章 入学金、授業料及びその他の校納金

第44条 本大学に入学を許可された者は、別表5に掲げる入学金、授業料及びその他の校納金を納入しなければならない。

2 前項の納入金の納入時期、納入方法等必要な事項は、別に定める。

第45条 本大学の学生は、別表5に掲げる授業料及びその他の校納金を納入しなければならない。

2 前項の納入金の納入時期、納入方法等必要な事項は、別に定める。

第46条 退学又は転学をした者、除籍された者、退学を命じられた者及び停学中の者は、当該年度の授業料その他の校納金を納入しなければならない。

2 休学中の者は、当該年度の授業料及びその他の校納金を納入しなければならない。ただし、休学の期間が学期の全期間にわたる場合にはその学期について納入すべき授業料を免除することがある。

第47条 入学金、施設費、授業料のほか、実験、実習費その他教育に必要な費用を徴収することができる。

2 前項に規定する納入金の種類、金額、納入に必要な手続等については、別に定める。

第48条 学生は、在学中に授業料その他の納付金に変更があった場合には、新たに定められた金額を納付しなければならない。

第49条 既納の校納金等は返付しない。ただし、特別の事由がある場合は、この限りでない。

第12章 特待生制度

第50条 人物、学業共に優秀な学生であると認めるときは、選考の上、特待生として、授業料の全部又は一部を免除することができる。

第13章 賞 罰

第51条 人物、学業が優秀な学生又は特に推奨すべき行為のあった学生は、これを表彰する。

第52条 学生にして、本大学の規則若しくは命令に背き、又は学生の本分に反する行為があるときは、別に定めるところにより、所属する学部の教授会の速やかな議を経て、学長が懲戒を加える。

2 懲戒は譴責、停学及び退学とする。

第53条 前条の退学は、次の各号の一に該当する学生に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由がなくて出席常でない者
- (4) 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第14章 学部研究生、聴講生、科目等履修生及び留学生

第54条 本学の学生以外の者で学部において教員の指導の下に特定の事項に関する研究を行うことを希望する者（以下この条において「学部研究生」という。）があるときは、審査の上、学長は研究を許可することができる。

2 学部研究生について必要な事項は、別に定める。

第55条 本大学の学生以外の者で、本大学の開設する特定の授業科目の聴講を希望する者（以下この条において「聴講生」という。）があるときは、審査の上、学長は聴講を許可することができる。

2 本大学の学生以外の者で、本大学の開設する特定の授業科目を履修し単位を修得することを希望する者（以下この条において「科目等履修生」という。）があるときは、審査の上、学長は履修を許可することができる。

3 聴講生及び科目等履修生について必要な事項は、別に定める。

第56条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって本邦に入学し、本大学に留学することを希望する者があるときは、審査の上、外国人留学生として、学長はこれを許可することができる。

2 外国人留学生について必要な事項は、別に定める。

3 前2項の規定にかかわらず、本大学と外国の大学との協定に基づき本大学への受入れを希望する者があるときは、当該協定に基づき、受入交換留学生として受入れを許可するものとする。

第56条の2 本大学の学生で外国における留学を希望する者については、別に定める。

第15章 図書館、メディアネットワークセンター及び研究室

第57条 本大学に図書その他の文献及び研究資料を収集保管し、教職員及び学生の閲覧に供するため図書館を置く。

2 図書館に関する規則は、別に定める。

第58条 本大学に、本大学のコンピュータ、情報ネットワーク及びマルチメディア設備を管理運用することにより、本大学の教育、研究及び事務の業務に供するためメディアネットワークセンターを置く。

2 メディアネットワークセンターに関する規則は、別に定める。

第59条 各学部に学術研究の便益を図るため研究室を設ける。

2 研究室に関する規則は、別に定める。

第16章 教育施設

第60条 本大学に次の教育施設を置く。

- (1) 共通教育研究センター
- (2) データサイエンス教育研究センター
- (3) 国際センター
- (4) キャリアセンター

2 前項各号に定める教育施設に関する規則は、別に定める。

第17章 研究施設

第61条 本大学に次の研究所及び研究機構を置く。

- (1) 民俗学研究所
- (2) 経済研究所
- (3) 研究機構

2 前項各号に定める研究所及び研究機構に関する規則は、別に定める。

第18章 厚生保健施設

第62条 教職員及び学生は、別に定める規則に従って、次の施設を利用することができる。

- (1) 医療保健施設及び医療室
- (2) 山岳施設
- (3) 海水浴施設

第19章 学則の改正

第63条 この学則の改正は、教授会及び評議会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

この学則は、昭和25年4月1日から施行する。

(中略)

附 則

1 この学則は、平成14年4月1日から施行する。

2 平成13年度以前の入学者については、改正前の学則の定めるところによる。

3 学則第4条の規定にかかわらず、平成14年度の入学定員は次のとおりとする。

(学部)	(学科)	(入学定員)
経済学部	経済学科	171名
	経営学科	171名
文芸学部	文化史学科	57名
	国文学科	57名
	英文学科	67名
	芸術学科	57名
	マスコミュニケーション学科	57名
法学部	ヨーロッパ文化学科	57名
	法律学科	228名

附 則

- 1 この学則は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 平成14年度以前の入学者については、改正前の学則の定めるところによる。
- 3 学則第4条の規定にかかわらず、平成15年度の入学定員は次のとおりとする。

(学部)	(学科)	(入学定員)
経済学部	経済学科	168名
	経営学科	168名
文芸学部	文化史学科	56名
	国文学科	56名
	英文学科	64名
	芸術学科	56名
	マスコミュニケーション学科	56名
法学部	ヨーロッパ文化学科	56名
	法律学科	224名

附 則

この学則は、平成15年9月19日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 平成15年度以前の入学者については、改正前の学則の定めるところによる。
- 3 学則第4条の規定にかかわらず、平成16年度の入学定員は次のとおりとする。

(学部)	(学科)	(入学定員)
経済学部	経済学科	165名
	経営学科	165名
文芸学部	文化史学科	55名
	国文学科	55名
	英文学科	62名
	芸術学科	55名
	マスコミュニケーション学科	55名
法学部	ヨーロッパ文化学科	55名
	法律学科	220名

附 則

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 平成16年度以前の入学者については、改正前の学則の定めるところによる。
- 3 前条の規定にかかわらず、この学則第11条及び第12条の規定は、平成16年度以前の入学者についても適用する。

附 則

この学則は、平成17年10月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 平成17年度以前の入学者については、改正前の学則の定めるところによる。

附 則

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 平成18年度以前の入学者については、改正前の学則の定めるところによる。

附 則

- 1 この学則は、平成19年10月30日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 平成19年度以前の入学者については、この改正前の学則の定めるところによる。

附 則

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 平成20年度以前の入学者については、この改正前の学則の定めるところによる。

附 則

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成21年度以前の入学者については、この改正前の学則の定めるところによる。

附 則

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成22年度以前の入学者については、この改正前の学則の定めるところによる。

附 則

- 1 平成23年10月4日改正の第61条については、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成23年度以前の入学者については、この改正前の学則の定めるところによる。
- 3 前条の規定にかかわらず、この学則第1条、第11条、第12条、第23条及び第46条の規定は、平成23年度以前の入学者についても適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成24年度以前の入学者については、この改正前の学則の定めるところによる。
- 3 前条の規定にかかわらず、この学則第56条の規定は、平成24年度以前の入学者についても適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成25年度以前の入学者については、この改正前の学則の定めるところによる。
- 3 前条の規定にかかわらず、この学則第12条の規定は、平成25年度以前の入学者についても適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成26年9月25日から施行する。
- 2 平成26年度以前の入学者については、この改正前の学則の定めるところによる。

附 則

- 1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成26年度以前の入学者については、この改正前の学則の定めるところによる。

附 則

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成27年度以前の入学者については、この改正前の学則の定めるところによる。

附 則

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成28年11月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成28年度以前の入学者については、この改正前の学則の定めるところによる。

附 則

この学則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 平成29年度以前の入学者については、この改正前の学則の定めるところによる。
- 3 前項の規定にかかわらず、この学則第16条及び第26条の規定は、平成29年度以前の入学者についても適用する。

附 則

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成30年度以前の入学者については、この改正前の学則の定めるところによる。
- 3 前項の規定にかかわらず、この学則第11条の規定は、平成30年度以前の入学者についても適用する。

附 則

- 1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 令和元年度以前の入学者については、この改正前の学則の定めるところによる。
- 3 前項の規定にかかわらず、この学則第11条の規定は、令和元年度以前の入学者についても適用する。

附 則

- 1 この学則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 令和2年度以前の入学者については、この改正前の学則の定めるところによる。

附 則

この学則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 令和3年度以前の入学者については、この改正前の学則の定めるところによる。

附 則

この学則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 令和4年度以前の入学者については、この改正前の学則の定めるところによる。

別表1（第1条関係） 各学科の人材育成の目的

学 部	学 科	人 材 育 成 の 目 的
経 済 学 部	経 済 学 科	経済学科は、経済社会における諸現象を、理論、歴史および社会の幅広い視点から把握・分析する力を持った人材を育成する。また、経済社会が抱える問題に対して自ら課題を発見し解決する能力を持ち、提案および発信能力を身につけたグローバルに活躍する人材を育成する。
	経 営 学 科	経営学科は、経済社会ならびに企業経営における諸現象を、経営学に関わる学際的専門領域の幅広い視点から把握・分析する力を持った人材を育成する。また、産業社会が抱える問題に対して自ら課題を発見し解決する能力を持ち、提案および発信能力を身につけたグローバルに活躍する人材を育成する。
文 芸 学 部	国 文 学 科	国文学科では、国の文（あや）の学という名のもとに、文学作品のみならず、あらゆる日本語の表現を対象として広く、かつ深く学ぶ。古代から現代までの国語・国文学および漢文学という国文学の基本を、言葉に対する知的・感覚的習練とともに修めることで、わが国の言語・文学、さらには文化全体を的確に理解し、その識見を生かして社会に貢献しうる人を育てることを目的とする。
	英 文 学 科	英文学科は、英語文学、英語学、英語文化に関する理論的・実証的研究を通して、専門的知識、分析力、高いコミュニケーション能力を身につけることにより、英語を用いて多様化する現代社会の発展に貢献しうる、国際的教養および視野をもった人を育てることを目的とする。
	芸 術 学 科	芸術学科は、芸術各分野と美に関する理論的・歴史的研究を通して、豊かな感性と優れた知性を育み、芸術的創造や研究・啓発活動、文化財の保存・公開事業等に参画しうる人、あるいは芸術と美への深い共感と理解によって、社会や文化の発展に貢献しうる人を育てることを目的とする。
	文化史学科	文化史学科は、日本内外の社会・文化事象の成り立ちを、歴史学・民俗学・文化人類学を中心として理論的かつ実証的に研究するとともに、実践的な活動を通して、創造的な社会や文化を構想・提起する能力を持つ有為の人を育てることを目的とする。
	マスコミュニケーション学科	マスコミュニケーション学科は、現代のメディアとコミュニケーションに関する理論的・経験的研究を通して、科学的で批判的な知性を育み、現代社会への洞察力に満ちた理解によって市民社会の発展に貢献しうる人を育てることを目的とする。とくに、報道・広告・広報活動、情報機器を介したコミュニケーション活動、社会調査、さらに、ヒューマンサービスのコミュニケーション的側面からの支援活動などにおいて活躍しうる人を育てる。
	ヨーロッパ文化学科	ヨーロッパ文化学科では、ヨーロッパの言語、とりわけドイツ語・フランス語を基礎に、哲学・歴史・文学・芸術など多分野にわたるヨーロッパの文化に関する理論的・実証的研究を通して、広い視野をもち、国際化の時代を生きるために不可欠な教養と高邁な理念とを備えた、有為な人を育てることを目的とする。
法 学 部	法 律 学 科	法律学科は、法的なものの方・考え方を身につけることをめざし、現代の法律学を体系的に学ぶことによって、深い理解力、確かな判断力、豊かな想像力をもった人材を育成することを目的とする。
社会イノベーション学部	政策イノベーション学科	政策イノベーション学科は、社会に持続可能な発展をもたらすイノベーションの創出・推進について学問横断的に理解し、社会に貢献する意欲をもって、自らそれらに関連する問題を発見・設定・解決し、その成果を論理的に日本語で表現する能力及び実践的に英語でコミュニケーションする能力を活用して伝達することができる、社会に有為な人材を育成することを目的とする。
	心理社会学科	心理社会学科は、社会に持続可能な発展をもたらすイノベーションの生成・普及・受容・社会や文化への影響について学問横断的に理解し、社会に貢献する意欲をもって、自らそれらに関連する問題を発見・設定・解決し、その成果を論理的に日本語で表現する能力及び実践的に英語でコミュニケーションする能力を活用して伝達することができる、社会に有為な人材を育成することを目的とする。

学 則 ・ そ の 他

別表1の2（第14条関係）（省略）

別表1の3（第18条関係） 卒業要件単位数

（1）経済学部

経済学科

基礎科目	語学	英語	8単位
		第二外国語	6単位
専門科目	基礎数理		4単位
	ゼミナール		12単位
	専門基礎必修科目		6単位
	専門基礎選択科目		16単位
自由設計科目	専門選択科目		34単位
	推奨科目		20単位
	一般科目		18単位
卒業要件単位数合計			124単位

経営学科

基礎科目	語学	英語	8単位
		第二外国語	6単位
専門科目	初年次教育科目		8単位
	ゼミナール		12単位
	専門基礎科目		8単位
自由設計科目	専門選択科目		44単位
	専門関連科目		20単位
	教養科目		18単位
卒業要件単位数合計			124単位

（2）文芸学部

国文学科

共通科目			
必修科目			6単位
選択科目	教養科目		16単位
	外国語科目		
	学部共通外国語		12単位
学科科目			
必修科目			34単位
選択科目	演習		14単位
	講義		12単位
共通科目及び学科科目の卒業要件単位数を超えて修得する単位と、他学科の学科科目を履修して修得する単位（ただし、いずれも学科で指定する限度までとする）			30単位
卒業要件単位数合計			124単位

英文学科

共通科目		
必修科目		6単位
選択科目	教養科目	16単位
	外国語科目	
	学部共通外国語	14単位
学科科目		
必修科目		28単位
選択科目	演習	20単位
	講義	12単位
共通科目及び学科科目の卒業要件単位数を超えて修得する単位と、他学科の学科科目を履修して修得する単位（ただし、いずれも学科で指定する限度までとする）		30単位
卒業要件単位数合計		126単位

芸術学科

共通科目		
必修科目		6単位
選択科目	教養科目	16単位
	外国語科目	
	学部共通外国語	12単位
学科科目		
必修科目		26単位
選択科目	演習	12単位
	講義	20単位
共通科目及び学科科目の卒業要件単位数を超えて修得する単位と、他学科の学科科目を履修して修得する単位（ただし、いずれも学科で指定する限度までとする）		32単位
卒業要件単位数合計		124単位

文化史学科

共通科目		
必修科目		6単位
選択科目	教養科目	16単位
	外国語科目	
	学部共通外国語	12単位
学科科目		
必修科目		16単位
選択科目	演習	18単位
	講義	28単位
共通科目及び学科科目の卒業要件単位数を超えて修得する単位と、他学科の学科科目を履修して修得する単位（ただし、いずれも学科で指定する限度までとする）		32単位
卒業要件単位数合計		128単位

マスコミュニケーション学科

共通科目		
必修科目		6単位
選択科目	教養科目	16単位
	外国語科目	
	学部共通外国語	12単位
学科科目		
必修科目		24単位
選択科目	演習	2単位
	講義	36単位
共通科目及び学科科目の卒業要件単位数を超えて修得する単位と、他学科の学科科目を履修して修得する単位（ただし、いずれも学科で指定する限度までとする）		32単位
卒業要件単位数合計		128単位

ヨーロッパ文化学科

共通科目		
必修科目		6単位
選択科目	教養科目	16単位
	外国語科目	
	学部共通外国語	16単位
学科科目		
必修科目		25単位
選択科目	演習	20単位
	講義	12単位
共通科目及び学科科目の卒業要件単位数を超えて修得する単位と、他学科の学科科目を履修して修得する単位（ただし、いずれも学科で指定する限度までとする）		29単位
卒業要件単位数合計		124単位

(3) 法学部

法律学科

基礎部門		
教養科目		12単位
外国語科目		
必修英語		2単位
必修独語又は仏語		4単位
選択必修英語、独語、仏語		8単位
他に、教養科目及び選択必修英語、独語、仏語並びに特別外国語、キャリアデザイン科目の中から任意に選択した科目		4単位
卒業要件単位数小計		30単位
専門部門		
必修科目		40単位
選択必修科目		20単位
自由選択科目		40単位
卒業要件単位数小計		100単位
卒業要件単位数合計		130単位

(4) 社会イノベーション学部

政策イノベーション学科

外国語科目	必修	14単位
基礎科目	必修	8単位
	選択A	12単位
	選択B	4単位
	選択C	4単位
専門科目	必修	16単位
	選択A	32単位
	選択B	14単位
総合教養科目		12単位
学部共通科目		6単位
一般共通科目		4単位
卒業要件単位数合計		126単位

心理社会学科

外国語科目	必修	14単位
基礎科目	必修	8単位
	選択A	12単位
	選択B	4単位
	選択C	4単位
専門科目	必修	16単位
	選択A	32単位
	選択B	14単位
総合教養科目		12単位
学部共通科目		6単位
一般共通科目		4単位
卒業要件単位数合計		126単位

別表2（第19条関係） 教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等並びに単位数
（経済学部・文芸学部・法学部）

授 業 科 目	必修単位	選択必修単位
教 育 原 論 I（教育の制度と社会）	2	
教 育 原 論 II（教育課程の意義と編成）	2	
教 師 論	2	
教 育 史	2	
教 育 心 理 学		2
青 年 心 理 学		2
特 別 支 援 教 育 概 論	2	
特 別 活 動 の 指 導 法（総合的な学習の時間の指導法を含む）	2	
教 育 方 法 学 （情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	2	
道 徳 教 育 の 指 導 法	2	
生 徒 指 導 論（教育相談、進路指導及びキャリア教育を含む）	4	
国 語 科 教 育 法 A	4	
国 語 科 教 育 法 B	4	
英 語 科 教 育 法 A	4	
英 語 科 教 育 法 B	4	
社 会 科 ・ 地 理 歴 史 科 教 育 法 A	2	
社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法 A	2	
社 会 科 ・ 地 理 歴 史 科 教 育 法 B	4	
社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法 B	4	
独 語 科 教 育 法 A	4	
独 語 科 教 育 法 B	4	
仏 語 科 教 育 法 A	4	
仏 語 科 教 育 法 B	4	
国 語 科 教 育 実 習（高）		3
国 語 科 教 育 実 習（中・高）		5
英 語 科 教 育 実 習（高）		3
英 語 科 教 育 実 習（中・高）		5
社 会 系 教 育 実 習（高）		3
社 会 系 教 育 実 習（中・高）		5
独 語 科 教 育 実 習（高）		3
独 語 科 教 育 実 習（中・高）		5
仏 語 科 教 育 実 習（高）		3
仏 語 科 教 育 実 習（中・高）		5
教 職 実 践 演 習（中・高）	2	

学則・その他

別表3 (第19条関係) 教員免許状の種類及び教科

学 部	学 科	免許状の種類	免許教科
経 済 学 部	経 済 学 科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社 会 地 理 歴 史 公 民
	経 営 学 科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社 会 地 理 歴 史 公 民
文 芸 学 部	国 文 学 科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国 語
	英 文 学 科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英 語 英 語
	文 化 史 学 科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社 会 地 理 歴 史 公 民
	ヨーロッパ文化学科	中学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	ドイ ツ 語 フ ラ ン ス 語 ドイ ツ 語 フ ラ ン ス 語
法 学 部	法 律 学 科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社 会 地 理 歴 史 公 民

別表4 学芸員に関する科目及び単位数 (文芸学部)

授 業 科 目	必修単位	選択必修単位
生涯学習概論	2	
博物館概論	2	
博物館経営論	2	
博物館資料論	2	
博物館資料保存論	2	
博物館展示論	2	
博物館教育論	2	
博物館情報・メディア論	2	
博物館実習(美術史)		3
博物館実習(民俗学)		3
博物館実習(考古学)		3

別表5 (第31条、第33条、第34条、第35条、第44条、第45条関係) 入学検定料及び校納金

入学検定料

入学者選抜方式	入学検定料
A方式等	35,000円
B方式	15,000円
S方式	30,000円

複数の学部・学科ないし入学者選抜方式に同時出願する場合の入学検定料については、別に定める。

注 A方式等とは、A方式(学部別選抜)、総合型選抜、再入学者選抜、学士入学者選抜、及び転学者選抜等をいう。

B方式とは、大学入学共通テスト利用選抜をいう。

S方式とは、全学部統一選抜をいう。

校納金

1. 入学者

種 目	年 額	納 入 時	種 目	年 額	納 入 時
入 学 金	200,000円	入学年度のみ	教育充実費	70,000円	
授 業 料	800,000円		学習図書整備費	10,000円	
施 設 費	250,000円				

(ア) 学士入学者が、本学卒業者である場合の入学金の額については別に定める。

2. 在学者

種 目	年 額
授 業 料	800,000円
施 設 費	250,000円
教育充実費	70,000円
学習図書整備費	10,000円

(イ) 前期末で卒業すること(以下「秋卒業」という。)が見込まれる者の学費については別に定める。

(ロ) 平成8年度以前の入学者については、改正前の学則の定めるところによる。

(ハ) 平成16年度以前の入学者については、改正前の学則の定めるところによる。

(ニ) 平成24年度以前の入学者については、改正前の学則の定めるところによる。

(ホ) 平成26年度以前の入学者については、改正前の学則の定めるところによる。

(ヘ) 平成28年度以前の入学者については、改正前の学則の定めるところによる。

(ニ) 令和元年度以前の入学者については、改正前の学則の定めるところによる。

※最新の成城大学学則については、成城大学ホームページをご覧ください。

学則・その他

成城大学学位規則

(目 的)

第1条 この規則は、学位規則（昭和28年文部省令第9号）第13条第1項並びに成城大学学則（以下「大学学則」という。）第27条及び成城大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第22条の規定に基づき、成城大学（以下「本学」という。）が授与する学位について、必要な事項を定めることを目的とする。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

2 学士の学位には、次のとおり専攻分野の名称を付記する。

経済学部	経済学
文芸学部	文学
法 学 部	法学
社会イノベーション学部	社会イノベーション学

3 修士の学位には、次のとおり専攻分野の名称を付記する。

経済学研究科	経済学
文学研究科	文学
法学研究科	法学
社会イノベーション研究科	社会イノベーション学

4 博士の学位には、次のとおり専攻分野の名称を付記する。

経済学研究科	経済学
文学研究科	文学
法学研究科	法学
社会イノベーション研究科	社会イノベーション学

(学士の学位授与の要件)

第3条 学士の学位は、大学学則第27条の定めるところにより、本学の学部を卒業した者に授与する。

(修士の学位授与の要件及び論文の提出)

第4条 修士の学位は、大学院学則第20条の定めるところにより、本学大学院研究科博士課程前期を修了した者に授与する。

2 大学院学則第20条第2項の定めにより、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代える場合において、この規則の「修士論文」を、「特定の課題についての研究の成果」と読み替える。

3 修士論文は、各研究科の定めるところにより、当該研究科長に提出するものとする。

4 前項の修士論文は、各研究科博士課程前期の在学年限内に限り提出することができる。

(博士の学位授与の要件及び論文の提出)

第5条 博士の学位は、大学院学則第21条の定めるところにより、本学大学院研究科博士課程後期を修了した者に授与する。

2 各研究科博士課程後期に在学する者が博士論文の審査を申請するときは、博士論文審査申請書及び博士論文に、論文の内容の要旨を添えて、各研究科の定めるところにより、当該研究科長に提出するものとする。

第6条 博士の学位は、本学大学院の博士課程を経ない者であっても、博士論文を提出してその審査と試験に合格し、本学大学院の博士課程を修了して学位を授与された者と同等以上の学力を有することを確認（以下「学力の確認」という。）された者には、これを授与することができる。

2 前項による博士の学位の授与の申請に当たっては、学位申請書及び博士論文に、論文の内容の要旨、論文目録、履歴書、論文審査手数料を添え、博士論文の審査を受けようとする研究科を指定して、学長に提出するものとする。

3 本学大学院各研究科博士課程に所定の標準修業年限以上在学し、所定の単位を修得したのみで退学した者が、再入学しないで博士の学位の授与を申請するときも、前2項の規定を準用する。ただし、退学後3年以内に博士論文を提出するときは、論文審査手数料を納付することを要しない。

4 学長は、前2項の規定による学位の授与の申請を受理したときは、学位の専攻分野に応じて、当該研究科教授会の審査に付さなければなら

ない。

5 第2項又は第3項の規定により提出された博士論文及び納付された論文審査手数料は、還付しない。

6 第2項又は第3項の規定にいう論文審査手数料の額は別に定める。

第7条 (削除)

(修士論文及び博士論文)

第8条 修士論文及び博士論文は1篇とし、当該論文の提出方法等について必要な事項は、別に定める。

2 審査のため必要があるときは、論文の訳文、模型又は標本等の材料を提出させることができる。

(審査委員)

第9条 修士論文及び博士論文の審査は、当該研究科教授会が所属教員の中から委嘱する審査委員によって行う。

2 前項の審査委員は、次のとおりとする。

(1) 第4条の規定による修士の学位及び第5条の規定による博士の学位については、指導教員を主査とし、専攻科目及び関連科目の授業担当教員の中から2名以上を副査とする。

(2) 第6条第1項及び第3項の規定による博士の学位については、当該専門分野の授業担当教員の中から1名を主査とし、専攻分野及び関連分野の授業担当教員2名以上を副査とする。

3 研究科教授会は、審査のため必要があると認めるときは、第1項の規定にかかわらず、他の研究科教員又は他の大学院若しくは研究所等の教員等を審査委員に加えることができる。

(修士論文及び博士論文の審査、試験及び学力の確認)

第10条 修士論文及び博士論文の審査委員は、論文の審査のほか、第4条及び第5条に規定する最終試験又は第6条に規定する試験と学力の確認を行う。

2 最終試験及び試験は、修士論文及び博士論文を中心として、これに関連のある科目について行う。

3 学力の確認は、口頭又は筆答により、専攻分野及び外国語について行う。

4 前項に規定する外国語については、原則として2か国語を課する。

5 第6条第3項の規定により学位の授与を申請する者が、退学してから5年以内に博士論文を提出したときは、第3項に規定する学力の確認を行わないことができる。

(審査期間)

第11条 審査委員は、修士論文については各研究科の定める期日までに、博士論文については論文の提出があった日から1年以内に、所定の審査の終了をしなければならない。ただし、特別の事由があるときは、研究科教授会の議を経て、その期間を1年以内に限り延長することができる。

(審査委員の報告)

第12条 第4条の規定による修士論文の審査委員は、論文の審査及び最終試験を終了したときは、直ちにその結果の要旨を、合否についての意見を添えて、当該研究科教授会に文書で報告しなければならない。

第13条 第5条の規定による博士論文の審査委員は、論文の審査及び最終試験を終了したときは、直ちにその結果の要旨を、合否についての意見を添えて、当該研究科教授会に文書で報告しなければならない。

第14条 第6条第1項又は第3項の規定による博士論文の審査委員は、論文の審査、試験及び学力の確認を終了したときは、直ちにその結果の要旨を、合否についての意見を添えて、当該研究科教授会に文書で報告しなければならない。

2 審査委員は、前項の博士論文の審査の結果、その内容が著しく不良であると認めるときは、試験及び学力の確認を省略して、審査報告を行うことができる。

(研究科教授会の審議)

第15条 研究科教授会は、第12条及び第13条に定める報告に基づいて審議し、課程修了の可否について議決する。

2 研究科教授会は、第14条に定める報告に基づいて審議し、学位授与の可否について議決する。

3 前2項の議決には、当該研究科教授会構成員の3分の2以上の出席を要し、課程を修了できるあるいは学位を授与できるものと議決するには、出席教員の3分の2以上の賛成がなければならない。

(研究科長の報告)

第16条 研究科教授会が、前条第3項に定める議決をしたときは、当該研究科長は博士論文に、論文の内容の要旨、論文審査の結果の要旨、最終試験又は試験の結果の要旨及び学力の確認の結果の要旨を添えて、課程修了又は学位授与の可否について文書で学長に報告しなければならない。

ない。ただし、試験及び学力の確認を経ないで、学位を授与できないものと議決したときは、試験の結果の要旨及び学力の確認の要旨を添付することを要しない。

(修士及び博士の学位の授与)

第17条 学長は、前条の報告に基づき、修士及び博士の学位授与について決定する。ただし、第6条第1項及び第3項の規定による博士の学位授与については、大学院協議会の協議を経て、決定する。

第18条 学長は、修士及び博士の学位を授与すべき者には所定の学位記を交付し、当該学位を授与できない者にはその旨通知する。

- 2 修士の学位授与の時期は毎年3月及び9月とする。
- 3 博士の学位授与の時期は、その都度定める。

(博士論文の要旨、審査の結果の要旨及び博士論文の公表)

第19条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表する。

第20条 博士の学位を授与された者は、授与された日から1年以内に、当該博士論文を公表しなければならない。ただし、当該学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

- 2 前項の規定にかかわらず、やむをえない事由がある場合には、当該学位を授与された者は、本学の承認を受けて、当該博士論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合、本学は当該博士論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
- 3 前2項の規定により博士論文の全文又はその要約を公表する場合には、本学審査学位論文である旨を明記しなければならない。
- 4 博士の学位を授与された者が行う前3項の規定による公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

(学位の名称)

第21条 学位を授与された者が、その学位の名称を用いるときは、本学名を付記するものとする。

(博士の学位授与の取消し)

第22条 博士の学位を授与された者が、不正の方法により学位を受けた事実が判明したとき、又はその名誉を汚す行為をしたときは、学長は当該研究科教授会の議決に基づき、大学院協議会の協議を経て、その学位を取り消し、学位記を還付させ、かつ、その旨を公表するものとする。

- 2 前項の研究科教授会の議決は、第15条第2項の規定を準用する。

(登 録)

第23条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は学位簿に登録し、当該学位を授与した日から3月以内に、所定の学位（博士）授与報告書を文部科学大臣に提出するものとする。

(学位記の再交付)

第24条 学位記の再交付を受けようとする者は、その事由を記載した申請書に手数料5,000円を添えて、学長に願出しなければならない。

(学位記及び書類の様式)

第25条 学位記の様式は、別表のとおりとする。

第26条 学位申請関係書類等の様式は、別に定める。

附 則

この規則は、昭和57年10月26日から施行する。

(中略)

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

ただし、平成16年度以前に入学した者は従前の規則の定めるところによる。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年2月23日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年1月31日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。ただし、別表2及び別表2の2については、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。ただし、平成26年3月31日以前に本学大学院博士課程後期に入学又は進学した者については、別表2、別表2の2及び別表3は、従前の規則の定めるところによるものとする。なお、2の場合には、「ただし書き」とあるものを「ただし書」と読み替え、「および」とあるものを「及び」と書き換えるものとする。

附 則

この規則は、平成28年11月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

別 表 (第25条関係)

1. 第3条の規定により授与する学位記の様式

○第 号

学 位 記

氏 名

年 月 日生

本学○○学部○○学科所定の
課程を修めたことを認める

成城大学○○学部長 氏名 印

本学○○学部長の認定により
学士 () の学位を授与する

年 月 日

成城大学学長 氏 名 印

(様式1)

学則・その他

2. 第4条及び第5条の規定により授与する修士及び博士(課程)の学位記の様式

○研第 号
甲第 号

学 位 記

氏 名

年 月 日生

本学大学院○○研究科○○専攻の
博士課程前期
博士課程後期
修得し修士論文
博士論文
において所定の単位を
の審査及び最終試験に
合格したことにより所定の課程を修めたことを認める

成城大学大学院
○○研究科長 氏 名 印

本学大学院○○研究科長の認定により

修士 (○○学) の学位を授与する
博士

年 月 日

成城大学学長 氏 名 印

(様式2)

注 第4条の規定による場合は上段を、第5条の規定による場合は下段とする。

2の2. (削除)

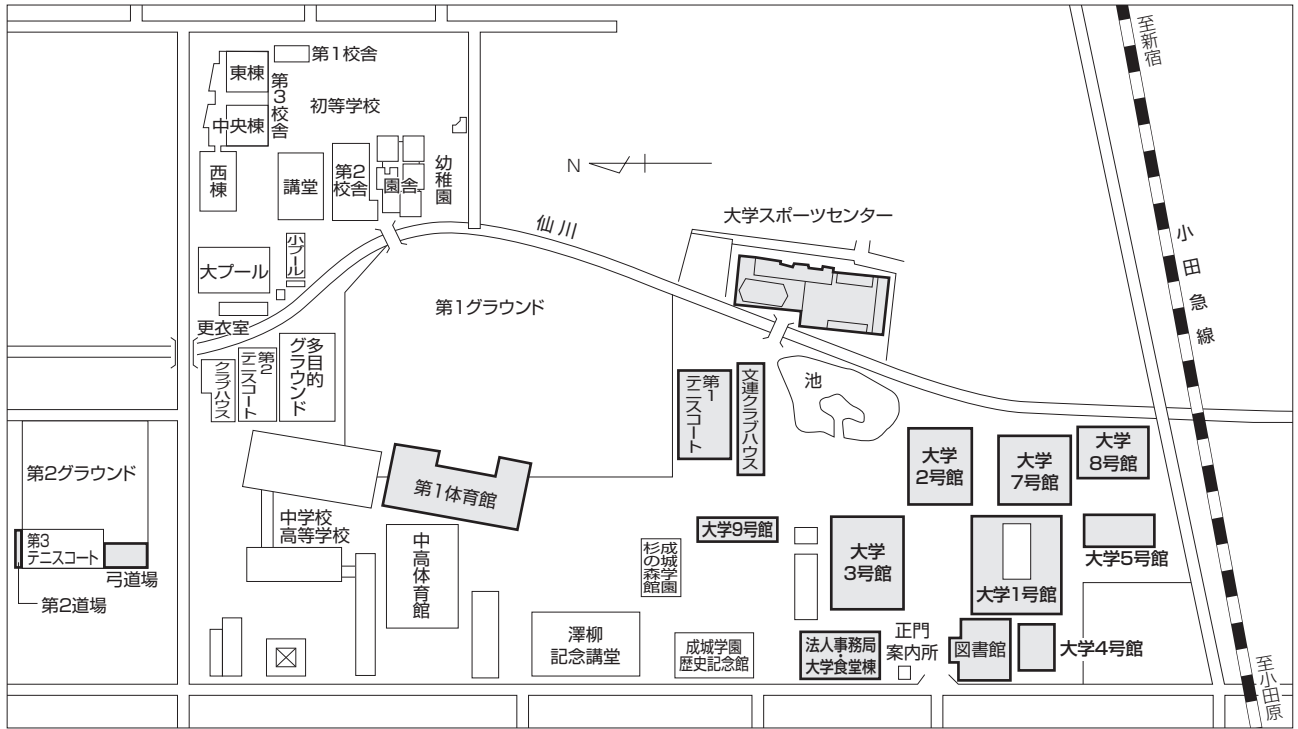
3. 第6条第1項及び第3項の規定により授与する博士（論文）の学位記の様式

(様式3)

乙第 号
学 位 記
氏 名
年 月 日生
本学に下記の論文を提出して学位を請求し 本研究科教授会の審査及び試験に合格した ことを認める
論文題目 ○○○○
成城大学大学院 氏 名 印 ○○ 研究科長
本学大学院○○研究科長の認定により 博士（○○学）の学位を授与する
年 月 日
成城大学学長 氏 名 印

※最新の成城大学学位規則については、成城大学ホームページをご覧ください。

成城学園配置図



大学校舎案内

■ 1号館

4F	141～147教室
3F	131～137教室
2F	121～124教室 非常勤講師控室、キャリアセンター
1F	教務部、学生部、なんでも相談窓口、 キャリアセンター（受付、資料室、 セミナールーム）、保健室、 なんでも相談室、学生フロア

■ 2号館

4F	241～248教室
3F	231～238教室、 社会イノベーション学部学生共同研究室、 社会イノベーション学部心理実験室
2F	学びの森事務局、研究機構事務室、 教育イノベーションセンター 社会イノベーション研究科院生講義室、 社会イノベーション研究科院生研究室
1F	総務課、管理課、入学センター、大学学長室
BF	002教室、第2学生ホール

■ 3号館

8F	教員研究室
7F	教員研究室
6F	教員研究室
5F	教員研究室
4F	経済学部共用研究室、経済学部専任講師控室、 経済学部長室、経済学部研究事務室、 経済学研究科長室、社会イノベーション学部長室、 社会イノベーション学部研究事務室、 社会イノベーション研究科長室、教員研究室
3F	文芸学部共用研究室、文芸学部長室、 文学研究科長室、雑誌室、教員研究室
2F	321、322教室、32A～32L教室
1F	311、312教室、学生ホール、ピアサポートルーム
BF	003、301～304教室

■ 4号館

4F	443～445教室、大学院学生研究室
3F	民俗学研究所
2F	経済研究所、グローバル研究センター、 大学院院生研究室
1F	学生相談室、バリアフリー相談室、 文芸学部資料室

■ 5号館

4F	教員研究室
3F	53A～53M教室
2F	521～526教室
1F	法学部長室、法学部研究事務室受付、 法学部専任教員室、教員研究室、 大学院院生研究室、法学研究科長室
BF	法学資料室

■ 7号館

4F	007教室
3F	731～733教室
2F	721～726教室
1F	711～716教室
BF	学生ラウンジ

■ 8号館

4F	008教室
3F	831、832教室
2F	821～823教室
1F	Lounge #08、 メディアネットワークセンター
B1F	804教室、ラウンジ
B2F	801～803教室

■ 9号館

3F	共通教育研究センター、 教職課程教室・資料室、 学芸員課程教室・資料室、 教員研究室
2F	データサイエンス教育研究センター、 ラーニングcommons、 データサイエンススクエア・ワークショップ、 教員研究室
1F	国際センター、 成城グローバルラウンジ・ミーティング・スペース、 91A～91F

■ 法人事務局・大学食堂棟

2F	法人事務局（総務部・財務部・ 企画広報部）、同窓会事務局 他
1F	学生食堂、SEIJO×10（売店）
BF	SEIJO ちかばん、学生会活動室 他

■ 大学スポーツセンター

■ 弓道場

■ 第2道場

■ 第1体育館

■ 第1テニスコート

■ 文連クラブハウス

■ 図書館

学則・その他

成城大学 社会イノベーション学部
履修の手引

2023年4月発行

〒157-8511 東京都世田谷区成城6-1-20
成城大学 教務部
TEL. 03-3482-9045

授業科目の新設・名称変更・廃講 一覧表

授業科目の新設

新設年度	授業科目名	備考
2023年度	地域イノベーション論	政策イノベーション学科:専門科目 選択A 政策系科目 心理社会学科:専門科目 選択B 政策系科目
	コミュニケーション・デザイン実践演習	<両学科共通> 専門科目 選択A 学科共通科目
	Special Topics VA Special Topics VB	総合教養科目
2022年度	English I: Social Interaction [a]・[b] English I: Academic Interaction [a]・[b]	外国語科目 必修
	認知心理学 I 認知心理学 II	政策イノベーション学科:専門科目 選択B 心理系科目 心理社会学科:専門科目 選択A 心理系科目
	日本社会文化論 I・II アメリカ社会文化論 I・II 現代社会福祉論 ケアの社会学 宗教社会論 I・II	政策イノベーション学科:専門科目 選択B 社会系科目 心理社会学科:専門科目 選択A 社会系科目
	データサイエンス・ワークフロー・プログラム データサイエンス特殊講義 I～IV 機械学習応用	2022年度以降入学者のみ履修可 総合教養科目
	数理科学基礎a・b 数理科学応用a・b	総合教養科目
2021年度	日本語(初級) IA・IB 日本語(初級) IIIA・IIIB 日本語(初級) IIA・IIB 日本語(初級) IVA・IVB	学部共通科目
2020年度	政策イノベーション特殊講義 II	政策イノベーション学科:専門科目 選択A 学科共通科目 心理社会学科:専門科目 選択B 学科共通科目
	環境社会論 I 環境社会論 II	政策イノベーション学科:専門科目 選択B 社会系科目 心理社会学科:専門科目 選択A 社会系科目
	韓国語会話選択a・b デイブロム・コース中級(韓国語)a・b デイブロム・コース中級(スペイン語)a・b	学部共通科目
2019年度	国際協力・開発イノベーション論	政策イノベーション学科:専門科目 選択A 政策系科目 心理社会学科:専門科目 選択B 政策系科目
	グローバル・イノベーション・マネジメント論	政策イノベーション学科:専門科目 選択A 戦略系科目 心理社会学科:専門科目 選択B 戦略系科目
	日本語(初級) IA・IB 日本語(上級) IA・IB 日本語(中級) IA・IB 日本語(上級) IIA・IIB 日本語(中級) IIA・IIB 日本語(上級) IIIA・IIIB 日本語(中級) IIIA・IIIB 日本語(上級) IVA・IVB 日本語(中級) IVA・IVB 日本語(上級) VA・VB	学部共通科目
2018年度	Special Topics IVA・IVB	総合教養科目
	英語リスニング&スピーキング(初級)a・b 英語リスニング&スピーキング(中級)a・b 英語リスニング&スピーキング(上級)a・b 英語リーディング&ライティング(初級)a・b 英語リーディング&ライティング(中級)a・b 英語リーディング&ライティング(上級)a・b 英会話選択a・b ビジネス英語a・b 英文多読a・b Academic Communication a・b 独会話選択a・b 独語選択(初級) Ia・Ib 独語選択(初級) IIA・IIB 独語選択(中級)a・b 仏会話選択a・b 仏語選択(初級) Ia・Ib	学部共通科目
	海外短期語学研修(英語・春季) 海外短期語学研修(英語・夏季) 海外短期語学研修(独語・春季) 海外短期語学研修(仏語・春季) 海外短期語学研修(中国語・夏季) 海外短期語学研修(英語・就業体験準備)	

授業科目の名称変更

変更年度	新 授 業 科 目 名	旧 授 業 科 目 名	備 考
2023年度	イノベーション概論[a]	イノベーション概論	基礎科目 必修科目
	イノベーション概論[b]	科学技術と社会	
	イノベーション・マネジメント実践演習	社会イノベーション特殊演習	<両学科共通> 専門科目 選択A 学科共通科目
2022年度	データサイエンス基礎	データサイエンス入門Ⅰ	総合教養科目
	データアナリティクス基礎	データサイエンス入門Ⅱ	
	データアナリティクス応用	データサイエンス応用	
	機械学習基礎	データサイエンス・スキルアップ・プログラム	
2020年度	政策イノベーション特殊講義Ⅰ	政策イノベーション特殊講義	政策イノベーション学科:専門科目 選択A 学科共通科目 心理社会学科:専門科目 選択B 学科共通科目
2018年度	ディプロム・コース中級(独語)a	ディプロム・コース中級(独語)A	学部共通科目
	ディプロム・コース中級(独語)b	ディプロム・コース中級(独語)B	
	ディプロム・コース上級(独語)a	ディプロム・コース上級(独語)A	
	ディプロム・コース上級(独語)b	ディプロム・コース上級(独語)B	
	ディプロム・コース中級(仏語)a	ディプロム・コース中級(仏語)A	
	ディプロム・コース中級(仏語)b	ディプロム・コース中級(仏語)B	
	ディプロム・コース上級(仏語)a	ディプロム・コース上級(仏語)A	
	ディプロム・コース上級(仏語)b	ディプロム・コース上級(仏語)B	

※旧名称の科目の単位を修得している場合は、新名称の科目を履修することができない。

授業科目の廃講

廃講年度	授業科目名	備 考
2022年度	不動産開発論 都市開発論	政策イノベーション学科:専門科目 選択A 政策系科目 心理社会学科:専門科目 選択B 政策系科目
	ロジスティクス論	政策イノベーション学科:専門科目 選択A 戦略系科目 心理社会学科:専門科目 選択B 戦略系科目
	Academic Skills VIA Academic Skills VIB	一般共通科目
2021年度	English I: Social Interaction English I: Academic Interaction	外国語科目 必修
	認知心理学	政策イノベーション学科:専門科目 選択B 心理系科目 心理社会学科:専門科目 選択A 心理系科目
	日本社会文化論 アメリカ社会文化論 宗教社会論 生活福祉論	政策イノベーション学科:専門科目 選択B 社会系科目 心理社会学科:専門科目 選択A 社会系科目
	数理科学 I a~ II b	総合教養科目
2020年度	日本語(初級) I A・I B	学部共通科目
2019年度	環境社会論	政策イノベーション学科:専門科目 選択B 社会系科目 心理社会学科:専門科目 選択A 社会系科目
	Academic Communication a・b スペイン語選択(中級・ディプロム)a・b 韓国語選択(中級・ディプロム)a・b	学部共通科目
2018年度	日本語A 日本語B	学部共通科目
2017年度	選択英語a・b	2017年度入学者のみ:学部共通科目
	選択英語	2016年度入学者:学部共通科目
	英語リスニング&スピーキング(初級) 英語リスニング&スピーキング(中級) 英語リスニング&スピーキング(上級) 英語リーディング&ライティング(初級) 英語リーディング&ライティング(中級) 英語リーディング&ライティング(上級) 英会話選択 ビジネス英語 英文多読 Academic Communication 独会話選択 独語選択(初級)A・B 独語選択(中級) 仏会話選択 仏語選択(初級)A・B 仏語選択(中級) スペイン語選択(初級) スペイン語選択(中級・ディプロム) 中国語選択(初級)A・B 中国語選択(中級) 韓国語選択(初級) 韓国語選択(中級・ディプロム) 海外短期語学研修 日本語コミュニケーションA・B	学部共通科目

※修得した単位は各分野・区分の単位として認められる。
※廃講年度は、その科目が最後に開講された年度を示す。